

HP Operations Agent

Windows[®]、HP-UX、Solaris、Linux、および AIX オペレーティング システム向け

ソフトウェア バージョン : 11.00

インストール ガイド

ドキュメント リリース日付 : 2010 年 10 月
ソフトウェア リリース日付 : 2010 年 10 月



ご注意

保証について

HP 製品およびサービスに関する保証は、これらの製品およびサービスに付随する明示的保証書に記載された内容に限定されます。本文書には、追加の保証を規定している箇所はありません。HP は、本文書に含まれる技術的または編集上の誤りや遺漏に対して、責任を負わないものとします。

この情報は予告なしに変更されることがあります。

法律上の権利の制限について

本書で取り扱っているコンピュータ ソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HP から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェアのドキュメント、および商用アイテムの技術データは、ベンダの標準商用ライセンスに基づいて米国政府にライセンスが付与されます。

著作権について

© Copyright 2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Intel® および Itanium® は、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Microsoft®、Windows®、Windows® XP、および Windows Vista® は、Microsoft Corporation の米国内での登録商標です。

UNIX® は The Open Group の登録商標です。

謝辞

本製品には、Eric Young (eay@cryptsoft.com) 氏によって作成された暗号化ソフトウェアが含まれています。

本製品には、OpenSSL ツールキットで使用するために OpenSSL プロジェクトによって開発されたソフトウェアが含まれています (<http://www.openssl.org/>)。

本製品には、Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com) 氏によって作成されたソフトウェアが含まれています。

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。

この製品には、「zlib」汎用圧縮ライブラリのインターフェイス (Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler) が含まれています。

本製品には、Carnegie Mellon University によって作成されたソフトウェア (Copyright 1989, 1991, 1992 Carnegie Mellon University) が含まれています。

本製品には、The Regents of the University of California によって作成されたソフトウェア (Copyright 1996, 1998-2000 The Regents of the University of California) が含まれています。

ドキュメントのアップデートについて

本書のタイトル ページには、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョンを示すソフトウェア バージョン番号。
- ドキュメントが更新されるたびに変更される、ドキュメントのリリース日。
- このバージョンのソフトウェアのリリース日を示す、ソフトウェアのリリース日。

最新の更新を確認する、またはドキュメントの最新エディションを使用しているかどうかを確認するには、以下の URL にアクセスしてください。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトでは、HP Passport への登録とサイン インが必要となります。HP Passport ID を登録するには、次の URL にアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport のログイン ページで **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品サポート サービスに登録することで、本書の最新版を受け取ることもできます。詳細は、正規販売代理店にお問い合わせください。

サポート

以下の HP ソフトウェア サポート オンライン Web サイトにアクセスしてください。

www.hp.com/go/hpsoftwaresupport

この Web サイトには HP Software の製品、サービス、サポートに関する詳細情報と連絡先が示してあります。

HP ソフトウェア サポート オンライン Web サイトでは、セルフソルブ技術情報を提供しています。ここでは、ビジネスの管理に必要なインタラクティブ テクニカル サポート ツールに迅速かつ効率的にアクセスできます。サポート契約されているお客様がサポート サイトで実行できることは以下のとおりです。

- 関心のある情報について技術情報ドキュメントを検索する
- サポート ケースと改善依頼を記録 / 追跡する
- ソフトウェア パッチをダウンロードする
- サポート契約を管理する
- HP のサポート契約を参照する
- 利用できるサービスに関する情報を参照する
- 他のソフトウェア利用者と意見を交換する
- ソフトウェア トレーニングの情報を調べ、登録する

ほとんどのサポート領域では、HP Passport ユーザーとして登録し、サイン インする必要があります。また、多くの場合、サポート契約が必要となります。HP Passport ユーザー ID を登録するには、次の URL にアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

サポートのアクセス レベルの詳細を確認するには、以下の URL にアクセスしてください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

目次

1	はじめに	9
	ドキュメント マップ	10
	関連ドキュメント	11
2	HP Operations エージェントのインストール計画	13
	HPOM が導入された一元的な監視環境	13
	スタンドアロン システム	13
3	HP Operations エージェント配布パッケージのインストール	15
	前提条件	16
	HPOM for Windows 管理サーバーの場合	16
	HPOM for UNIX 管理サーバーの場合	16
	Windows 管理サーバーへのインストール	16
	パッケージの配置	19
	UNIX/Linux 管理サーバーへのインストール	20
	パッケージの配置	22
	クラスタ内の管理サーバーへのインストール	22
	古い配布パッケージのバックアップ	23
	パッケージ詳細の表示	23
	管理サーバーからの HP Operations エージェントの配布パッケージの削除	25
	配布パッケージの削除	25
4	HP Operations エージェントのインストール	29
	前提条件	29
	ノード特有の要件	30
	Windows	30
	Linux	32
	HP-UX	34
	Solaris	35
	AIX	37
	HPOM 管理環境への HP Operations エージェントのインストール	38
	HPOM コンソールからの HP Operations エージェントのリモート インストール	38
	HPOM for Windows コンソールからのインストール	38
	UNIX/Linux 9.00 の HPOM コンソールからのインストール	41
	HPOM for UNIX 8.35 コンソールからのインストール	43
	Windows サーバーを使用したインストール	44
	ノードへの HP Operations エージェントの手動インストール	45

Windows ノードの場合	45
UNIX/Linux ノードの場合	52
プロファイル ファイルによる HP Operations エージェントのインストール	56
HP Operations エージェントのリモート設定	58
スタンドアロン システムへの HP Operations エージェントのインストール	60
vMA ノードへの HP Operations エージェントのインストール	62
共有ワークロード パーティション (WPAR) への HP Operations エージェントのインストール	64
高可用性クラスタへの HP Operations エージェントのインストール	64
インストール プロセスのトレース	66
パッケージの配置	67
環境変数	67
インストールのログ ファイル	68
インストールの検証	68
追加の設定タスク	68
HP Operations エージェントの削除	69
共有 WPAR からのエージェントの削除	70
5 HP Operations エージェント 11.00 へのアップグレード	71
HP Operations エージェント 11.00 によるデータの収集 / 保存	71
アップグレード前の確認事項	72
既存エージェントのバージョンの確認	72
coda のバージョンの確認	73
エージェントのアップグレード	74
6 ライセンスの適用	77
ライセンスのタイプ	77
HP Operations エージェント 11.00 の LTU	78
LTU の比較表	84
異なる LTU で使用可能なアドイン モジュール	84
恒久ライセンスの適用	85
手動によるノードへの適用	85
管理サーバーからの一括適用	87
評価ライセンスの有効期限の延長	89
HP Operations エージェント 11.00 へのアップグレード	91
恒久ライセンスの削除	92
既存の LTU の変更	93
7 HP Operations エージェントについて	95
HP Operations エージェントの起動	95
HP Operations エージェント の停止	95
Operations Monitoring Component の起動と停止	96
Operations Monitoring Component の起動	96
Operations Monitoring Component の停止	96

A	インストールのトラブルシューティング	97
	HP Operations エージェント配布パッケージのインストール.....	97
	HP Operations エージェント配布パッケージの削除.....	97
	HP Operations エージェントのインストール.....	98
B	コマンドラインユーティリティ	101
	oainstall.vbs.....	101
	oainstall.sh.....	104
	oalicense.....	106
C	インストーラの比較	109
	HP Operations エージェント 8.x のインストーラ プログラムの比較.....	109
	HP Performance Agent のインストーラ プログラムの比較.....	111
	索引.....	113

1 はじめに

HP Operations エージェントは、システムの重要要素の運用状況、パフォーマンス、可用性を表すメトリックを収集し、システムを監視するユーザーに提供します。HP Operations Manager (HPOM) は、単一のインタラクティブなコンソールを通じて複数のシステムを監視、管理するフレームワークを提供しますが、一方、個々のノードに配備された HP Operations エージェントは重要な情報を収集し、容易に監視プロセスを実施できるようにします。

HP Operations エージェントが収集したデータは、スプレッドシートプログラム、HP Performance Manager、HP Reporter、サードパーティ製の分析製品などを使って分析できます。このように収集したデータを利用して、以下のことを実行できます。

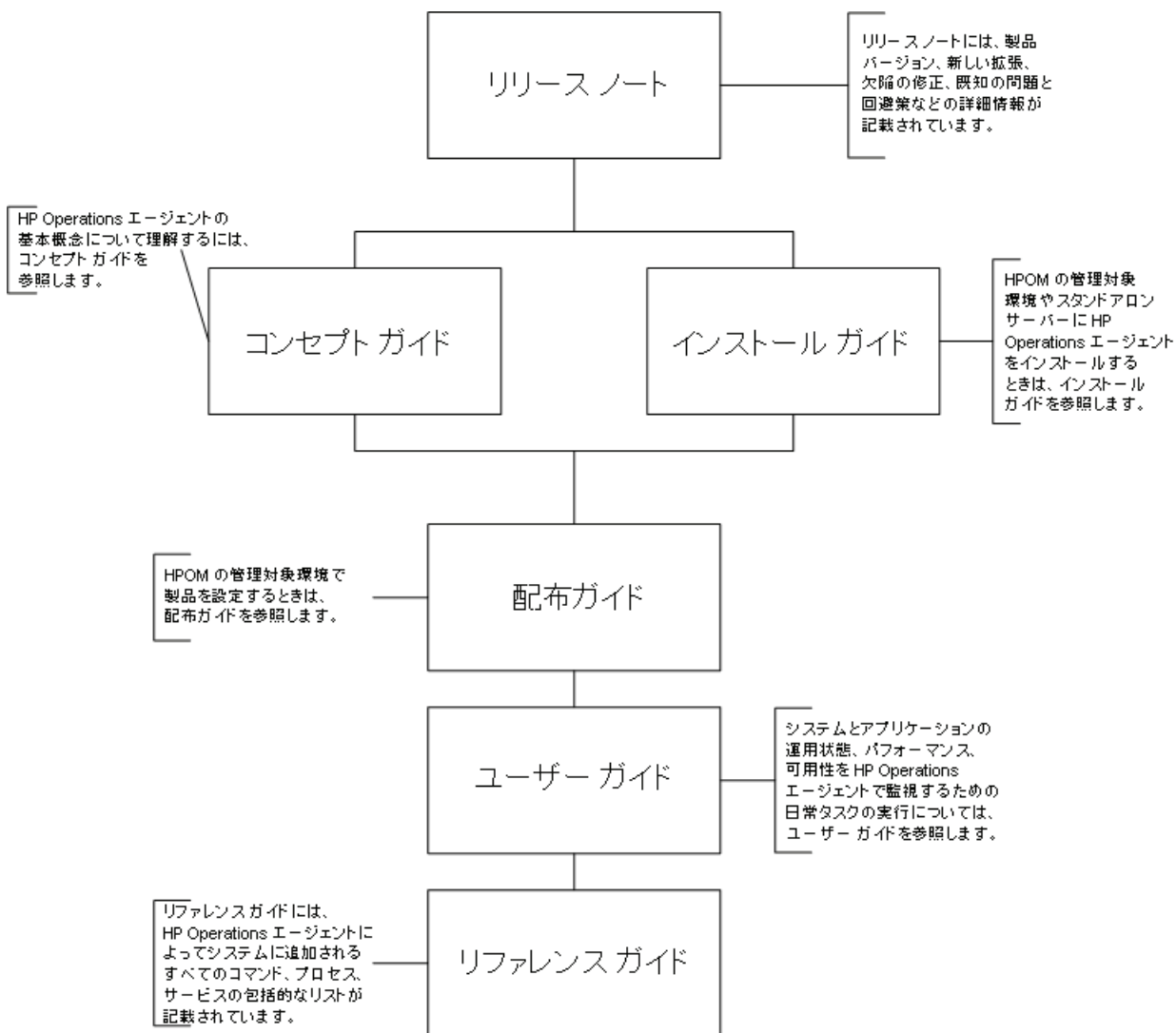
- システム パフォーマンスの詳細を収集する
- リアルタイムのシステム パフォーマンス データを監視する
- ルールに基づいてアラームを生成する

HP Operations エージェントは、分散型のクライアント/サーバー環境 (HPOM が導入されている環境) と、スタンドアロン サーバーのどちらにもインストールできます。HPOM の管理対象環境では、HP Operations エージェントは管理サーバーと管理対象ノードの間に安全な通信を提供します。その一方で、スタンドアロン サーバーに HP Operations エージェントをインストールし、サーバーのパフォーマンスを表すシステム レベルのデータを監視することもできます。

ドキュメント マップ

ドキュメント マップは、HP Operations エージェントに関する主なドキュメントをすべて一覧しています。このマップを使用すれば、支援が必要なときに必要なドキュメントを特定することができます。

図 1 HP Operations エージェントのドキュメント マップ



関連ドキュメント

製品メディアの `paperdocs` ディレクトリには、HP Operations エージェントのすべてのユーザー向けドキュメントが保存されています。最新の更新を確認する、またはドキュメントの最新エディションを使用しているかどうかを確認するには、以下の URL にアクセスしてください。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトでは、HP Passport への登録とサインインが必要となります。HP Passport ID を登録するには、次の URL にアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport ログイン ページの **[New users - please register]** リンクをクリックしてください。

表 1 HP Operations エージェントのユーザー向けドキュメント

ドキュメント	用途	主なトピック
リリース ノート	製品バージョン、新機能、既知の問題に関する情報については、このドキュメントを参照します。	<ul style="list-style-type: none">• 新機能• 改良点• 修正• 既知の問題と制限
コンセプト ガイド	異なる環境で HP Operations エージェントがどのように機能するかを理解するには、コンセプトガイドが役立ちます。	<ul style="list-style-type: none">• HP Operations エージェントの概要• HP Operations エージェントの主要コンポーネント

表 1 HP Operations エージェントのユーザー向けドキュメント

ドキュメント	用途	主なトピック
配布ガイド	一元的な HPOM 管理サーバーから監視対象環境に HP Operations エージェントを配布するときは、このガイドを参照します。	<ul style="list-style-type: none"> • HPOM 管理サーバーと HP Operations エージェントの間の安全な通信チャンネルのセットアップ • 高可用性クラスタ環境で動作する HP Operations エージェントの設定 • HP Operations エージェントの設定の HPOM コンソールからのリモート管理 • 他の HP ソフトウェア製品との統合
ユーザー ガイド	HP Operations エージェントの日常タスクの実行について不明な点がある場合は、このガイドを参照します。	<ul style="list-style-type: none"> • データ収集の管理 • アラームの生成
リファレンス ガイド	リファレンス ガイドには、HP Operations エージェント ノードで使用できるすべてのコマンド、プロセス、サービスの完全なリストが記載されています。	<ul style="list-style-type: none"> • コマンドライン ユーティリティ • 設定変数

2 HP Operations エージェントのインストール計画

HP Operations エージェントには、以下の使用環境があります。

- HPOM が導入された一元的な監視環境
- スタンドアロン システム

HPOM が導入された一元的な監視環境

HPOM が導入された一元的な監視環境では、HP Operations エージェント 11.00 の配布パッケージを管理サーバーにインストールし、HPOM コンソールから複数の対象ノードに対してエージェントパッケージを一元的に配布できます。HP Operations エージェント 11.00 配布パッケージを管理サーバーにインストールする方法については、15 ページの「HP Operations エージェント配布パッケージのインストール」を参照してください。

HPOM の管理対象環境に HP Operations エージェントをインストールする手順は以下のとおりです。

- 1 HP Operations エージェント 11.00 メディアを用意します。
- 2 HP Operations エージェント配布パッケージを HPOM 管理サーバーにインストールします。
 - a 16 ページの「前提条件」を参照してください。
 - b 16 ページの「Windows 管理サーバーへのインストール」、または 20 ページの「UNIX/Linux 管理サーバーへのインストール」に記載されている手順を実行します。
- 3 38 ページの「HPOM 管理環境への HP Operations エージェントのインストール」に記載されている手順を実行し、HP Operations エージェントをノードにインストールします。
- 4 ライセンスの種類を確認します (77 ページの「ライセンスのタイプ」を参照)。
- 5 85 ページの「恒久ライセンスの適用」に記載されている手順を実行し、ライセンスを適用します。

スタンドアロン システム

監視対象環境に HPOM ソフトウェアがインストール/設定されていない場合は、HP Operations エージェント 11.00 をスタンドアロン システムにインストールし、そのシステムのパフォーマンス メトリックを監視できます。HP Operations エージェント 11.00 をスタンドアロンサーバーにインストールする方法については、29 ページの「HP Operations エージェントのインストール」を参照してください。

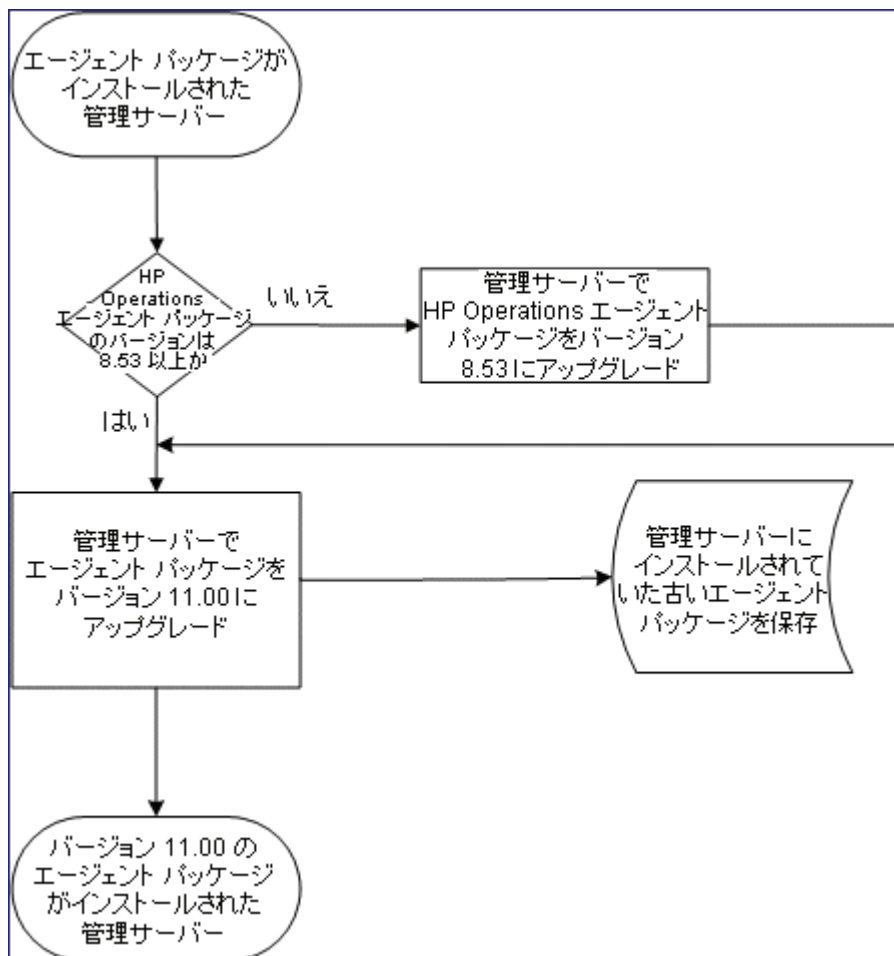
スタンドアロン システム (HPOM が導入されていない環境) に **HP Operations** エージェントをインストールする手順は以下のとおりです。

- 1 **HP Operations** エージェント **11.00** メディアを用意します。
- 2 60 ページの「スタンドアロン システムへの **HP Operations** エージェントのインストール」に記載されている手順を実行し、**HP Operations** エージェントをノードにインストールします。
- 3 ライセンスの種類を確認します (77 ページの「**ライセンスのタイプ**」を参照)。
- 4 85 ページの「**恒久ライセンスの適用**」に記載されている手順を実行し、ライセンスを適用します。

3 HP Operations エージェント配布パッケージのインストール

HP Operations エージェントの配布パッケージは、複数のノードプラットフォームの管理サーバーにインストールできます。インストールに続いて、パフォーマンスを常に監視する必要があるノードに、必要なプラットフォーム特有の HP Operations エージェント 11.00 ソフトウェアを配布できます。

管理サーバーのエージェント インベントリには、異なるノードプラットフォーム用の配布パッケージを含めることができます。インストールプロセスを起動中、選択したノードプラットフォームのみの配布パッケージをアップグレードするように選択できます。その結果、選択したプラットフォームのエージェント配布パッケージは、バージョン 11.00 にアップグレードされます。(アップグレード中に選択しなかった)他のノードプラットフォームの配布パッケージの古いバージョンは管理サーバーに残り、配布に使用できます。



前提条件

HPOM for Windows 管理サーバーの場合

- **利用可能な HPOM バージョン:**
 - 8.10 (OMW_00048、OMW_00051、OMW_00062 の各パッチを適用)
 - 8.16 または OMW_00062 を適用した 8.16
- **ディスク領域: 960 MB**

HPOM for UNIX 管理サーバーの場合

- **利用可能な HPOM バージョン:**
 - HPOM for UNIX (HP-UX または Solaris) 8.35
 - UNIX/Linux (HP-UX、Solaris、Linux) 9.00 以降の環境上の HPOM
- **ディスク領域: 960 MB**

Windows 管理サーバーへのインストール

HP Operations エージェント配布パッケージを HPOM for Windows 管理サーバーにインストールするには、次の作業を実行します。

タスク 1: インストール前の確認

HP Operations エージェント配布パッケージを HPOM for Windows 管理サーバーでアップグレードする前に、次の手順に従って管理サーバーの既存のパッケージを確認します。


- 1 **HPOM コンソール**で既存の配布パッケージを表示および確認します。

配布パッケージをコンソールで表示するには、コンソール ツリーの [ポリシー管理] を展開して、[配布パッケージ] をクリックします。利用可能な配布パッケージのリストが詳細ペインに表示されます。

- 2 **HPOM コンソール**で既存の配布パッケージのバージョンを表示および確認します。

利用可能な配布パッケージのバージョンを表示するには、次の手順を実行します。

- a コンソール ツリーで、[ポリシー管理] を展開します。
- b [配布パッケージ] を右クリックし、[表示] → [パッケージの詳細] をクリックします。配布パッケージのレポートが詳細ペインに表示されます。
- c Operations エージェントおよび Performance Agent の各セクションに表示されているバージョンを確認します。HP Performance Agent の配布可能なパッケージが管理サーバーにない場合、レポートには Performance Agent セクションは表示されません。

 HP Performance Agent 4.70 の配布可能なパッケージが管理サーバーで利用できる場合、それをバージョン 4.72 にアップグレードします (Windows と AIX プラットフォームの場合)。

- 3 エージェント配布パッケージをインストールする前に、配布ジョブが管理サーバーで実行されていないことを確認します。アクティブな配布ジョブを表示するには、次の手順を実行します。
 - a コンソール ツリーで、[ポリシー管理]を展開します。
 - b [配布ジョブ]をクリックします。アクティブな配布ジョブのリストが詳細ペインに表示されます。エージェント配布パッケージのインストール時にアクティブになっている配布ジョブがないことを確認する必要があります。エージェント配布パッケージのインストールが完了するまで、配布ジョブを起動することはできません。

タスク 2: インストール手順

- 1 管理者権限で管理サーバーにログオンします。
- 2 リリース ノートに提示されているシステム要件を再確認し、インストール サーバーがハードウェアとソフトウェアの要件をすべて満たすようにしてください。
- 3 以下のいずれかのタスクを実行します。
 - 物理メディアからインストールする場合、**HP Operations エージェント DVD を DVD-ROM ドライブに挿入**します。
 - いずれかの **HP Web** サイトからインストール メディアをダウンロードします。HP の Web サイトには、それぞれのプラットフォーム固有の **HP Operations エージェント 11.00 配布パッケージ用 .iso** ファイルがあります。パッケージ固有の .iso ファイルをダウンロードすることも、すべてのプラットフォームの配布パッケージが含まれる .iso ファイルをダウンロードすることもできます。.iso ファイルをダウンロードしたら、管理サーバーのローカル ディレクトリにファイルの内容を抽出します。
- 4 メディアのルートから、次のコマンドを実行します。

```
cscript oainstall.vbs -install -mgmt -platform ALL
```

または

```
cscript oainstall.vbs -i -m -p ALL
```

このコマンドにより、すべてのプラットフォームのエージェント配布パッケージが管理サーバーにインストールされます。



必要に応じて、選択したプラットフォームのみの配布パッケージをインストールするように選択できます。

次のコマンドを実行して、1つのプラットフォームのみの配布パッケージをインストールします。

```
cscript oainstall.vbs -install -mgmt -platform <プラットフォーム>
```

または

```
cscript oainstall.vbs -i -m -p <プラットフォーム>
```

この例では、<プラットフォーム>に次のいずれかの値を使用します。

- Windows 環境: **WIN**
- HP-UX 環境: **HP-UX**
- Linux 環境: **LIN**
- Solaris 環境: **SOL**
- AIX 環境: **AIX**

1つのコマンドで複数のノードプラットフォームの配布パッケージをインストールするには、複数の **-p** オプションをスペースで区切って使用します。

例:

```
oainstall.vbs -i -m -p AIX -p SOL
```

必要なオプションと引数を指定してコマンドを実行すると、インストール手順が開始されます。インストールプロセスの完了には、選択したパッケージの数に応じて、最大 20 分かかることがあります。

タスク 3: 確認

HP Operations エージェント配布パッケージをインストールしたら、次の手順を実行します。

- 1 管理サーバーで、次の場所に移動します。

```
%ovinstalldir%\bin\OpC\agtinstall
```

- 2 次のコマンドを実行します。

```
cscript oainstall.vbs -inv -listall
```

このコマンドにより、管理サーバーにある利用可能な (アクティブな) 配布パッケージのリストが表示されます。

- 3 配布パッケージをインストールしたプラットフォームを見つけます。アクティブバージョンに **11.00** と表示されていたら、インストールは成功です。

インストール ログ ファイル (oainstall.log) は、**%OvDataDir%\shared\server\log** のディレクトリにあります。

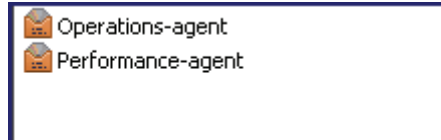
追加の確認

HP Operations エージェントおよび HP Performance Agent の両方の配布パッケージがある管理サーバーで、すべてのノードプラットフォームのアップグレードプロセスを実行する場合、次の結果が HPOM コンソールに表示されます。

- **パッケージの概要** : パッケージの概要ビューには、Performance Agent の配布可能パッケージは含まれていません。
- **パッケージの詳細** : パッケージの詳細ビューには、Performance Agent の配布可能パッケージのセクションはありません。レポートのすべてのセクションには、Operations エージェントの配布可能パッケージのバージョン番号が 11.0 と表示されます。

選択したノードプラットフォームに対してのみアップグレードプロセスを実行する場合、HPOM コンソールには次の結果が表示されます。

- **パッケージの概要** : パッケージの概要ビューには、引き続き Performance Agent の配布可能パッケージが含まれます。



- **パッケージの詳細** : パッケージの詳細ビューには、Performance Agent の配布可能パッケージが含まれます。アップグレードプロセス中に選択しなかったノードプラットフォームの、古い Performance Agent 配布可能パッケージの詳細が示されるセクションも表示されます。

Operations-agent	
Version	11.00
Description	The software
Binary format	x64
Operating system	Windows
OS versions	5.1 5.2 6.0
Location/ID	C:\Document \x64\Operat
Performance-agent	
Version	5.0.0
Description	The software
Binary format	PA-RISC
Operating system	HP-UX
OS versions	11.11
Location/ID	C:\Document risc\Perform

パッケージの配置

HP Operations エージェント パッケージを管理サーバーにインストールすると、インストーラプログラムはすべての必要な配布パッケージを次のパスに配置します。

`%OvDataDir%shared\Packages\HTTPS`

サポート対象ノードのオペレーティング システムとアーキテクチャ タイプに基づいて、インストーラはこのパスに異なるディレクトリとサブディレクトリを作成します。

UNIX/Linux 管理サーバーへのインストール

プレインストール タスク

OpenVMS エージェント配布パッケージが存在する HPOM for UNIX 8.35 管理サーバーに HP Operations エージェント配布パッケージをインストールするには、OpenVMS エージェント配布パッケージのバックアップを作成する必要があります。HP Operations エージェント 11.00 配布パッケージの登録時に、OpenVMS エージェント配布パッケージの一部がインストーラによって削除されます。

インストールを開始する前に、以下の手順を実行します。

- 1 **root** 権限で管理サーバーにログオンします。
- 2 `/var/opt/OV/share/databases/OpC/mgd_node/vendor/hp/alpha/ovms` ディレクトリの内容を `/tmp` ディレクトリ (または任意のディレクトリ) に移動します。

HP Operations エージェント 11.00 配布パッケージのインストール後に、`ovms` ディレクトリのバックアップ内容を元の場所 (`/var/opt/OV/share/databases/OpC/mgd_node/vendor/hp/alpha/ovms`) にコピーする必要があります。

インストール

HP Operations エージェント配布パッケージを HPOM for UNIX または UNIX/Linux の HPOM 管理サーバーにインストールするには、次の作業を実行します。

タスク 1: インストール手順

- 1 **root** 権限で管理サーバーにログオンします。
- 2 リリース ノートに提示されているシステム要件を再確認し、インストール サーバーがハードウェアとソフトウェアの要件をすべて満たすようにしてください。
- 3 以下のいずれかのタスクを実行します。
 - 物理メディアからインストールする場合、HP Operations エージェント DVD を DVD-ROM ドライブに挿入します。
 - ▶ 物理メディアから HPOM for UNIX 管理サーバーにインストールする場合は、DVD-ROM ドライブがマウントされていることを確認します。
 - いずれかの HP Web サイトからインストール メディアをダウンロードします。HP の Web サイトには、それぞれのプラットフォーム固有の HP Operations エージェント 11.00 配布パッケージ用 `.iso` ファイルがあります。パッケージ固有の `.iso` ファイルをダウンロードすることも、すべてのプラットフォームの配布パッケージが含まれる `.iso` ファイルをダウンロードすることもできます。`.iso` ファイルをダウンロードしたら、管理サーバーのローカル ディレクトリにファイルの内容を抽出します。


- 4 メディアのルートから、次のコマンドを実行します。

```
./oainstall.sh -install -mgmt -platform ALL
```

または

```
./oainstall.sh -i -m -p ALL
```

このコマンドにより、すべてのプラットフォームのエージェント配布パッケージが管理サーバーにインストールされます。

 必要に応じて、選択したプラットフォームのみの配布パッケージをインストールするように選択できます。

次のコマンドを実行して、1つのプラットフォームのみの配布パッケージをインストールします。

```
./oainstall.sh -install -mgmt -platform <プラットフォーム>
```

または

```
./oainstall.sh -i -m -p <プラットフォーム>
```

この例では、<プラットフォーム>に次のいずれかの値を使用します。

- Windows 環境: WIN
- HP-UX 環境: HP-UX
- Linux 環境: LIN
- Solaris 環境: SOL
- AIX 環境: AIX

1つのコマンドで複数のノードプラットフォームの配布パッケージをインストールするには、複数の `-p` オプションをスペースで区切って使用します。

例:

```
./oainstall.sh -i -m -p AIX -p SOL
```

必要なオプションと引数を指定してコマンドを実行すると、インストール手順が開始されます。インストールプロセスの完了には、選択したパッケージの数に応じて最大 5 分かかることがあります。

タスク 2: 確認

HP Operations エージェント配布パッケージをインストールしたら、次の手順を実行します。

- 1 管理サーバーで、次の場所に移動します。

HP-UX、*Linux*、*Solaris* の場合

```
/opt/OV/bin/OpC/agtinstall
```

- 2 次のコマンドを実行します。

```
./oainstall.sh -inv -listall
```

このコマンドにより、管理サーバーにある利用可能な (アクティブな) 配布パッケージのリストが表示されます。

- 3 配布パッケージをインストールしたプラットフォームを見つけます。アクティブバージョンに 11.00 と表示されていたら、インストールは成功です。

インストール ログ ファイル (oainstall.log) は、 /var/opt/OV/shared/server/log のディレクトリにあります。

パッケージの配置

HP Operations エージェント パッケージを管理サーバーにインストールすると、インストーラプログラムはすべての必要な配布パッケージを次のパスに配置します。

```
/var/opt/OV/share/databases/OpC/mgd_node/vendor
```

サポート対象ノードのオペレーティング システムとアーキテクチャタイプに基づいて、インストーラはこのパスに異なるディレクトリとサブディレクトリを作成します。

クラスタ内の管理サーバーへのインストール

HPOM を高可用 (**HA**) クラスタにインストールできます。クラスタ内で **HPOM** がインストールおよび設定されている場合、クラスタの各ノードに **HP Operations** エージェント配布パッケージをインストールする必要はありません。配布パッケージは、アクティブ ノードにのみインストールする必要があります。フェールオーバーの発生時には、**HPOM** がフェールオーバーするノードで `oainstall_sync` スクリプトを実行する必要があります。

配布パッケージをアクティブ ノードにインストールする場合、`oainstall_sync` スクリプトはクラスタ内のノード間で共有されるディレクトリに配置されます。**HPOM** がセカンダリ ノードにフェールオーバーしたら、次の手順で `oainstall_sync` スクリプトを実行します。

- 1 **HPOM** がフェールオーバーするノードに `root` 権限または管理者権限でログインします。
- 2 以下の場所に移動します。

Windows の場合

```
%OvSharedDir%server\installation
```

UNIX/Linux の場合

```
/var/opt/OV/shared/server/installation
```

- 3 次のコマンドを実行します。

Windows の場合

```
cscrip oainstall_sync.vbs
```

UNIX/Linux の場合

```
./oainstall_sync.sh
```

`oainstall_sync` スクリプトは、**HP Operations** エージェント **11.00** の必要なファイルとパッケージを、有効な **HPOM** 管理サーバーに配置します。

古い配布パッケージのバックアップ

管理サーバーにある既存の **HP Operations** エージェントと **HP Performance Agent** の配布パッケージをバージョン 11.00 にアップグレードする場合、**HP Operations** エージェントのインストーラは、古い配布パッケージのコピーをローカルディレクトリに保存します。

HP Operations エージェント 11.00 の配布パッケージを削除すると、インストーラ プログラムは古い配布パッケージを管理サーバーに復元します。

アップグレードプロセス中、**HP Operations** エージェントおよび **HP Performance Agent** の古いバージョンの配布パッケージは自動的に次のディレクトリに保存されます。

- **HPOM for Windows** 管理サーバーの場合
 - **HP Performance Agent** 配布パッケージ:
`%OvSharedDir%server\installation\backup\HPOpsAgt\<OS>\<OA バージョン>\<ARCH>\PerfAgt`
 - **HP Operations** エージェント配布パッケージ:
`%OvSharedDir%server\installation\backup\HPOpsAgt\<OS>\<OA バージョン>\<ARCH>`
- **HPOM for UNIX** 管理サーバーと **Linux** 管理サーバーの場合
 - **HP Performance Agent** 配布パッケージ:
`/var/opt/OV/shared/server/installation/backup/HPOpsAgt/<OS>/<OA バージョン>/<ARCH>/PerfAgt`
 - **HP Operations** エージェント配布パッケージ:
`/var/opt/OV/shared/server/installation/backup/HPOpsAgt/<OS>/<OA バージョン>/<ARCH>`

HPOM for UNIX 9.00 管理サーバーで古い配布パッケージのバックアップ作成中、(使用可能な場合)インストーラ プログラムは **HP Performance Agent** に関連する **HP Performance Agent** ポリシーを保存します。

Windows 管理サーバーの場合、バックアッププロセスの完了後、インストーラ プログラムは古いバージョンの **HP Operations** エージェントおよび **HP Performance Agent** の配布パッケージのレジストリ キーを削除します。これを確認するには、[プログラムの追加と削除] ウィンドウを開きます。ウィンドウには、古いバージョンの **HP Operations** エージェントおよび **HP Performance Agent** の配布パッケージのトレースは表示されません。

パッケージ詳細の表示

インストーラ プログラムでパッケージの詳細を表示することができます。これには、プラットフォーム、システムのタイプ、**HPOM** コンソールから配布可能なパッケージのアクティブバージョンが含まれます。アクティブバージョンおよびバックアップバージョンのパッケージ詳細を表示するオプションもあります。

配布可能なパッケージの詳細を表示するには、次のコマンドを実行します。

- **HPOM for Windows** 管理サーバーの場合
`cscript oainstall.vbs -inventory`

または

```
cscript oainstall.vbs -inv
```

- *HPOM for UNIX* 管理サーバーと *Linux* 管理サーバーの場合

```
./oainstall.sh -inventory
```

または

```
./oainstall.sh -inv
```

このコマンドの出力は、次の形式で表示されます。

<プラットフォーム> :<システム タイプ> :<バージョン> <(PerfAgt:PA バージョン)>

例:

```
SOL :SPARC :08.53.000 (PerfAgt :05.00.000)
```

```
AIX :PowerPC(32):11.00.012
```

システムに存在するすべてのパッケージ (アクティブおよびバックアップ済み) の詳細を確認するには、以下のコマンドを実行します。

- *HPOM for Windows* 管理サーバーの場合

```
cscript oainstall.vbs -inventory -listall
```

または

```
cscript oainstall.vbs -inv -listall
```

- *HPOM for UNIX* 管理サーバーと *Linux* 管理サーバーの場合

```
./oainstall.sh -inventory -listall
```

または

```
./oainstall.sh -inv -listall
```

このコマンドの出力は、次の形式で表示されます。

<プラットフォーム> :<システム タイプ> :<バージョン> <(PerfAgt:PA バージョン)>

例:

```
SOL :SPARC :11.00.012
```

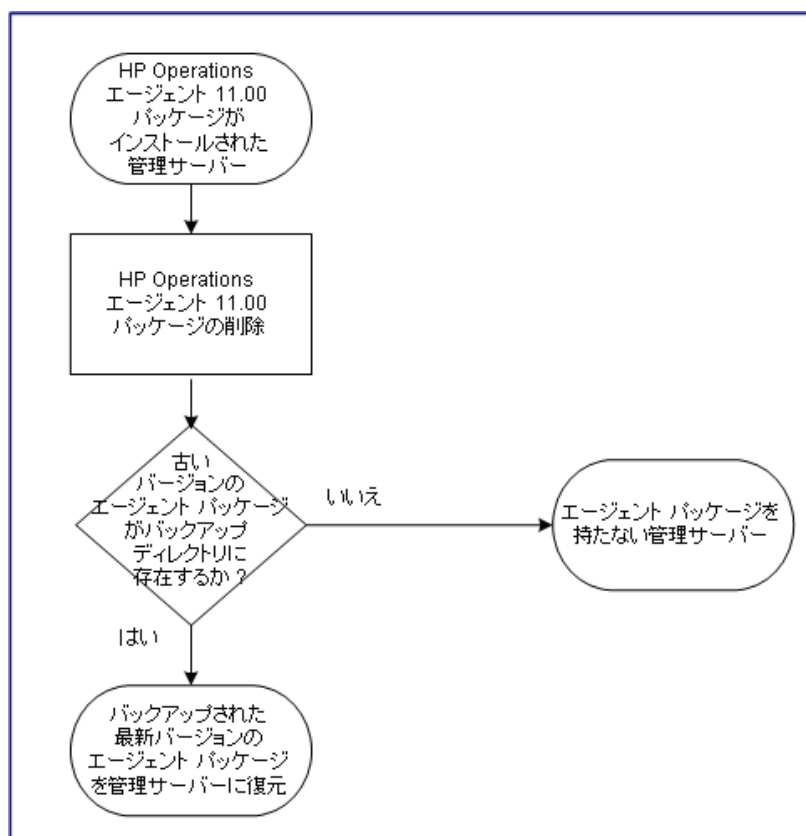
```
SOL :SPARC :08.53.000 (PerfAgt :05.00.000)
```

これらのプラットフォームの配布パッケージを表示するには、次のパス以下で検索する必要があります。

- *HPOM for Windows* の場合 :
%OvDataDir%shared\Packages\HTTPS
- *HPOM for UNIX* の場合 :
/var/opt/OV/share/databases/OpC/mgd_node/vendor

管理サーバーからの HP Operations エージェントの 配布パッケージの削除

プラットフォーム固有の配布パッケージの特定のバージョンを削除できます。配布パッケージのアクティブバージョンを削除すると、(使用可能な場合)最も新しいバックアップバージョンの配布パッケージが管理サーバーに復元されます。ただし、古いバックアップバージョンを削除すると、システムは配布パッケージのアクティブバージョンを管理サーバーに保持します。



配布パッケージの削除

HP Operations エージェントのすべてのパッケージを管理サーバーから削除するには、次の手順を実行します。

- 1 管理者権限 (Windows の場合) または root 権限 (UNIX の場合) で管理サーバーにログオンします。
- 2 次のコマンドを実行します。

Windows 管理サーバーの場合

```
cscript oainstall.vbs -remove -mgmt -version <バージョン> -platform  
<プラットフォーム>
```

または

```
cscript oainstall.vbs -r -m -v <バージョン> -p<プラットフォーム>
```

UNIX または Linux の管理サーバーの場合

```
./oainstall.sh -remove -mgmt -version <バージョン> -platform<プラットフォーム>
```

または

```
./oainstall.sh -r -m -v <バージョン> -p<プラットフォーム>
```

-v|-version このオプションを使用して、削除するエージェント配布パッケージのバージョンを指定します。

-p|-platform このオプションを使用して、管理サーバーから削除する HP Operations エージェントのプラットフォーム固有のパッケージを指定します。以下のリストを参照し、プラットフォーム情報を引数の形式でこのオプションに指定します。

- Linux 環境 : **LIN**
- Solaris 環境 : **SOL**
- HP-UX 環境 : **HP-UX**
- AIX 環境 : **AIX**
- Windows 環境 : **WIN**
- すべてのプラットフォームの場合 : **ALL**

このオプションの引数は、UNIX (または Linux) サーバーでは大文字小文字が区別されます。

1 つのコマンドで複数のノードプラットフォームの配布パッケージを削除するには、複数の **-p** オプションをスペースで区切って使用します。

例:

```
./oainstall.sh -r -m -version 11.00.012 -p AIX  
-p SOL
```

必要なオプションと引数を指定してコマンドを実行すると、インストーラ プログラムは HP Operations エージェントのプラットフォーム固有の配布パッケージの特定バージョンを管理サーバーから削除し始めます。



HP Operations エージェント 11.00 配布パッケージを削除すると、(使用可能な場合) インストーラ プログラムは、配布パッケージの最も新しいバックアップバージョンを管理サーバーに復元します。

HP Operations エージェント 11.00 配布パッケージを **HPOM for UNIX 9.00** 管理サーバーから削除すると、(使用可能な場合) インストーラ プログラムは配布パッケージの最も新しいバックアップバージョンと、**HP Performance Agent** に関連する **Performance Agent** ポリシーを復元します。次の手順で、**HP Performance Agent** 配布可能パッケージに関連するポリシーを管理サーバーで表示することができます。

- 1 ユーザー インターフェイスのメニュー バーで、[参照] → [すべてのポリシー] の順にクリックします。[すべてのポリシー] ページが表示されます。

- 2 フィルタの条件を指定し、[**フィルタ**] ボタンをクリックします。[**Filtered Policies** (フィルタリングされたポリシー)] ページに、**HP Performance Agent** 配布可能パッケージに関連するポリシーのリストが表示されます。

4 HP Operations エージェントのインストール

HP Operations エージェント配布パッケージは、環境内で使用可能な既存の HPOM 管理サーバーにインストールできます (15 ページの「HP Operations エージェント配布パッケージのインストール」を参照)。その上で、管理サーバーから一元的に HP Operations エージェントをノードにインストールできます (38 ページの「HPOM コンソールからの HP Operations エージェントのリモートインストール」を参照)。

HP Operations エージェントを管理サーバーから一元的にインストールする代わりに、製品メディアを使用して HP Operations エージェントを手動でノードにインストールすることも可能です。手動によるインストールの中で、適切な管理サーバーをノード用に設定することができます。

HPOM を使用できない環境の場合は、スタンドアロン サーバーに HP Operations エージェントをインストールし、サーバーのヘルスとパフォーマンスを示すシステムレベルのデータを監視することができます。製品のインストールが終了すれば、システム メトリックの収集と監視をサーバーで開始することができます。将来、HP Operations エージェント 11.00 が管理する環境に HPOM ソフトウェアのバージョンをインストールする場合は、このサーバーを管理対象ノードとして追加し、中央の HPOM コンソールからサーバーで収集したデータを監視することができます。

前提条件

インストールを開始する前に、前提条件をすべて満たしていることを確認してください。要件を評価した後、環境に製品をインストールするために最も適切なオプションを特定します。

一般的な考慮事項

- HPOM コンソールからリモートでエージェントを配布したい場合は、管理サーバーとノード間でファイアウォールの設定が無効になっていることを確認します。
- ファイアウォールが制御する環境でノードに手動でエージェントをインストールしたい場合は、エージェントが管理サーバーのポート **383** を通じて管理サーバーにアクセスすることを許可するように、ファイアウォールを設定してください。
- HPOM 管理環境で製品をインストールする場合は、インストールプロセスを開始する前に、ノードが管理対象ノードとして追加されていることを常に確認してください。マルチホーム環境のノードでは、エージェントのインストール後に追加タスクを実行する必要があります (68 ページの「追加の設定タスク」を参照)。

- インストール後すぐにエージェントを使用したい場合は、管理サーバーで自動証明書要求が有効になっていることを確認してください。

安全性が高い環境で、HPOM の自動証明書要求プロパティを無効にした場合は、エージェントのインストールが完了した後、手動で管理サーバーと証明書を交換する必要があります。

- HP Operations エージェントは、クラスタ対応アプリケーションです。ただし、HP Operations エージェント ソフトウェアはフェールオーバー発生時に、スタンバイ ノードに自動的にフェールオーバーすることはできません。

ノード特有の要件

HP Operations エージェントは特定のオペレーティング システムのパッチ、修正、または特定タイプのノードのライブラリと依存関係を持つ場合があります。このセクションでは、オペレーティング システム関連のコンポーネントとの依存関係、およびディスク領域の要件について一覧します。

Windows

ユーザー

HP Operations エージェントを Windows ノードにインストールするには、管理権限を持つユーザーを使用する必要があります。このユーザーは、デフォルトのシステム共有 (Programs Files フォルダが設定されているディスク) にアクセスできる権限に加え、以下の追加権限を持つ必要があります。

- ローカル Administrators グループのメンバシップ
- ADMIN\$ 共有への書き込みアクセス
- レジストリの読み取りアクセス
- 「サービスとしてログオン」の権限
- サービスの開始および停止権限

必要なソフトウェア

- **Windows インストーラ 2.0 以降 :** Windows インストーラ ソフトウェアは、Microsoft Windows オペレーティング システムに含まれています。HP Operations エージェントのインストーラ プログラムでは、システム上にこのソフトウェア コンポーネントのバージョン 2.0 が存在する必要があります。Windows インストーラ 2.0 以降が存在することをチェックするには、以下の手順に従います。
 - a Windows システムにログオンします。
 - b [スタート]メニューから、[ファイル名を指定して実行]を開きます。
 - c [ファイル名を指定して実行]で、**regedit** と入力して **Enter** キーを押します。[レジストリ エディタ]ウィンドウが開きます。
 - d [レジストリ エディタ]ウィンドウで、**[HKEY_LOCAL_MACHINE] > [SOFTWARE] > [Microsoft]**の順に展開し、**[DataAccess]**をクリックします。
 - e 右側のペインで **[FullInstallVer]**をダブルクリックします。[文字列の編集]ダイアログボックスが開きます。
 - f [文字列の編集]ダイアログボックスで、バージョン文字列が **2.00** 以降にセットされているかどうかチェックします。
- **Windows Script Host:** Windows Script Host がシステムで有効化されている必要があります。HP Operations エージェントのインストーラ プログラムでは、Windows Script Host が有効である必要があります。Windows Script Host が有効かどうかをチェックするには、以下の手順に従います。
 - a Windows システムにログオンします。
 - b [スタート]メニューから、[ファイル名を指定して実行]を開きます。

- c [ファイル名を指定して実行] で、**regedit** と入力して **Enter** キーを押します。[レジストリエディタ] ウィンドウが開きます。
- d [レジストリエディタ] ウィンドウで、[**HKEY_LOCAL_MACHINE**] > [**SOFTWARE**] > [**Microsoft**] の順に展開し、[**Windows Script Host**] をクリックします。
- e 右側のペインで [Enabled] キーを探します。
 - [Enabled] が存在する場合は、そのキーをダブルクリックして [Value Data] が **1** にセットされていることを確認します。Windows Script Host が無効の場合、[Enabled] キーの [Value Data] は **0** にセットされています。
 - [Enabled] が存在しない場合は、問題なく Windows Script Host は有効であると見なすことができます。

必要なサービス

エージェントをインストールする前に、以下のサービスが稼働していることを確認します。

- Event Log
- Remote Procedure Call (RCP)
- Plug and Play
- Security Accounts Manager
- Net Logon
- Remote Registry
- Server
- Workstation

上記サービスが稼働していることを確認するには、以下の手順に従います。

- 1 管理権限でシステムにログオンします。
- 2 [スタート] メニューから、[ファイル名を指定して実行] を開きます。
- 3 [ファイル名を指定して実行] で、**services.msc** と入力して **Enter** キーを押します。[サービス] ウィンドウが開きます。
- 4 [サービス] ウィンドウで、上記の各サービスのステータスが [開始] かどうかをチェックします。いずれかのサービスのステータスが [開始] 以外の場合は、サービスを右クリックし、次に [開始] をクリックします。

ディスク領域

- インストール ディレクトリ用
350 MB
- データ ディレクトリ用
50 MB

推奨されるソフトウェアとサービス

- **WMI インターセプタ ポリシー**: WMI インターセプタ ポリシーまたは Measurement Threshold ポリシーを配布して WMI イベントおよびクラスを監視したい場合、またはノードで自動サービス検出を実行したい場合に必要となります。

- **SNMP MIB 監視** : エージェント システム上の SNMP MIB (Management Information Base) 内のオブジェクトを監視したい場合は、システムに必ず SNMP エージェント (MIB-I および MIB-II 準拠) をインストールします。
- **HPOM アクション/ツール** : ノードで HPOM アクションおよびツールを起動する場合、NT LM Security Support Provider サービスが稼働している必要があります。

Windows Server 2008 上の Hyper-V に適用される追加要件

- 仮想システムを監視できるように、以下の修正プログラムを適用します。
<http://support.microsoft.com/kb/950050>
- メトリックの BYLS クラスをログに記録できるように、以下の修正プログラムを適用します。
<http://support.microsoft.com/KB/960751>

関連トピック

[Linux](#)

[HP-UX](#)

Linux

ユーザー

HP Operations エージェントを Linux ノードにインストールするには、root 権限を持つユーザーを使用する必要があります。




Linux ノードでは root ユーザーを使用せずに HP Operations エージェントをインストールすることはできないので、HPOM コンソールからリモートで vSphere Management Assistant (vMA) ノードにエージェントをインストールすることはできません (root ユーザーがデフォルトで無効になっているため)。62 ページの「vMA ノードへの HP Operations エージェントのインストール」を参照してください。

必要なソフトウェア

HP Operations エージェントをインストールするには、以下のランタイム ライブラリとパッケージが必要となります。

- C++ ランタイム
 - カーネル バージョン 2.6 のシステムの場合
/usr/lib/libstdc++.so.5
 - カーネル バージョン 2.6 の Itanium システムの場合
/usr/lib/libstdc++.so.6
- curses ランタイム ライブラリ
/usr/lib/libncurses.so.5
- Red Hat Enterprise Linux (Itanium) の場合
 - ia32el-1.6-14.EL4.ia64.rpm
 - libgcc-3.4.6-8.i386.rpm
 - glibc-2.3.4-2.36.i686.rpm
 - libstdc++-3.4.6-8.i386.rpm
 - compat-libstdc++-296-2.96-132.7.2.i386.rpm

- ncurses-5.4-13.i386.rpm
- libtermcap-2.0.8-39.i386.rpm
- bash-3.0-19.3.i386.rpm
- zlib-1.2.1.2-1.2.i386.rpm
- freetype-2.1.9-5.el4.i386.rpm
- expat-1.95.7-4.i386.rpm
- fontconfig-2.2.3-7.i386.rpm
- xorg-x11-Mesa-libGL-6.8.2-1.EL.18.i386.rpm

 このパッケージのインストール時には、`--force` および `--nodeps` オプションを使用します。

- xorg-x11-libs-6.8.2-1.EL.18.i386.rpm
- xorg-x11-deprecated-libs-6.8.2-1.EL.18.i386.rpm
- compat-libstdc++-33-3.2.3-47.3.i386.rpm
- **HPOM for Windows** コンソールからリモートでエージェントをインストールしたい場合は、システムに **OpenSSH 5.2** 以降がインストールされていることを確認します。

ディスク領域

- インストール ディレクトリ用 (`/opt/OV` および `/opt/perf`):
350 MB
- データ ディレクトリ用 (`/var/opt/OV` および `/var/opt/perf`):
350 MB

推奨されるソフトウェアとサービス

- **SNMP MIB 監視**: エージェント システム上の SNMP MIB (Management Information Base) 内のオブジェクトを監視したい場合は、システムに必ず **SNMP** エージェント (MIB-I および MIB-II 準拠) をインストールします。
- **xglance**: **xglance** ユーティリティを使用するには、システムに以下のコンポーネントが存在する必要があります。

Open Motif ツールキット 2.2.3

 `x86_64` と Itanium 環境の Red Hat Enterprise Linux 5.x、および SUSE Linux Enterprise Server 10.x を除く Linux プラットフォームでは、**Open Motif** ツールキットの 32 ビットバージョンと関連ライブラリが存在する必要があります。

関連トピック

[Solaris](#)

[HP-UX](#)

HP-UX

ユーザー

HP Operations エージェントを HP-UX ノードにインストールするには、root 権限を持つユーザーを使用する必要があります。

必要なソフトウェア

HP-UX システムでは、以下のパッチがインストールされていることを確認します。

- *HP-UX 11.23.* の場合、PHKL_36853、PHCO_38149 (または後継パッチ)
- *HP-UX 11i v1.* の場合、PHNE_27063 (または後継パッチ)
- *HP-UX 11i v1.* の場合、PHCO_24400 s700_800 11.11 libc 累積パッチ (または後継パッチ)
- *HP-UX 11.11 PA-RISC.* の場合、PHCO_38226 (または後継パッチ)
- *HP-UX 11.31.* の場合、PHCO_36530 (または後継パッチ)
- *HP-UX 11i v1.* の場合、パフォーマンス ツールが VERITAS Volume Manager 3.2 と連携して機能するには、以下のパッチが必要となります。
 - PHKL_26419 for HP-UX B.11.11 (11.11) (または後継パッチ)
 - PHCO_26420 for HP-UX B.11.11 (11.11) (または後継パッチ)
- HP-UX 11i v1 システムが複数のプロセッサで構成されており、PRM Group が APP_ メトリックを記録するために parm ファイル内で log application=prm スイッチを使用している場合、以下のパッチをインストールする必要があります。

PHKL_28052 (または後継パッチ)

- HP-UX 11i v1 以降では、パフォーマンス ツールは Instant Capacity on Demand (iCOD) と連携して動作します。iCOD データを正しく報告するには、以下の pstat カーネルパッチがインストールされている必要があります。

▶ iCOD がシステムにインストールされていない場合は、このカーネルパッチをインストールする必要はありません。

PHKL_22987 for HP-UX B.11.11 (11.11) (または後継パッチ)

HP GlancePlus は HP Operations エージェントのこのバージョンに含まれており、Process Resource Manager (PRM) バージョン C.03.02 と連携して動作します。

HP-UX 11.11 以降で EMC PowerPath v2.1.2 または v3.0.0 が稼働する場合は、最新の EMC パッチがインストールされている必要があります。

- EMC PowerPath v2.1.2 リリースの場合は、以下のパッチを使用します。
EMCpower_patch213 HP.2.1.3_b002 (または後継パッチ)
- EMC PowerPath v3.0.0 リリースの場合は、以下のパッチを使用します。
EMCpower_patch301 HP.3.0.1_b002 (または後継パッチ)

ディスク領域

- インストール ディレクトリ用 (/opt/OV および /opt/perf):
350 MB
- データ ディレクトリ用 (/var/opt/OV および /var/opt/perf):
350 MB

推奨されるソフトウェアとサービス

SNMP MIB 監視: エージェント システム上の SNMP MIB (Management Information Base) 内のオブジェクトを監視したい場合は、システムに必ず SNMP エージェント (MIB-I および MIB-II 準拠) をインストールします。

関連トピック

[Solaris](#)

[Linux](#)

Solaris

ユーザー

HP Operations エージェントを Solaris ノードにインストールするには、root 権限を持つユーザーを使用する必要があります。

必要なソフトウェア

HP Operations エージェントを Solaris ノードにインストールする前に、以下のパッチ (または後継パッチ) がインストールされていることを確認します。

表 2 オペレーティングシステムのパッチ

オペレーティングシステム	オペレーティングシステムのバージョン	プラットフォーム	必要なパッチ
Solaris	9	64 ビット (SPARC)	<ul style="list-style-type: none"> • 111712-12 SunOS 5.9 64 ビット共有ライブラリパッチ (C++ 用) • 112963-22 リンカーパッチ (32 ビット) • 111722-04 SunOS 5.9 数学ライブラリ (libm) パッチ
		32 ビット (x86)	<ul style="list-style-type: none"> • 118345-03 SunOS 5.10_x86: ld & libc.so. • 119964-03 SunOS 5.10_x86 Shared library patch for C++_x86 • 120754-01 SunOS 5.10_x86 libmtsk
	64 ビット (SPARC)	<ul style="list-style-type: none"> • 117461-04 Linker • 120753-01 libmtsk • 119963-19 SunOS 5.10: Shared library patch for C++ 	

さらに、以下のパッケージが利用できることを確認します。

- SUNWlibC
- SUNWlibms
- SUNWmfrun
- SUNWxwplt

カーネル設定

Solaris 9 向けに、以下の最小限のカーネルパラメータ値を設定します。

semsys:seminfo_semmni=30

semsys:seminfo_semmns=200

semsys:seminfo_semmsl=100

Solaris 10 では、特別なカーネル設定は必要ありません。

ディスク領域

- インストールディレクトリ用 (/opt/OV および /opt/perf):
350 MB
- データディレクトリ用 (/var/opt/OV および /var/opt/perf):
350 MB

推奨されるソフトウェアとサービス

SNMP MIB 監視: エージェントシステム上の SNMP MIB (Management Information Base) 内のオブジェクトを監視したい場合は、システムに必ず SNMP エージェント (MIB-I および MIB-II 準拠) をインストールします。

関連トピック

[Windows](#)

[HP-UX](#)

AIX

ユーザー

HP Operations エージェントを AIX ノードにインストールするには、root 権限を持つユーザーを使用する必要があります。

必要なソフトウェア

- HP GlancePlus が正しく機能するには、libc.a ライブラリが必要となります。このライブラリは、AIX オペレーティングシステムの光磁気媒体に存在する x1C.rte パッケージにバンドルされています。
- 通信デーモンでは、bos.perf.libperfstat パッケージが必要となります。
- HPOM for Windows コンソールからリモートでエージェントをインストールしたい場合は、システムに OpenSSH 5.2 以降がインストールされていることを確認します。

ディスク領域

- インストールディレクトリ用 (/usr/lpp/OV および /usr/lpp/perf):
350 MB
- データディレクトリ用 (/var/opt/OV および /var/opt/perf):
350 MB

推奨されるソフトウェアとサービス

- **SNMP MIB 監視**: エージェントシステム上の SNMP MIB (Management Information Base) 内のオブジェクトを監視したい場合は、システムに必ず SNMP エージェント (MIB-I および MIB-II 準拠) をインストールします。
- **xglance**: xglance ユーティリティを使用するには、システムに以下のコンポーネントが存在する必要があります。
 - Open Motif 2.1 以降
 - X11 Revision 6 (X11R6)

- クロスパーティション メトリックを収集/記録するには、`xmservd` または `xmtopas` デモンが使用可能である必要があります。`xmtopas` は、`perfagent.tools` ファイルセットの一部です。`xmservd` は、Performance Toolbox for AIX コンポーネント (ライセンスが必要なソフトウェア プログラム) にバンドルされています。

関連トピック

[Windows](#)

[HP-UX](#)

HPOM 管理環境への HP Operations エージェントのインストール

HP Operations エージェントを HPOM 管理環境へインストールするには、HPOM コンソールからリモートでインストールするか、または HP Operations エージェントのインストールメディアから `oainstall.vbs` または `oainstall.sh` ファイルを実行してローカルにインストールします。

HPOM コンソールからの HP Operations エージェントのリモートインストール

HPOM for Windows コンソールからのインストール

HP Operations エージェントをリモートインストールする前に、UNIX/Linux ノードに円滑にインストールを行うために、管理サーバーでいくつかの追加タスクを実行する必要があります。インストール用のタスクには、管理サーバーでの SSH (Secure Shell) クライアントの設定、および適切なユーザーの作成などがあります。

SSH クライアントの設定

SSH クライアントを設定するには、以下の手順に従います。



HPOM for Windows では、サードパーティ製 SSH クライアント ソフトウェア PuTTY が提供されています。ここでは、PuTTY SSH クライアントの設定手順について説明します。

PuTTY は HP のソフトウェアではありません。このソフトウェアは保証なしで提供されています。したがって、PuTTY の使用または性能に関するすべての損害は、お客様の責任となります。

- 1 管理サーバーで、次のディレクトリに移動します。

```
%ovinstalldir%\contrib\OVOW\PuTTY
```

- 2 PLINK.EXE ファイル、PSCP.EXE ファイル、および `runplink.cmd` ファイルを PATH 環境変数に含まれる任意のディレクトリにコピーします。たとえば、管理サーバーが `C:\Program Files\HP\HP BTO Software` にインストールされている場合は、次のディレクトリにファイルをコピーします。

```
C:\Program Files\HP\HP BTO Software\bin
```

- 3 デフォルトの設定では、HPOM はリモート エージェントのインストール時に UNIX/Linux ノードの SSH ホスト キーを自動的に承認します。エージェントのインストール時に、すべてのノードの SSH ホスト キーを手動で検証したい場合は、以下の手順に従います。

- a 管理権限で管理サーバーにログオンします。
- b 管理サーバーで、次のコマンドを実行します。

```
ovconfchg -edit
```

テキスト エディタが開きます。

- c テキスト エディタで名前空間 [depl.mechanisms.ssh] を探し、EXEC 属性を PLINK.EXE の呼び出しに置き換えます。値は以下のようになります。

```
EXEC=plink -ssh -batch -2 -pw <パスワード> <ユーザー>@<ホスト> <コマンド>
```

- d ファイルを保存します。新しい設定がすぐに反映されます。

ユーザーの作成

エージェントをリモートでインストールする際に、HPOM はノードに対する管理アクセス権を持つユーザーの資格情報を必要とします。次のリストは、ノードのオペレーティング システムに応じて必要となる具体的な権限を示しています。

- Windows

- ADMIN\$ 共有への書き込みアクセス (ユーザーはローカル Administrators グループのメンバであること)
- レジストリの読み取りアクセス
- 「サービスとしてログオン」の権限 ([資格情報の設定] リストで [ユーザー/パスワード] を選択する場合にのみ必要)

- UNIX/Linux

ファイルを転送するためにノード上の SSH にログインする権限、およびインストール コマンドを実行する権限

インストール プロセスを開始する前に、上記の権限を持つユーザーを作成します。このユーザーはエージェントをノードにリモートでインストールする際に、HPOM により使用されます。

エージェントのインストール

HP Operations エージェントを HPOM コンソールからリモートでインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 HPOM コンソールから、[Agent Installation (エージェントのインストール)] ウィンドウを開きます。[Agent Installation (エージェントのインストール)] ウィンドウを開くには、以下の手順に従います。
 - a コンソール ツリーで [ノード] を右クリックし、次に [設定] > [ノード] をクリックします。[ノード設定] ウィザードが開きます。
 - b [ノード設定] ウィザードで右側のペインを右クリックし、次に [新規ノード] をクリックします。[基本設定] ダイアログ ボックスが開きます。
 - c ノードの完全修飾ドメイン名を入力し、[次へ] をクリックします。[User Discovery Service (ユーザー検出サービス)] オプションを選択すると、HPOM は自動的にこのノードの他の詳細情報を検出することができます。

- d HPOM がシステム詳細情報を自動的に取得できなかった場合は、[OS Setup (OS 設定)] ダイアログ ボックスに詳細情報を指定し、[次へ] をクリックします。[詳細設定] ダイアログ ボックスが開きます。
 - e [詳細設定] ダイアログ ボックスで、[ポリシーとパッケージの自動配布 (Automatic Deployment of Policies and Packages)] オプションを選択またはクリアし、次に [完了] と [OK] をクリックすると、[Agent Installation (エージェントのインストール)] ウィンドウが開きます。
- 2 ノードのリストで、エージェントをインストールしたいノードの [配布] チェック ボックスを選択します。ノードが UNIX/Linux ノードの場合は、ポップアップ ボックスが表示され、ユーザー名とパスワードが求められます。ノードの root 権限を持ったユーザーの資格情報をポップアップ ボックスに指定し、[OK] をクリックします。
 - 3 Windows ノードの場合は、[資格情報] をクリックし、以下のいずれかを指定します。
 - **PMAD:** 管理サーバーは、ポリシーの管理と配布 (PMAD) サービスを実行するユーザー (デフォルトでは HP-OVE-Deleg-User という名前) として、エージェントの配布を試行します。

これは、Windows オペレーティング システムを搭載したノードでのみ使用できます。このノードは、管理サーバーと同じドメイン、信頼関係のあるドメイン、またはワークグループに所属できます。
 - **偽装:** Windows へのログイン時に使用した資格情報を使用してエージェントを配布します。

信頼関係のないドメインまたはワークグループのノードに対しては、偽装を使用できません。

コンソールが管理サーバーで直接動作している場合を除き、偽装を使用できるのは PMAD ユーザーが Active Directory で委任を信頼されている場合のみです。委任の詳細については、Microsoft が提供する Active Directory のドキュメントを参照してください。
 - **ユーザー/パスワード:** このオプションを使用して、エージェントをインストールしたいノードの管理者資格情報を指定します。このオプションは、UNIX/Linux ノードに対してのみ使用できます。
- [Run prerequisites check automatically before deployment (配布前に自動的に前提条件チェックを実行する)]** オプションを選択する必要はありません。ノードでのインストール プロセスでは、常に前提条件チェックが行われ、問題がある場合は、HPOM コンソール側の配布ジョブに注釈としてエラー/失敗メッセージが追加されます。このボックスのチェックマークを外すことで、インストール時間を短縮できます。
- 4 [OK] をクリックします。
 - 5 インストールのステータスを表示するには、コンソール ツリーで [配布ジョブ] をクリックします。インストールのステータスが詳細ペインに表示されます。

事前設定情報によるインストール

通信ブローカ ポート、リバース チャネル プロキシ ポートなどの事前設定情報を使用し、ノードに HP Operations エージェントをインストールすることができます。任意の設定を設定ファイルに指定し、インストール中にその設定ファイルを使用することができます。インストールが終了すると、エージェントは設定ファイルに指定された設定を使用して運用を開始します。

事前設定情報を使用してエージェントをインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 管理サーバーの以下のディレクトリから、サンプルの設定ファイルを取得します。

%OvSharedDir%conf\PMAD\agent_install_defaults.cfg.sample


- 2 テキスト エディタを使用して、任意の設定をサンプル ファイルに指定し、同じ場所に agent_install_defaults.cfg という名前でファイルを保存します。
- 3 手順 1～手順 5 を実行し、ノードにエージェントをインストールします。




UNIX/Linux 9.00 の HPOM コンソールからのインストール

HP Operations エージェントを UNIX/Linux 9.00 の HPOM コンソールからリモートでインストールするには、以下の手順に従います。



HP Operations エージェントを UNIX/Linux 9.00 の HPOM コンソールからリモートで、Windows ノードにインストールすることはできません。しかし、エージェントを手動で Windows ノードにインストールし、次にそのノードをインストール サーバーとして使用して、HPOM on UNIX/Linux 9.00 コンソールから複数の Windows ノードにエージェントをインストールすることは可能です。エージェントを複数の Windows ノードにインストールしたい場合は、事前に 44 ページの「[Windows サーバーを使用したインストール](#)」の手順に従います。

- 1 UNIX/Linux 9.00 の HPOM の管理 UI にログインします。
- 2 **[配布]>[Agent (De)Installation (エージェントのインストール / 削除)]** をクリックします。[Agent (De)Installation (エージェントのインストール / 削除)] ページが開きます。
- 3 **[参照]>[登録ノード]** をクリックします。[登録ノード] ページが表示されます。
- 4 [アクションの選択] ボックスで [ノードの追加] を選択し、次に  (**Submit (サブミット)**) をクリックします。[ノードの追加] ページが表示されます。
- 5 [ノードの追加] ページでノード タイプを選択し、次に [プロパティ] タブで以下の詳細情報を指定します。
 - **ホスト名:** 管理したいノードの完全修飾ドメイン名。
 - **ラベル:** ノードのラベル。
 - **IP アドレス:** 多くの場合、このフィールドには自動的にデータが入力されます。入力されない場合は、管理したいノードの IP アドレスを手動で指定します。
 - 追加しようとしているノードの IP アドレスが動的アドレスの場合は、[システムは IP を動的に取得する (DHCP)] オプションを選択します。
- 6 (オプション) ハートビート ポーリング機能を有効にしたい場合は、[管理] タブで詳細情報を指定します。
- 7 [インストール] タブで、以下の詳細情報を指定します。
 - **[Automatic Installation (自動インストール)]** オプションを選択します。
 - ノードの root 権限または管理権限を持つユーザーの名前を指定します (ユーザーはソフトウェアをノードにインストールする権限を持つ必要があります)。
 - **[システム リソース ファイルを自動アップデート]** オプションを選択します。
 - **UNIX/Linux ノードの場合のみ:** **[Use SSH During Installation (インストール時に SSH を使用)]** オプションを選択します。

- **Windows ノードの場合のみ:** [Installation Options (インストール オプション)] セクションで、以下の詳細情報を指定します。
- ▶ エージェントをリモートで Windows ノードにインストールするには、最初にエージェントを Windows ノードに手でインストールして、設定と実行を行う必要があります。
- **インストールするドライブ:\ディレクトリ:** エージェントをノードにインストールするためのターゲット パスを指定します。情報は次の形式で指定します。
ドライブ:\ ディレクトリ。例: C:\HPOM
 - **インストール時使用サーバー:**  をクリックして、エージェントがインストールされ稼働している Windows ノードを選択します。このノードを経由し、他の Windows ノードにエージェントをインストールすることができます。
- 8 [通信タイプ] タブで、通信タイプが **HTTPS** に設定されていることを確認します。
 - 9 [保存] をクリックします。選択したノードのインストール詳細情報が、すべて保存されます。
 - 10 [参照]>[全ノード] をクリックします。[全ノード] ページが表示されます。
 - 11 新しく追加されたノードの隣で  をクリックし、次に [Agent Installation (エージェントのインストール)] をクリックします。[Agent Installation (エージェントのインストール)] ページが表示されます。
 - 12 インストール タイプとして、[インストール] を選択します。
 - 13 ノードを選択するには、以下の手順に従います。
 - a  をクリックします。[セレクト] ポップアップ ボックスが開きます。
 - b [セレクト] ポップアップ ボックスで、エージェントをインストールしたいノードを選択します。
 - 14 [Preinstall Check (プレインストールのチェック)] をクリックします。HPOM は、選択したノードがエージェントをインストールするためのすべての要件を満たしていることを検証します。前提条件チェックが正常に終了すると、以下の詳細情報を含んだ [プロパティ] ページが開きます。
 - ノード名: 選択したノードの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
 - IP アドレス: 選択したノードの IP アドレス。
 - マシン タイプ: ノードのアーキテクチャ詳細情報。
 - ネットワーク タイプ: ネットワークのタイプ。
 - 方式: HPOM が使用するインストール方法。設定可能な値は次のとおりです。
SSH、ローカル、標準、または HTTPS。
 - ステータス: プレインストール チェックの結果。ready と表示されていれば、インストールを開始できます。
 - パスワード: ノードの root または管理者ユーザーのパスワードを指定します。
 - 15 [Install on Selected Nodes (選択したノードにインストール)] をクリックします。インストールプロセスが開始します。
 - 16 インストール プロセスのステータスを表示するには、[配布]>[インストール ジョブ] をクリックします。

事前設定情報によるインストール

通信ブローカ ポート、リバース チャネル プロキシ ポートなどの事前設定情報を使用し、ノードに **HP Operations** エージェントをインストールすることができます。任意の設定を設定ファイルに指定し、インストール中にその設定ファイルを使用することができます。インストールが終了すると、エージェントは設定ファイルに指定された設定を使用して運用を開始します。

事前設定情報を使用してエージェントをインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 管理サーバーの以下の場所から、サンプルの設定ファイルを取得します。
`/etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/bbc_inst_defaults.sampl`
- 2 テキスト エディタを使用して、任意の設定をサンプル ファイルに指定し、同じ場所に `bbc_inst_defaults` という名前でファイルを保存します。
- 3 手順 1～手順 16 を実行し、ノードにエージェントをインストールします。

HPOM for UNIX 8.35 コンソールからのインストール

HP Operations エージェントを HPOM for UNIX 8.35 コンソールからリモートで自動的にインストールするには、以下の手順に従います。



HP Operations エージェントを HPOM for UNIX 8.35 コンソールからリモートで、Windows ノードにインストールすることはできません。しかし、エージェントを手動で Windows ノードにインストールし、次にそのノードをインストール サーバーとして使用して、HPOM for UNIX 8.35 コンソールから複数の Windows ノードにエージェントをインストールすることは可能です。エージェントを複数の Windows ノードにインストールしたい場合は、事前に 44 ページの「**Windows サーバーを使用したインストール**」の手順に従います。

- 1 [OVO 登録ノード] ウィンドウで、**[アクション: ノード]>[追加]** をクリックします。[ノードの追加] ウィンドウが開きます。
- 2 [ノードの追加] ウィンドウで、以下の詳細情報を指定します。
 - ラベル: ノードの名前を追加します。
 - ホスト名: ノードの **FQDN** を指定します。
 - 追加しようとしているノードの IP アドレスが動的アドレスの場合は、[システムは IP を動的に取得する (DHCP)] オプションを選択します。
 - システム / オペレーティング システムの組み合わせを選択します。
 - 管理対象ノードのタイプ: 使用可能なオプションのいずれかを選択します。
 - (オプション) ハートビート監視: 希望する設定を指定します。
 - OVO ソフトウェアのインストール: 以下の詳細情報を指定します。
 - 自動インストール / 削除: このオプションを選択します。
 - ユーザー: UNIX/Linux ノードの場合は、**root** を指定します。Windows ノードの場合は、管理権限を持つユーザーを指定します。
- 3 [ノードの追加] ウィンドウで、**[通信オプション]** をクリックします。[ノード通信オプション] ダイアログ ボックスが開きます。このダイアログ ボックスで、以下のチェック / タスクを実行します。
 - 通信タイプが **HTTPS** に設定されていることを確認します。OvCoreID パラメータが、自動的に参照用に表示されます。

- **Windows ノードの場合のみ:** [インストール] セクションで、以下の詳細情報を指定します。
 - (オプション) ドライブ:\ ディレクトリ: **HP Operations** エージェントは、**Windows** システムの任意のディレクトリにインストールすることができます。このフィールドには、エージェント用のデフォルト以外のインストール ディレクトリを設定できます。
 - (オプション) 使用サーバー: インストール プロセスを実施する際、経由させたい **Windows** サーバーの **FQDN** を指定します。**Windows** ノードをインストールサーバーとして設定するには、44 ページの「**Windows** サーバーを使用したインストール」を参照してください。

4 [ノードの追加] ウィンドウで、**[OK]** をクリックします。インストールプロセスが開始します。

事前設定情報によるインストール

通信ブローカ ポート、リバース チャネル プロキシ ポートなどの事前設定情報を使用し、ノードに **HP Operations** エージェントをインストールすることができます。任意の設定を設定ファイルに指定し、インストール中にその設定ファイルを使用することができます。インストールが終了すると、エージェントは設定ファイルに指定された設定を使用して運用を開始します。

事前設定情報を使用してエージェントをインストールするには、以下の手順に従います。


- 1 管理サーバーの以下の場所から、サンプルの設定ファイルを取得します。
/etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/bbc_inst_defaults.sampl
- 2 テキスト エディタを使用して、任意の設定をサンプル ファイルに指定し、同じ場所に `bbc_inst_defaults` という名前でファイルを保存します。
- 3 手順 1～手順 4 を実行し、ノードにエージェントをインストールします。

Windows サーバーを使用したインストール

HPOM for Windows コンソールを使用する場合は、このセクションをスキップしてください。

エージェントの **Windows** ノードへのリモートインストールを、**HPOM for UNIX 8.35**、または **UNIX/Linux** の **HPOM** 管理サーバーから直接行うことはできません。しかし、エージェントがすでにインストールされている **Windows** サーバーを使用し、**HP Operations** エージェントをインストールすることは可能です。他のノードにエージェントをインストールするために **Windows** システムを準備するには、以下の手順に従います。

- 1 **HP Operations** エージェントを手動でシステムにインストールし、そのシステムが管理対象ノードのリストに存在することを **HPOM** コンソールで確認します。
- 2 以下のいずれかのユーザーを使用して、エージェントを実行します。

 デフォルトの `LOCAL_SYSTEM` ユーザーを使用して、インストール サーバーでエージェントを実行しないでください。`LOCAL_SYSTEM` ユーザーは、リモートシステムにはアクセスできません。

- ドメイン管理者
- 以下の権限を持つユーザー
 - ターゲット ノードの管理権限
 - **Windows** パススルー認証が設定済み (両ノードのユーザー / パスワードが同一)
 - ネットワーク機能

十分な権限を持つユーザーを使用して実行されるようにエージェントを設定するには、以下の手順に従います。

1 システムにログオンします。

2 次のコマンドを実行します。

```
ovc -kill
```

Operations Monitoring Component が停止します。

3 希望するユーザーのプロファイルを作成します (HP Operations エージェントで使用されます)。さらに、ユーザーが以下の権限を持っていることを確認します。

- Windows サービスのスタートアップ ユーザーを変更する権限
- HP Operations エージェント データ ファイルのパーミッションを変更する権限

4 以下のディレクトリに移動します。

```
%ovinstalldir%bin
```

5 次のコマンドを実行します。

```
cscrip ovswitchuser.vbs -existinguser <ユーザー> -existinggroup <グループ>  
-passwd <パスワード>
```

6 [サービス] ウィンドウで、手順 3 で作成したユーザーを使用して HP OpenView Ctrl Service が実行されるように設定します。

7 以下のコマンドを実行して、Operations Monitoring Component を起動します。

```
ovc -start
```

ノードへの HP Operations エージェントの手動インストール

管理権限でスタンドアロン サーバーにログオンすると、そのサーバーに HP Operations エージェントをインストールできます。スタンドアロン サーバーに製品をインストールする際は、物理メディア (DVD) を使用するか、またはいずれかの HP Web サイトからプラットフォーム専用の .iso メディアをダウンロードすることができます。

また、HP Operations エージェント配布パッケージを手動で管理サーバーからノードに転送することも可能です。

Windows ノードの場合

HP Operations エージェントを Windows ノードにインストールするには、以下のタスクを実行します。

タスク 1: インストールの準備

インストール用にノードを準備するには、以下の手順に従います。

1 HPOM コンソールで、管理対象ノードのリストにノードを追加します。

2 HP Operations エージェント 11.00 のメディア、または HP Operations エージェント 11.00 の配布パッケージをノードに配置します。

メディアを配置するには、以下のタスクのいずれかを実行します。

- 物理メディアを使用してインストールしたい場合は、**HP Operations** エージェントの DVD を DVD-ROM ドライブに挿入します。
 - いずれかの **HP Web** サイトからインストール メディアをダウンロードします。**Web** サイトはプラットフォーム専用のさまざまな **.iso** ファイルを、**HP Operations** エージェント **11.00** インストール パッケージとして提供します。プラットフォーム専用の **.iso** ファイルをダウンロードできます。**.iso** ファイルをダウンロードした後は、ファイルの内容をノードのローカル ディレクトリに解凍します。
- 3 または、配布パッケージを手動で、管理サーバーからノードに転送したい場合は、以下のいずれかの手順を使用します。

- **Windows 管理サーバーからの転送**

配布パッケージを **Windows** 管理サーバーから転送するには、以下のタスクを所定の順序で実行します。

- ノードが管理対象ノードとして追加されていることを、**HPOM** コンソールで確認します。
- 管理サーバーにディレクトリを作成し、そのディレクトリに移動します。
- 次のコマンドを実行します。

```
ovpmmutil dnl pkg Operations-agent /pnn <ノードの FQDN>
```

この場合、**<ノードの FQDN>** は、ノードの完全修飾ドメイン名です。

ノードの配布パッケージは、現在のディレクトリにダウンロードされます。

- このディレクトリを、管理サーバーからノードの一時ディレクトリへ転送し、次に **49** ページの「手動で配布パッケージをノードに転送した後のインストール」の指示に従います。

- **UNIX/Linux 管理サーバーからの転送**

管理サーバーにログオンし、次に以下のディレクトリに移動します。

```
/var/opt/OV/share/databases/OpC/mgd_node/vendor/<ベンダ>/<アーキテクチャ>/<OS タイプ>/A.11.00.000
```

この例では次のようになります。

<ベンダ> : オペレーティング システムのベンダの名前。

<アーキテクチャ> : ノードのアーキテクチャ。

<OS タイプ> : ノードのオペレーティング システム。

システムのアーキテクチャとオペレーティング システムのタイプに応じて、**<ベンダ>/<アーキテクチャ>/<OS タイプ>** を正しく組み合わせた値を選択する必要があります。

以下の表は、**<ベンダ>/<アーキテクチャ>/<OS タイプ>** の使用可能な組み合わせのリストを示しています。

オペレーティング

システム	アーキテクチャ	選択可能な組み合わせ
Windows	Itanium	ms/ipf64/win2k3
Windows	x86_64	ms/x64/win2k3
Windows	x86	ms/x86/winnt

RPC_BBC ディレクトリの内容 (A.11.00.000 ディレクトリに存在) をノードの一時ディレクトリに転送し、次に 49 ページの「手動で配布パッケージをノードに転送した後のインストール」の指示に従います。RPC_BBC ディレクトリには、必要なパッケージとエージェントインストール用のインストーラ プログラム (oasetup) が含まれています。


タスク 2: エージェントのインストール

エージェントをノードにインストールするには、以下のオプションがあります。

- 47 ページの「メディアからのインストール」
- 49 ページの「手動で配布パッケージをノードに転送した後のインストール」

メディアからのインストール

インストール メディアからエージェントをインストールするには、管理権限でノードにログオンし、以下のいずれかを実行します。

 ノードがインストールの前提条件を満たしているかどうかをチェックするために、製品のインストール前に前提条件チェックだけを実行することができます。

前提条件チェックを実行するには、**cscrip oainstall.vbs -install -agent -precheckonly** を実行します。このコマンドの出力として、前提条件チェックのレポートが表示されます。

- エージェントをインストールし、HPOM 管理サーバーでエージェントを設定するには、メディアのルート ディレクトリから以下のコマンドを実行します。

```
cscrip oainstall.vbs -install -agent -srv < 管理サーバー > [-cert_srv  
< 証明書サーバー >][-install_dir < インストール ディレクトリ > -data_dir  
< データ ディレクトリ >]
```

または

```
cscrip oainstall.vbs -i -a -s < 管理サーバー > [-cs < 証明書サーバー >]  
[-install_dir < インストール ディレクトリ > -data_dir < データ ディレクトリ >]
```


エージェントをインストールするために .vbs ファイルを使用したくない場合は、以下の手順に従います。

- a メディアのルート ディレクトリから、packages\WIN ディレクトリに移動します。
- b ノードのアーキテクチャに応じて、適切なディレクトリに移動します。
 - Windows_IA64 (Itanium プラットフォームの場合)
 - Windows_X64 (x64 プラットフォームの場合)
 - Windows_X86 (x86 プラットフォームの場合)
- c Microsoft Visual C++ Redistributable Package がシステムにインストールされていない場合は、Microsoft Visual C++ Redistributable Package 用の実行可能ファイル (このディレクトリに存在) を実行します。

Itanium プラットフォームの場合は、2 つの実行可能ファイル (vcredist_IA64.exe と vcredist_IA64_VS2008.exe) を実行します。
- d 次のコマンドを実行します。

```
oasetup -install -management_server <管理サーバー>
[-certificate_server <証明書サーバー>][-install_dir <インストール ディレクトリ> -data_dir <データ ディレクトリ>]
```

必要なオプションと引数を指定してコマンドを実行すると、インストール手順が開始されます。インストールが終了すると、エージェントはノードで運用を開始し、必要なすべてのコンポーネントが稼働を開始します。

 エージェントの管理サーバーまたは証明書サーバーを変更する場合は、以下のコマンドを実行します。

```
cscrip oainstall.vbs -activateonly -s <管理サーバー> [-cs <証明書サーバー>]
```

または

```
oasetup -install -activateonly -management_server <管理サーバー>
[-certificate_server <証明書サーバー>]
```

- 設定詳細情報を指定せずにエージェントをインストールするには、以下のコマンドを実行します。

```
cscrip oainstall.vbs -install -agent -defer_configure [-install_dir
<インストール ディレクトリ> -data_dir <データ ディレクトリ>]
```

または

```
cscrip oainstall.vbs -i -a -defer_configure [-install_dir <インストール
ディレクトリ> -data_dir <データ ディレクトリ>]
```

または、エージェントをインストールするために .vbs ファイルを使用したくない場合は、以下の手順に従います。

- a メディアのルート ディレクトリから、packages\WIN ディレクトリに移動します。
- b ノードのアーキテクチャに応じて、適切なディレクトリに移動します。
 - Windows_IA64 (Itanium プラットフォームの場合)
 - Windows_X64 (x64 プラットフォームの場合)
 - Windows_X86 (x86 プラットフォームの場合)
- c Microsoft Visual C++ Redistributable Package がシステムにインストールされていない場合は、Microsoft Visual C++ Redistributable Package 用の実行可能ファイル(このディレクトリに存在)を実行します。

Itanium プラットフォームの場合は、2つの実行可能ファイル(vcredist_IA64.exe と vcredist_IA64_VS2008.exe)を実行します。

- d 次のコマンドを実行します。

```
oasetup -install -management_server <管理サーバー>
[-certificate_server <証明書サーバー>][-install_dir <インストール ディレクトリ> -data_dir <データ ディレクトリ>]
```

コマンドを実行すると、インストール手順が開始されます。インストールが終了すると、インストーラ プログラムは必要なすべてのファイルとパッケージをノードに配置しますが、エージェントを管理サーバーと連携して動作するように設定するまでは、コンポーネントは稼働しません。

この例では次のようになります。

- < 管理サーバー > : 管理サーバーの FQDN。
- < 証明書サーバー > : 証明書サーバーの FQDN。
- < インストール ディレクトリ > : すべてのパッケージとバイナリ ファイルをノードに配置するためのパス。
- < データ ディレクトリ > : すべてのデータと設定ファイルをノードに配置するためのパス。

▶ インストールディレクトリとデータディレクトリの名前にスペースが含まれる場合は、ディレクトリ名を引用符 (" ") で囲んで指定してください。

▶ 別の HP ソフトウェア製品がノードにインストールされているときは、インストーラは **-install_dir** と **-data_dir** オプションを無視する場合があります。インストーラは自動的に、他の HP ソフトウェア製品のインストールディレクトリとデータディレクトリに HP Operations エージェントをインストールします。

手動で配布パッケージをノードに転送した後のインストール

ノードに転送した配布パッケージを使用してエージェントをインストールするには、管理権限でノードにログオンし、エージェントの配布パッケージを格納したディレクトリに移動して、以下のいずれかを実行します。

▶ ノードがインストールの前提条件を満たしているかどうかをチェックするために、製品のインストール前に前提条件チェックだけを実行することができます。

前提条件チェックを実行するには、**oasetup -install -precheckonly** を実行します。このコマンドの出力として、前提条件チェックのレポートが表示されます。

プレインストール手順

- 1 配布パッケージを格納したノードのディレクトリに移動し、次に `packages\WIN` ディレクトリに移動します。
- 2 ノードのアーキテクチャに応じて、適切なディレクトリに移動します。
 - `Windows_IA64` (Itanium プラットフォームの場合)
 - `Windows_X64` (x64 プラットフォームの場合)
 - `Windows_X86` (x86 プラットフォームの場合)
- 3 Microsoft Visual C++ Redistributable Package がシステムにインストールされていない場合は、Microsoft Visual C++ Redistributable Package 用の実行可能ファイル (このディレクトリに存在) を実行します。

Itanium プラットフォームの場合は、2 つの実行可能ファイル (`vcredist_IA64.exe` と `vcredist_IA64_VS2008.exe`) を実行します。

インストール

▶ ノードがインストールの前提条件を満たしているかどうかをチェックするために、製品のインストール前に前提条件チェックだけを実行することができます。

前提条件チェックを実行するには、**oasetup -install -agent -precheckonly** を実行します。このコマンドの出力として、前提条件チェックのレポートが表示されます。

- エージェントをインストールし、HPOM 管理サーバーでエージェントを設定するには、以下のコマンドを実行します。

```
oasetup -install -management_server <管理サーバー> [-certificate_server <証明書サーバー>][-install_dir <インストール ディレクトリ> -data_dir <データ ディレクトリ>]
```

必要なオプションと引数を指定してコマンドを実行すると、インストール手順が開始されます。インストールが終了すると、エージェントはノードで運用を開始し、必要なすべてのコンポーネントが稼働を開始します。



エージェントの管理サーバーまたは証明書サーバーを変更する場合は、以下のコマンドを実行します。

```
oasetup -install -activateonly -management_server <管理サーバー> [-certificate_server <証明書サーバー>]
```

- 設定詳細情報を指定せずにエージェントをインストールするには、以下のコマンドを実行します。

```
oasetup -install -defer_configure [-install_dir <インストール ディレクトリ> -data_dir <データ ディレクトリ>]
```

コマンドを実行すると、インストール手順が開始されます。インストールが終了すると、インストーラ プログラムは必要なすべてのファイルとパッケージをノードに配置しますが、エージェントを管理サーバーと連携して動作するように設定するまでは、コンポーネントは稼働しません。

この例では次のようになります。

- **< 管理サーバー >** : 管理サーバーの FQDN。
- **< 証明書サーバー >** : 証明書サーバーの FQDN。
- **< インストール ディレクトリ >** : すべてのパッケージとバイナリ ファイルをノードに配置するためのパス。
- **< データ ディレクトリ >** : すべてのデータと設定ファイルをノードに配置するためのパス。



インストール ディレクトリとデータ ディレクトリの名前にスペースが含まれる場合は、ディレクトリ名を引用符 (" ") で囲んで指定してください。



別の HP ソフトウェア製品がノードにインストールされているときは、インストーラは **-install_dir** と **-data_dir** オプションを無視する場合があります。インストーラは自動的に、他の HP ソフトウェア製品のインストール ディレクトリとデータ ディレクトリに HP Operations エージェントをインストールします。

エージェントの設定

-defer_configure オプションを使用してエージェントをインストールした場合は、以下の手順に従います。

また将来、エージェントを設定して運用を開始したいときは、以下の手順に従います。

- 1 ノードの以下の場所へ移動します。
 - Windows 64 ビット ノードの場合

```
%ovinstalldir%bin\win64\OpC\install
```

- その他の Windows ノードの場合

```
%ovinstalldir%bin\OpC\install
```

- 2 次のコマンドを実行します。

```
cscrip oainstall.vbs -a -configure -srv < 管理サーバー > [-cert_srv  
< 証明書サーバー >]
```

または

```
cscrip oainstall.vbs -a -configure -s < 管理サーバー > [-cs < 証明書サー  
バー >]
```

あるいは、次のコマンドを実行します。

```
oasetup -configure -management_server < 管理サーバー >  
[-certificate_server < 証明書サーバー >]
```

この例では次のようになります。

- < 管理サーバー > : 管理サーバーの FQDN。
- < 証明書サーバー > : 証明書サーバーの FQDN。



-cs オプションを付けて証明書サーバーを指定しなかった場合は、インストーラは管理サーバーを証明書サーバーとして割り当てます。

将来の設定パラメータの変更

ノードに関連付けられた管理サーバーや証明書サーバーなどの設定パラメータを変更したい場合は、oainstall プログラムに -configure オプションを付けて使用することができます。

設定パラメータを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 ノードの以下の場所に移動します。

- Windows 64 ビット ノードの場合

```
%ovinstalldir%bin\win64\OpC\install
```

- その他の Windows ノードの場合

```
%ovinstalldir%bin\OpC\install
```

- 2 次のコマンドを実行します。

```
cscrip oainstall.vbs -a -configure -srv < 管理サーバー > -cert_srv  
< 証明書サーバー >
```

または

```
cscrip oainstall.vbs -a -configure -s < 管理サーバー > -cs < 証明書サー  
バー >
```

あるいは、次のコマンドを実行します。

```
oasetup -configure -management_server < 管理サーバー >  
[-certificate_server < 証明書サーバー >]
```

UNIX/Linux ノードの場合

HP Operations エージェントを UNIX/Linux ノードにインストールするには、以下のタスクを実行します。

タスク 1: インストールの準備

インストール用にノードを準備するには、以下の手順に従います。

- 1 HPOM コンソールで、管理対象ノードのリストにノードを追加します。
- 2 HP Operations エージェント 11.00 のメディア、または HP Operations エージェント 11.00 の配布パッケージをノードに配置します。

メディアを配置するには、以下のタスクのいずれかを実行します。

- 物理メディアを使用してインストールしたい場合は、HP Operations エージェントの DVD を DVD-ROM ドライブに挿入します。
- いずれかの HP Web サイトからインストール メディアをダウンロードします。Web サイトはプラットフォーム専用のさまざまな .iso ファイルを、HP Operations エージェント 11.00 インストール パッケージとして提供します。プラットフォーム専用の .iso ファイルをダウンロードできます。.iso ファイルをダウンロードした後は、ファイルの内容をノードのローカル ディレクトリに解凍します。

または、配布パッケージを手動で、管理サーバーからノードに転送したい場合は、以下のいずれかの手順を使用します。

- **Windows 管理サーバーからの転送**

配布パッケージを Windows 管理サーバーから転送するには、以下のタスクを所定の順序で実行します。

- ノードが管理対象ノードとして追加されていることを、HPOM コンソールで確認します。
- 管理サーバーにディレクトリを作成し、そのディレクトリに移動します。
- 次のコマンドを実行します。

```
ovpmutil dn1 pkg Operations-agent /pnn <ノードの FQDN>
```

この場合、<ノードの FQDN> は、ノードの完全修飾ドメイン名です。

ノードの配布パッケージは、現在のディレクトリにダウンロードされます。

- このディレクトリを、管理サーバーからノードの一時ディレクトリへ転送し、次に 54 ページの「手動で配布パッケージをノードに転送した後のインストール」の指示に従います。

- **UNIX/Linux 管理サーバーからの転送**

管理サーバーにログオンし、次に以下のディレクトリに移動します。

```
/var/opt/OV/share/databases/OpC/mgd_node/vendor/<ベンダ>/<アーキテクチャ>/<OS タイプ>/A.11.00.000
```

この例では、

<ベンダ>: オペレーティング システムのベンダの名前。

<アーキテクチャ> : ノードのアーキテクチャ。

<OS タイプ> : ノードのオペレーティング システム。

システムのアーキテクチャとオペレーティング システムのタイプに応じて、<ベンダ>/<アーキテクチャ>/<OS タイプ> を正しく組み合わせた値を選択する必要があります。

以下の表は、<ベンダ>/<アーキテクチャ>/<OS タイプ> の使用可能な組み合わせのリストを示しています。

オペレーティングシステム	アーキテクチャ	選択可能な組み合わせ
Linux	Itanium	linux/ipf64/linux26
Linux	x86_64	linux/x64/linux26
Linux	x86	linux/x86/linux26
HP-UX	Itanium	hp/ipf32/hpux1122
HP-UX	PA-RISC	hp/pa-risc/hpux1100
Solaris	SPARC	sun/sparc/solaris7
Solaris	x86	sun/x86/solaris10
AIX	PowerPC (32 ビット)	ibm/rs6000/aix5
AIX	PowerPC (64 ビット)	ibm/rs6k64/aix5

RPC_BBC ディレクトリの内容 (A.11.00.000 ディレクトリに存在) をノードの一時ディレクトリに転送し、次に 54 ページの「手動で配布パッケージをノードに転送した後のインストール」の指示に従います。RPC_BBC ディレクトリには、必要なパッケージとエージェントインストール用のインストーラ プログラム (oasetup) が含まれています。

タスク 2: エージェントのインストール

エージェントをノードにインストールするには、以下のオプションがあります。

- 53 ページの「メディアからのインストール」
- 54 ページの「手動で配布パッケージをノードに転送した後のインストール」

メディアからのインストール

インストール メディアからエージェントをインストールするには、**root** 権限でノードにログオンし、以下のいずれかを実行します。

- 🚩 ノードがインストールの前提条件を満たしているかどうかをチェックするために、製品のインストール前に前提条件チェックだけを実行することができます。
前提条件チェックを実行するには、メディアのルート ディレクトリから以下のコマンドを実行します。

```
./oainstall.sh -install -agent -precheckonly
```

このコマンドの出力として、前提条件チェックのレポートが表示されます。

- エージェントをインストールし、HPOM 管理サーバーでエージェントを設定するには、メディアのルート ディレクトリから以下のコマンドを実行します。

```
./oainstall.sh -install -agent -srv <管理サーバー> -cert_srv  
<証明書サーバー>
```

または

```
./oainstall.sh -i -a -s <管理サーバー> -cs <証明書サーバー>
```

必要なオプションと引数を指定してコマンドを実行すると、インストール手順が開始されます。インストールが終了すると、エージェントはノードで運用を開始し、必要なすべてのコンポーネントが稼働を開始します。

- 設定詳細情報を指定せずにエージェントをインストールするには、以下のコマンドを実行します。

```
./oainstall.sh -install -agent -defer_configure
```


または


```
./oainstall.sh -i -a -defer_configure
```

コマンドを実行すると、インストール手順が開始されます。インストールが終了すると、インストーラプログラムは必要なすべてのファイルとパッケージをノードに配置しますが、エージェントを管理サーバーと連携して動作するように設定するまでは、コンポーネントは稼働しません。

この例では、

- <管理サーバー> : 管理サーバーの FQDN。
- <証明書サーバー> : 証明書サーバーの FQDN。


 **-cs** オプションを付けて証明書サーバーを指定しなかった場合は、インストーラは管理サーバーを証明書サーバーとして割り当てます。

 エージェントの管理サーバーまたは証明書サーバーを変更する場合は、以下のコマンドを実行します。


```
./oainstall.sh -activateonly -s <管理サーバー> [-cs <証明書サーバー>]
```

手動で配布パッケージをノードに転送した後のインストール

ノードに転送した配布パッケージを使用してエージェントをインストールするには、**root** 権限でノードにログオンし、エージェントの配布パッケージを格納したディレクトリに移動して、以下のいずれかを実行します。

 **oasetup** コマンドを使用する前に、次のコマンドを実行します。

```
chmod u+x oasetup.sh
```

 ノードがインストールの前提条件を満たしているかどうかをチェックするために、製品のインストール前に前提条件チェックだけを実行することができます。前提条件チェックを実行するには、メディアのルート ディレクトリから以下のコマンドを実行します。


```
./oasetup.sh -install -agent -precheckonly
```

このコマンドの出力として、前提条件チェックのレポートが表示されます。

- エージェントをインストールし、HPOM 管理サーバーでエージェントを設定するには、以下のコマンドを実行します。

```
./oasetup.sh -install -management_server <管理サーバー>  
[-certificate_server <証明書サーバー>]
```

必要なオプションと引数を指定してコマンドを実行すると、インストール手順が開始されます。インストールが終了すると、エージェントはノードで運用を開始し、必要なすべてのコンポーネントが稼働を開始します。

 エージェントの管理サーバーまたは証明書サーバーを変更する場合は、以下のコマンドを実行します。

```
./oasetup.sh -activateonly -management_server <管理サーバー>  
[-certificate_server <証明書サーバー>]
```


- 設定詳細情報を指定せずにエージェントをインストールするには、以下のコマンドを実行します。

```
./oasetup.sh -install -defer_configure
```

コマンドを実行すると、インストール手順が開始されます。インストールが終了すると、インストーラプログラムは必要なすべてのファイルとパッケージをノードに配置しますが、エージェントを管理サーバーと連携して動作するように設定するまでは、コンポーネントは稼働しません。

この例では次のようになります。

- <管理サーバー> : 管理サーバーの FQDN。
- <証明書サーバー> : 証明書サーバーの FQDN。

 **-cs** オプションを付けて証明書サーバーを指定しなかった場合は、インストーラは管理サーバーを証明書サーバーとして割り当てます。

エージェントの設定

-defer_configure オプションを使用してエージェントをインストールした場合は、以下の手順に従います。

また将来、エージェントを設定して運用を開始したいときは、以下の手順に従います。

- 1 以下の場所へ移動します。

- AIX の場合 : /usr/lpp/OV/bin/OpC/install
- それ以外の UNIX/Linux ノードの場合 : /opt/OV/bin/OpC/install

- 2 次のコマンドを実行します。


```
./oainstall.sh -a -configure -srv <管理サーバー> -cert_srv  
<証明書サーバー>
```

または

```
./oainstall.sh -a -configure -s <管理サーバー> -cs <証明書サーバー>
```

この例では次のようになります。

- <管理サーバー> : 管理サーバーの FQDN。
- <証明書サーバー> : 証明書サーバーの FQDN。

 **-cs** オプションを付けて証明書サーバーを指定しなかった場合は、インストーラは管理サーバーを証明書サーバーとして割り当てます。

将来の設定パラメータの変更

ノードに関連付けられた管理サーバーや証明書サーバーなどの設定パラメータを変更したい場合は、`oainstall` プログラムに `-configure` オプションを付けて使用することができます。

設定パラメータを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 以下の場所に移動します。

- HP-UX/Linux/Solaris の場合：

```
/opt/OV/bin/OpC/install
```

- AIX の場合：

```
/usr/lpp/OV/bin/OpC/install
```

- 2 次のコマンドを実行します。

```
./oainstall.sh -a -configure -srv <管理サーバー> -cert_srv  
<証明書サーバー>
```

または

```
./oainstall.sh -a -configure -s <管理サーバー> -cs <証明書サーバー>
```

プロファイル ファイルによる HP Operations エージェントのインストール

HP Operations エージェントのインストール後、`ovconfchg` コマンドを使用してさまざまな設定変数をセットし、エージェントのデフォルトの動作を変更することができます。任意の設定変数を指定したプロファイル ファイルを作成し、そのプロファイル ファイルを使用してエージェントをインストールすると、エージェントはプロファイル ファイルに指定された変更された設定を使用して稼働を開始します。

Windows 管理サーバーからのインストール

- 1 ノード設定エディタを使用して、ノードを HPOM に追加します。ただし、ノードへのエージェントの配布は行いません。
- 2 管理サーバーで、以下のコマンドを実行します。

```
ovpmutil dnl prf /fqdn <完全修飾ドメイン名>
```

この場合、`<完全修飾ドメイン名>` は、追加したノードの完全修飾ドメイン名です。


コマンドにより、現在のディレクトリにプロファイル ファイル (`<ノード名>.profile`) が作成されます。

- 3 プロファイル ファイルを取得し、テキスト エディタでファイルを開きます。
- 4 任意の設定を、以下の形式で指定します。

```
set <名前空間> : <変数>=<値>
```

上記形式の説明：

- `<名前空間>` : 設定変数の名前空間。
- `<変数>` : 設定変数。
- `<値>` : 変数にセットする値。

 すべての設定変数に対して、値を指定することができます。


- 5 ファイルを保存します。
- 6 エージェントをインストールしたいノードに、ファイルを転送します。
- 7 **HP Operations** エージェントのインストールメディアのルートディレクトリから、以下のコマンドを実行します。

Windows ノードの場合

```
cscript oainstall.vbs -i|-install -a|-agent -agent_profile <ノード名> .profile
```

UNIX/Linux ノードの場合

```
./oainstall.sh -i|-install -a|-agent -agent_profile <ノード名>.profile
```

 **<ノード名>.profile** ファイルの完全なパスを指定します。

必要なオプションと引数を指定してコマンドを実行すると、インストール手順が開始されます。インストールが終了すると、エージェントはノードで運用を開始し、必要なすべてのコンポーネントが稼働を開始します。

UNIX/Linux 管理サーバーからのインストール

- 1 **HPOM** コンソールを使用して、ノードを **HPOM** に追加します。ただし、ノードへのエージェントの配布は行いません。
- 2 管理サーバーで、以下のコマンドを実行します。

```
/opt/OV/bin/OpC/opcs -create_list_info <完全修飾ドメイン名>
```

この場合、**<完全修飾ドメイン名>** は、追加したノードの完全修飾ドメイン名です。


コマンドにより、プロファイルファイル (**<ノードの IP アドレス>.i**) が **/var/opt/OV/share/tmp/OpC/distrib** ディレクトリに作成されます。

- 3 プロファイルファイルを取得し、テキストエディタでファイルを開きます。
- 4 任意の設定を、以下の形式で指定します。

```
set <名前空間> : <変数>=<値>
```

上記形式の説明：

- **<名前空間>** : 設定変数の名前空間。
- **<変数>** : 設定変数。
- **<値>** : 変数にセットする値。

 すべての設定変数に対して、値を指定することができます。

- 5 ファイルを保存します。
- 6 エージェントをインストールしたいノードに、ファイルを転送します。
- 7 **HP Operations** エージェントのインストールメディアのルートディレクトリから、以下のコマンドを実行します。

Windows ノードの場合

```
cscript oainstall.vbs -install -agent -agent_profile <ノードの IP アドレス>.i
```

または


```
cscript oainstall.vbs -i -a -agent_profile <ノードの IP アドレス>.i
```

UNIX/Linux ノードの場合

```
./oainstall.sh -install -agent -agent_profile <ノードの IP アドレス>.i
```

または

```
./oainstall.sh -i -a -agent_profile <ノードの IP アドレス>.i
```

 <ノード名>.i ファイルの完全パスを指定します。

必要なオプションと引数を指定してコマンドを実行すると、インストール手順が開始されます。インストールが終了すると、エージェントはノードで運用を開始し、必要なすべてのコンポーネントが稼働を開始します。

HP Operations エージェントのリモート設定

-defer_configure オプション付きで HP Operations エージェントをインストールした場合、エージェントが HPOM 管理サーバーと連携して動作するように、後で設定する必要があります。ノードのエージェントはローカルで設定するか、または HPOM for Windows 管理サーバーからリモートで設定することができます。

エージェントを HPOM for Windows 管理サーバーからリモートで設定するには、以下の手順に従います。

1 SSH クライアントを設定します。

 HPOM for Windows では、サードパーティ製 SSH クライアント ソフトウェア PuTTY が提供されています。ここでは、PuTTY SSH クライアントの設定手順について説明します。

PuTTY は HP のソフトウェアではありません。このソフトウェアは保証なしで提供されています。したがって、PuTTY の使用または性能に関するすべての損害は、お客様の責任となります。

管理サーバーの %ovinstalldir%\contrib\OVOW\PuTTY ディレクトリから、PLINK.EXE、PSCP.EXE、および runplink.cmd ファイルを、PATH 環境変数に含まれている任意のディレクトリにコピーします。たとえば、管理サーバーが C:\Program Files\HP\HP BTO Software にインストールされている場合は、次のディレクトリにファイルをコピーします。

```
C:\Program Files\HP\HP BTO Software\bin
```

2 ユーザーを作成します。

エージェントをリモートでインストールする際に、HPOM はノードに対する管理アクセス権を持つユーザーの資格情報を必要とします。次のリストは、ノードのオペレーティングシステムに応じて必要となる具体的な権限を示しています。

- Windows

- ADMIN\$ 共有への書き込みアクセス (ユーザーはローカル Administrators グループのメンバであること)
- レジストリの読み取りアクセス

- 「サービスとしてログオン」の権限 ([資格情報の設定] リストで [ユーザー/パスワード] を選択する場合にのみ必要)

- **UNIX/Linux**

ファイルを転送するためにノード上の SSH にログインする権限、およびインストールコマンドを実行する権限

3 エージェントを設定します。

管理サーバーで、次のコマンドを実行します。

Windows 64 ビット ノードの場合

```
ovdeploy -cmd "%ovinstalldir%bin\win64\OpC\install\oasetup -configure
-management_server <管理サーバー> -certificate_server <証明書サーバー>"
-node <ノード名> -fem winservice -ostype Windows -user <ノード ユーザー>
-pw <ノード ユーザーのパスワード>
```

それ以外の Windows ノードの場合

```
ovdeploy -cmd "%ovinstalldir%bin\OpC\install\oasetup -configure
-management_server <管理サーバー> -certificate_server <証明書サーバー>"
-node <ノード名> -fem winservice -ostype Windows -user <ノード ユーザー>
-pw <ノード ユーザーのパスワード>
```

HP-UX、Linux、Solaris ノードの場合

```
ovdeploy -cmd "/opt/OV/bin/OpC/install/oainstall.sh -a -configure
-srv <管理サーバー> -cs <証明書サーバー>" -node <ノード名> -fem ssh
-ostype UNIX -user <ノード ユーザー> -pw <ノード ユーザーのパスワード>
```

AIX ノードの場合

```
ovdeploy -cmd "/usr/lpp/OV/bin/OpC/install/oainstall.sh -a -configure
-srv <管理サーバー> -cs <証明書サーバー>" -node <ノード名> -fem ssh
-ostype UNIX -user <ノード ユーザー> -pw <ノード ユーザーのパスワード>
```

この例では次のようになります。

- <管理サーバー> : 管理サーバーの完全修飾ドメイン名。
- <証明書サーバー> : 証明書サーバーの完全修飾ドメイン名。このパラメータはオプションです。-cs オプションを指定しなかった場合は、管理サーバーがノードの証明書サーバーになります。
- <ノード名> : ノードの完全修飾ドメイン名。
- <ノード ユーザー> : ノードのエージェントを設定可能なユーザー。このユーザーは 58 ページの [手順 2](#) で作成されています。
- <ノード ユーザーのパスワード> : 上記ユーザーのパスワード。

スタンドアロン システムへの HP Operations エージェントのインストール

HPOM が使用できない環境では、HP Operations エージェントをスタンドアロン システムへインストールし、システム パフォーマンス メトリックを監視することができます。

HP Operations エージェントをスタンドアロン システムにインストールするには、以下の手順に従います。

Windows の場合

- 1 管理権限でシステムにログオンします。
- 2 以下のいずれかのタスクを実行します。
 - 物理メディアを使用してインストールしたい場合は、HP Operations エージェントの DVD を DVD-ROM ドライブに挿入します。
 - いずれかの HP Web サイトからインストール メディアをダウンロードします。Web サイトはプラットフォーム専用のさまざまな .iso ファイルを、HP Operations エージェント 11.00 インストール パッケージとして提供します。プラットフォーム専用の .iso ファイルをダウンロードできます。.iso ファイルをダウンロードした後は、ファイルの内容をローカル マシンのローカル ディレクトリに解凍します。
- 3 メディアのルート ディレクトリから、以下のコマンドを実行します。

```
cscript oainstall.vbs -install -agent
```

または

```
cscript oainstall.vbs -i -a
```

インストール後にエージェントを起動したくない場合は、代わりに以下のコマンドを使用してエージェントをインストールします。

```
cscript oainstall.vbs -install -agent -defer_configure
```

または

```
cscript oainstall.vbs -i -a -defer_configure
```

または、エージェントをインストールするために .vbs ファイルを使用したくない場合は、以下の手順に従います。

- a メディアのルート ディレクトリから、packages\WIN ディレクトリに移動します。
- b ノードのアーキテクチャに応じて、適切なディレクトリに移動します。
 - Windows_IA64 (Itanium プラットフォームの場合)
 - Windows_X64 (x64 プラットフォームの場合)
 - Windows_X86 (x86 プラットフォームの場合)
- c Microsoft Visual C++ Redistributable Package がシステムにインストールされていない場合は、Microsoft Visual C++ Redistributable Package 用の実行可能ファイル (このディレクトリに存在) を実行します。

Itanium プラットフォームの場合は、2 つの実行可能ファイル (vcredist_IA64.exe と vcredist_IA64_VS2008.exe) を実行します。
- d 次のコマンドを実行します。

```
oasetup -install [-install_dir < インストール ディレクトリ> -data_dir  
< データ ディレクトリ>]
```

この例では次のようになります。

- < インストール ディレクトリ> : すべてのパッケージとバイナリ ファイルをノードに配置するためのパス。
- < データ ディレクトリ> : すべてのデータと設定ファイルをノードに配置するためのパス。

▶ インストールディレクトリとデータディレクトリの名前にスペースが含まれる場合は、ディレクトリ名を引用符 (" ") で囲んで指定してください。

インストール後にエージェントを起動したくない場合は、代わりに以下のコマンドを使用してエージェントをインストールします。

```
oasetup -install [-install_dir < インストール ディレクトリ> -data_dir  
< データ ディレクトリ>] -defer_configure
```

▶ 別の HP ソフトウェア製品がノードにインストールされているときは、インストーラは **-install_dir** と **-data_dir** オプションを無視する場合があります。インストーラは自動的に、他の HP ソフトウェア製品のインストールディレクトリとデータディレクトリに HP Operations エージェントをインストールします。

UNIX/Linux の場合

- 1 root アカウントでシステムにログオンします。
- 2 リリース ノートに提示されているシステム要件を再確認し、インストール サーバーがハードウェアとソフトウェアの要件をすべて満たすようにしてください。
- 3 以下のいずれかのタスクを実行します。
 - 物理メディアを使用してインストールしたい場合は、HP Operations エージェントの DVD を DVD-ROM ドライブに挿入します。
- ▶ 物理メディアを使用して UNIX または Linux サーバーにインストールする際は、DVD-ROM ドライブがマウントされていることを確認してください。
- いずれかの HP Web サイトからインストールメディアをダウンロードします。Web サイトはプラットフォーム専用のさまざまな .iso ファイルを、HP Operations エージェント 11.00 インストール パッケージとして提供します。プラットフォーム専用の .iso ファイルをダウンロードできます。.iso ファイルをダウンロードした後は、ファイルの内容をローカル マシンのローカル ディレクトリに解凍します。
- 4 メディアのルートディレクトリから、以下のコマンドを実行します。

```
./oainstall.sh -install -agent
```

または

```
./oainstall.sh -i -a
```

インストール後にエージェントを起動したくない場合は、代わりに以下のコマンドを使用してエージェントをインストールします。

```
./oainstall.sh -install -agent -defer_configure
```

または

```
./oainstall.sh -i -a -defer_configure
```

エージェントの運用を開始したいときは、以下のコマンドを実行します。

- *Windows 64 ビット ノードの場合*

oainstall スクリプトを使用

```
%ovinstalldir%bin\win64\OpC\install\cscript oainstall.vbs -a -configure
```

oasetup プログラムを使用

```
%ovinstalldir%bin\win64\OpC\install\oasetup -configure
```

- *その他の Windows ノードの場合*

oainstall スクリプトを使用

```
%ovinstalldir%bin\OpC\install\cscript oainstall.vbs -a -configure
```

oasetup プログラムを使用

```
%ovinstalldir%bin\OpC\install\oasetup -configure
```

- *HP-UX、Solaris、Linux の場合*

```
/opt/OV/bin/OpC/install/oainstall.sh -a -configure
```

- *AIX の場合*

```
/usr/lpp/OV/bin/OpC/install/oainstall.sh -a -configure
```

vMA ノードへの HP Operations エージェントのインストール

デフォルトでは、vMA (Linux) ノードの root ユーザーは無効になっています。そのため、エージェントを HPOM コンソールからリモートで vMA ノードに配布することはできません。HP Operations エージェントのインストーラ プログラム (oainstall スクリプト) にも root 権限が必要となります。したがって、エージェントを手動で vMA ノードにインストールする前に、sudo コマンドを使用して root ユーザーに切り替える必要があります。

追加の前提条件

- portmap サービスが開始されていることを確認してください。
- vMA のフロッピー ディスク ドライブを無効にします。
- vMA の RAM サイズを 1 GB に増大します。

インストール

HP Operations エージェントを vMA ノードにインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 ファイアウォールを経由した vMA ノードとの通信を可能にします。

エージェントはポート 383 を使用し、ファイアウォールを経由して他のシステムとの通信を円滑に実施します。このポート 383 の通信トラフィックを受け入れるように、vMA ノードを設定する必要があります。これを実現するには、以下の手順に従います。

- a vMA ノードで、以下のコマンドを実行します。

```
sudo iptables -I RH-Firewall-1-INPUT 3 -p tcp -m tcp --dport 383  
--tcp-flags SYN,RST,ACK SYN -j ACCEPT
```

vMA システムは、ポート 383 の通信トラフィックを受け入れるように設定されます。

- b 次のコマンドを実行します。

```
sudo service iptables save
```

コマンドにより、手順 a でセットされた設定が保存されます。

- c 設定情報を検証するには、以下のコマンドを実行します。

```
sudo vi /etc/sysconfig/iptables
```

vi エディタにより、/etc/sysconfig ディレクトリの iptables ファイルが開かれます。

iptables ファイルの中に、以下の行が存在することを確認します。

```
-A RH-Firewall-1-INPUT -p tcp -m tcp --dport 383 --tcp-flags  
SYN,RST,ACK SYN -j ACCEPT
```

- 2 HP Operations エージェントのメディア、または配布パッケージを vMA ノードに配置します。

HPOM 管理環境にエージェントをインストールする場合は、管理サーバーの以下の場所から、配布パッケージを vMA ノードの一時的な場所に転送することができます。

- HPOM for Windows の場合

```
%OvDataDir%shared\Packages\HTTPS\linux\linux\2.6\x64\Operations-agent\11.00.000\64
```

- HPOM for UNIX、および UNIX/Linux における HPOM の場合

```
/var/opt/OV/share/databases/OpC/mgd_node/vendor/linux/x64/linux26/  
A.11.00.000/RPC_BBC
```

- 3 vMA ノードにログオンします (デフォルトのログインは vi-admin です)。

- 4 次のコマンドを入力します。

```
sudo bash
```

コマンドラインにより、root ユーザーのパスワードが求められます。

- 5 root ユーザーのパスワードを指定します。

- 6 以下のセクション 53 ページの「エージェントのインストール」の指示に従って、HP Operations エージェントを vMA ノードにインストールします。

- HPOM 管理環境の場合 : 53 ページの「エージェントのインストール」
- スタンドアロン サーバーの場合 : 60 ページの「スタンドアロン システムへの HP Operations エージェントのインストール」

共有ワークロードパーティション (WPAR) への HP Operations エージェントのインストール

HP Operations エージェントを AIX ノードのグローバルパーティションにインストールする場合、`syncwpar` コマンドを使用して、エージェントをノードのすべての WPAR にインストールすることができます。エージェントをすべての WPAR にインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 エージェントをグローバルパーティションにインストールします。
- 2 すべての共有 WPAR に IP アドレスが設定されていることを確認します。
- 3 グローバルパーティションで、`syncwpar` コマンドを実行します。



`syncwpar` コマンドを使用してエージェントをインストールした後、HP Performance エージェントがあらかじめ WPAR にインストールされていた場合は、Performance Collection Component のすべてのプロセスを手動で起動する必要があります。Performance Collection Component のプロセスを手動で起動するには、すべての WPAR で以下のコマンドを実行します。

```
opcagt -start
```

`syncroot` コマンドを使用してエージェントをインストールする場合は、70 ページの「共有 WPAR からのエージェントの削除」に従ってエージェントを削除します。

高可用性クラスタへの HP Operations エージェントのインストール

高可用性 (HA) クラスタ環境にインストールした場合、クラスタ内のアクティブなシステムが他のシステムにフェールオーバーするときに、HP Operations エージェントはフェールオーバーしません。しかし HP Operations エージェントにより、クラスタ内で稼働するクラスタ対応アプリケーションを監視することができます。

HP Operations エージェントは、クラスタに属するすべてのノードにインストールする必要があります。エージェントをクラスタにインストールする場合、追加の手順や特別な設定は一切必要ありません。しかし、クラスタ内で稼働する HPOM 管理サーバーにエージェントをインストールするには、追加の設定手順が必要となります。

HA クラスタ内の Windows 管理サーバーにエージェントをインストール

- 1 HPOM データベースが起動され稼働していることを確認します。
- 2 管理権限でアクティブな管理サーバーにログオンします。
- 3 以下のコマンドを実行し、管理サーバーのエージェント プロセスを停止します。

```
ovc -stop
```

- 4 以下のコマンドを実行し、アクティブ ノードを保守停止モードに設定します。

```
ovownodeutil -outage_node -unplanned -node_name <ノードの FQDN>
```

この例では次のようになります。

<ノードの FQDN> は、アクティブ ノードの完全修飾ドメイン名です。

- 5 38 ページの「[HPOM 管理環境への HP Operations エージェントのインストール](#)」の指示に従って、エージェントをインストールします。
- 6 クラスタ内の他の各ノード(アクティブではない)に対して、以下の手順を実行します。
 - a 管理権限でログオンします。
 - b 以下のコマンドを実行し、管理サーバーのエージェント プロセスを停止します。
ovc -stop
 - c 以下のコマンドを実行し、ノードを保守停止モードに設定します。
ovownodeutil -outage_node -unplanned -node_name <ノードの FQDN>
この例では次のようになります。
<ノードの FQDN> は、ノードの完全修飾ドメイン名です。
 - d 38 ページの「[HPOM 管理環境への HP Operations エージェントのインストール](#)」の指示に従って、エージェントをインストールします。

HA クラスタ内の UNIX/Linux 管理サーバーにエージェントをインストール

- 1 root 権限でアクティブな管理サーバーにログオンします。
- 2 ノードを保守モードに設定し、アクティブ ノードの HA リソース グループの監視を無効にします。

アクティブ ノードで、以下のコマンドを実行します。

```
/opt/OV/lbin/ovharg -monitor <HA リソース グループ名> disable
```

この例では次のようになります。

<HA リソース グループ名> は、HPOM 管理サーバーの HA リソース グループです。

- 3 以下のコマンドを実行し、エージェント と HPOM プロセスの両方を停止します。

HPOM for UNIX 8.35 の場合

```
ovstop opc ovoacomm
```

UNIX/Linux 9.x の HPOM の場合

```
ovc -stop
```

- 4 38 ページの「[HPOM 管理環境への HP Operations エージェントのインストール](#)」の指示に従って、エージェントをインストールします。
- 5 クラスタ内の他の各ノード(アクティブではない)に移動し、38 ページの「[HPOM 管理環境への HP Operations エージェントのインストール](#)」の指示に従ってエージェントをインストールします。エージェントをインストールする前に、ノードで HPOM が稼働しておらず、共有ディスクがマウントされていないことを確認します。このことを、以下のコマンドを実行して検証します。

```
opcsv -status
```

- 6 以下のコマンドを実行し、最初のクラスタ ノードで HP Operations エージェントと HPOM サーバー プロセスを起動します。

HPOM for UNIX 8.35 の場合

```
ovstart opc ovoacomm
```

UNIX/Linux 9.x の HPOM の場合

ovc -start

- 7 以下のコマンドを実行し、アクティブ ノードで HA リソース グループの監視を有効にします。

```
/opt/OV/lbin/ovharg -monitor <HA リソース グループ名> enable
```

この例では、

<HA リソース グループ名> は、HPOM 管理サーバーの HA リソース グループです。

インストール プロセスのトレース

oainstall と oasetup プログラムは、インストール プロセスをトレースするオプションを提供します。エージェントのインストールが失敗し、失敗の原因を検出できない場合は、トレース オプションを付けてインストーラを実行すると、トレース ファイルを生成することができます。生成されたトレース ファイルは、詳細な分析のために HP サポートに送付することができます。

トレース オプションを付けてインストーラを実行するには、以下の手順に従います。

Windows の場合

- 1 oainstall.vbs ファイルを使用してエージェントのインストールを試みる場合は、以下のコマンドを実行します。

```
oainstall.vbs -i -a [-srv <管理サーバー> [-cert_srv <証明書サーバー>]]  
-enabletrace ALL
```

oasetup.exe ファイルを使用してエージェントのインストールを試みた場合は、以下のコマンドを実行します。

```
oasetup -install [-management_server <管理サーバー>  
[-certificate_server <証明書サーバー>]] -enabletrace ALL
```

- 2 以下の場所に移動します。

```
%OvDataDir%Temp
```

トレース ファイルは、拡張子 .trc 付きで取得されます。

- 3 詳細な分析のために、.trc ファイルを HP サポートに送付します。

UNIX/Linux の場合

- 1 oainstall.vbs ファイルを使用してエージェントのインストールを試みる場合は、以下のコマンドを実行します。

```
./oainstall.sh -i -a [-srv <管理サーバー> [-cert_srv <証明書サーバー>]]  
-enabletrace ALL
```

- 2 以下の場所に移動します。

```
/var/opt/OV/tmp
```

トレース ファイルは、拡張子 .trc 付きで取得されます。

- 3 詳細な分析のために、.trc ファイルを HP サポートに送付します。

パッケージの配置

HP Operations エージェントをスタンドアロン サーバーにインストールすると、インストーラ プログラムは必要なすべてのパッケージとファイルを以下の場所に配置します。

- Windows の場合
 - %ovinstalldir%
 - %OvDataDir%
- HP-UX、Solaris、Linux の場合
 - /opt/OV/
 - /opt/perf
 - /var/opt/OV
 - /var/opt/perf
- AIX の場合
 - /usr/lpp/OV/
 - /usr/lpp/perf
 - /var/opt/OV
 - /var/opt/perf

インストーラはこれらの場所に、サーバーのオペレーティング システムとアーキテクチャ タイプに基づいて、さまざまなディレクトリとサブディレクトリを作成します。

環境変数

インストール プロセスを実行すると、HP Operations エージェントをインストールした Windows システムに新しい環境変数が作成されます。表 3 は、HP Operations エージェント インストーラが作成した環境変数を一覧しています。

表 3 HP Operations エージェント インストーラが作成した環境変数

変数名	プラットフォーム	デフォルトの場所
<i>%OvInstallDir%</i>	Windows (すべて)	C:\Program Files\HP\HP BTO Software
<i>%OvDataDir%</i>	Windows (2008)	C:\ProgramData\HP\HP BTO Software
<i>%OvDataDir%</i>	Windows (2008 以外)	C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\HP\HP BTO Software



HP Operations エージェントは、UNIX/Linux システムには環境変数を作成しません。

インストールのログ ファイル

HP Operations エージェントをスタンドアロン サーバーにインストールすると、以下のログ ファイルにインストールのステータスが表示されます。

- *Windows* の場合: `%OvDataDir%log\oainstall.log`
- *HP-UX*、*Solaris*、*Linux*、*AIX* の場合: `/var/opt/OV/log/oainstall.log`

インストールの検証

HP Operations エージェントをスタンドアロン サーバーにインストールした後、以下の手順に従います。

- 1 以下の場所に移動します。
 - *Windows* の場合: `%OvDataDir%log`
 - *HP-UX*、*Solaris*、*Linux*、*AIX* の場合: `/var/opt/OV/log`
- 2 テキスト エディタで `oainstall.log` ファイルを開きます。
- 3 ファイルの内容を再確認します。インストールが成功している場合は、ファイルにはエラーがなく、ファイルの最後のほうに `HP Operations agent installation completed successfully` というメッセージが表示されています。

追加の設定タスク

マルチホーム環境のノード (複数の IP アドレスが設定されたノード) にエージェントをインストールする場合は、ノードの追加時に HPOM で使用された IP アドレスを使用するように、ノード上のエージェントを設定する必要があります。

HPOM に設定された IP アドレスを使用するようにエージェントを設定するには、以下の手順を実行します。

- 1 `root` 権限または管理権限を使用してノードにログオンします。
- 2 以下のディレクトリに移動します。

Windows の場合

`%ovinstalldir%bin`

HP-UX、*Linux*、*Solaris* の場合

`/opt/OV/bin`

AIX の場合

`/usr/lpp/OV/bin`

- 3 次のコマンドを実行します。

```
ovconfchg -ns eaagt -set OPC_IP_ADDRESS <IP アドレス>
```


この <IP アドレス> は、管理対象ノードのリストにノードを追加するときに HPOM に設定した、ノードの IP アドレスです。

- 4 以下のコマンドを実行し、エージェントを再起動します。
 - a **ovc -kill**
 - b **ovc -start**

HP Operations エージェントの削除

HP Operations エージェントを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 管理権限または root 権限でノードにログオンします。
- 2 コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行し、HP Operations エージェントに関連するすべてのプロセスを停止します。
 - a **opcagt -stop**
 - b **ttd -k**
- 3 コマンドプロンプトから、以下のコマンドを実行します。

 HP-UX、Solaris、Linux、または AIX プラットフォームで以下のコマンドを実行する前に、**chmod u+x <インストール ディレクトリ>/bin/OpC/install/oainstall.sh** コマンドを実行し、削除スクリプトに必要な権限を付与します。

Windows 64 ビット ノードの場合

```
%OvInstallDir%bin\win64\OpC\install\cscript oainstall.vbs -r|-remove  
-a|-agent
```

または

```
%OvDataDir%installation\bundles\Operations-agent\oasetup -remove
```

その他の Windows ノードの場合

```
%OvInstallDir%bin\OpC\install\cscript oainstall.vbs -r|-remove  
-a|-agent
```

または

```
%OvDataDir%installation\bundles\Operations-agent\oasetup -remove
```

HP-UX、Solaris、Linux の場合

```
/opt/OV/bin/OpC/install/oainstall.sh -remove|-r -agent|-a
```

AIX の場合

```
/usr/lpp/OV/bin/OpC/install/oainstall.sh -remove|-r -agent|-a
```

- 4 以下のディレクトリを手動で削除します。

Windows の場合

- %OvInstallDir%
- %OvDataDir%

HP-UX、Solaris、Linux の場合

- /opt/OV
- /var/opt/OV
- /opt/perf
- /var/opt/perf

AIX の場合

- /usr/lpp/OV
- /var/opt/OV
- /usr/lpp/perf
- /var/opt/perf

または、Windows ノードで [プログラムの追加と削除] ウィンドウを使用し、HP Operations エージェント 11.00 を削除することも可能です。

共有 WPAR からのエージェントの削除

syncroot コマンドを使用してエージェントをインストールする場合は、以下の手順を実行して WPAR からエージェントを削除する必要があります。

- 1 root 権限でグローバルパーティションにログオンします。
- 2 69 ページの「HP Operations エージェントの削除」の指示に従ってエージェントを削除します。
- 3 グローバルパーティションで、**syncwpar** コマンドを実行します。すべての共有 WPAR からエージェントが削除されます。

5 HP Operations エージェント 11.00 へのアップグレード

ノード上の HP Operations エージェント、HP Performance Agent、または HP GlancePlus の古いバージョンは、HP Operations エージェント 11.00 にアップグレードできます。これらの製品の以下のバージョンは、HP Operations エージェント 11.00 に直接アップグレード可能です。

- HP Operations エージェント : 8.53、8.60
- HP Performance Agent: 4.70、5.00
- HP GlancePlus: 4.70、5.00

特定のバージョンより古いエージェントソフトウェアがインストールされていると、HP Operations エージェント 11.00 のインストールは失敗します。8.53 より古い HP Operations エージェント、4.70 より古い HP Performance Agent、4.70 より古い HP GlancePlus がインストールされたノードに HP Operations エージェント 11.00 をインストールする場合は、事前に以下のいずれかを実施します。

- エージェントソフトウェアを、HP Operations エージェント 11.00 にアップグレード可能なバージョンにアップグレードする
これは、アップグレードで推奨される方法です。この場合、必要なパッケージとポリシーが確実にノードに残されます。
- エージェントソフトウェアを完全に削除する
この場合、ポリシーとインストールメンテーションファイルがノードから削除される場合があります。HP Operations エージェント 11.00 へのアップグレードが完了したら、必要なポリシーとインストールメンテーションファイルをノードに再配布してください。

HP Operations エージェント 11.00 によるデータの収集 / 保存

古いバージョンの HP Operations エージェントは、約 50 メトリックの形式でシステムパフォーマンスデータを組み込みパフォーマンスコンポーネント (EPC) に保存します。このコンポーネントは、**coda** とも呼ばれます。HP Performance Agent は、500 を超えるシステムパフォーマンスメトリックを収集し (**scope** コレクタを使用)、ログファイルベースのストレージメカニズムを利用してデータを保存します。バージョン 11.00 の HP Operations エージェントは、HP Performance Agent のデータ収集 / 保存メカニズムを採用しているため、より多くのメトリックセットを収集し、メトリックデータをログファイルベースのデータストアに保存します。ただし、外部プログラムや HPOM ポリシー内での EPC への参照は、**scope** コレクタとロ

グ ファイル ベースのデータ ストアに向けられます。これにより、過去に配布したすべてのポリシーと統合は、古いバージョンの **HP Operations** エージェントから **HP Operations** エージェント **11.00** にアップグレードした後も、中断なくシームレスに機能し続けます。



システム パフォーマンス メトリックを収集して利用するには、バージョン **11.00** へのアップグレード後に、**root** または管理権限を持つユーザーとしてエージェントを実行し続ける必要があります。インストール後に、**root** 権限も管理権限も持たないユーザーがエージェントを実行するように設定した場合、データ ソースが **EPC** に設定されているすべての **Measurement Threshold** ポリシーは失敗します。

アップグレード前の確認事項

アップグレードプロセスを開始する前に、ノードにインストールされているエージェント ソフトウェアのバージョンを確認する必要があります。

既存エージェントのバージョンの確認

ノード上のエージェント ソフトウェアのバージョンを確認するには、以下の手順に従います。

Windows の場合

- 1 管理権限でノードにログオンします。
- 2 **HP Operations** エージェントのバージョンを確認します。
 - a コマンド プロンプトを開きます。
 - b 次のコマンドを実行します。

```
opcgagt -version
```

コマンドの出力が **A.8.53** より低いバージョンを示す場合は、**HP Operations** エージェント **11.00** のインストール前に、まず、バージョン **8.53** または **8.60** にアップグレードする必要があります (または、インストールされているバージョンを完全に削除してください)。

- 3 **HP Performance Agent** のバージョンを確認します。
 - a コマンド プロンプトを開きます。
 - b 次のコマンドを実行します。

```
perfstat -v
```

コマンドの出力として、**HP Performance Agent** のさまざまなコンポーネントのバージョンが表示されます。ovpa.exe コンポーネントのバージョンが **C.04.70** より低い場合は、**HP Operations** エージェント **11.00** のインストール前に、まず、バージョン **4.70** または **5.00** にアップグレードする必要があります (または、インストールされているバージョンの **HP Performance Agent** を完全に削除してください)。

UNIX/Linux の場合

- 1 **root** 権限でノードにログオンします。
- 2 **HP Operations** エージェントのバージョンを確認します。

- a コマンドプロンプトを開きます。
- b 次のコマンドを実行します。

opcagt -version

コマンドの出力が A.8.53 より低いバージョンを示す場合は、HP Operations エージェント 11.00 のインストール前に、まず、バージョン 8.53 または 8.60 にアップグレードする必要があります (または、インストールされているバージョンを完全に削除してください)。

3 HP Performance Agent のバージョンを確認します。

- a コマンドプロンプトを開きます。
- b 次のコマンドを実行します。

perfstat -v

コマンドの出力として、HP Performance Agent のさまざまなコンポーネントのバージョンが表示されます。ovpa コンポーネントのバージョンが C.04.70 より低い場合は、HP Operations エージェント 11.00 のインストール前に、まず、バージョン 4.70 または 5.00 にアップグレードする必要があります (または、インストールされているバージョンの HP Performance Agent を完全に削除してください)。

4 HP GlancePlus のバージョンを確認します。

- a コマンドプロンプトを開きます。
- b 次のコマンドを実行します。

perfstat -v

コマンドの出力として、HP Performance Agent と HP GlancePlus のさまざまなコンポーネントのバージョンが表示されます。glance コンポーネントのバージョンが C.04.70 より低い場合は、HP Operations エージェント 11.00 のインストール前に、まず、バージョン 4.70 または 5.00 にアップグレードする必要があります (または、インストールされているバージョンの HP GlancePlus を完全に削除してください)。

coda のバージョンの確認

システムで使用できる coda のバージョンが 10.50.215 より低い、または 10.50.245 より高い場合は、HP Reporter や HP Performance Insight などのデータ分析ツールを使って coda データのバックアップを作成することをお勧めします。アップグレードを開始する前に、以下の手順を実行します。

- 1 root 権限または管理権限でノードにログオンします。
- 2 以下の場所に移動します。
 - Windows の場合 : %ovinstalldir%\bin
 - HP-UX、Linux、Solaris の場合 : /opt/OV/bin
 - AIX の場合 : /usr/lpp/OV/bin
- 3 次のコマンドを実行します。

ovcodutil -status -verbose

コマンド出力には、coda のバージョンが表示されます。

ログ ディレクトリ (Windows では %ovdatadir%log、UNIX/Linux では /var/opt/OV/log) にある coda.txt ファイルを開き、coda のバージョン (Starting CODA 文の横) を確認する方法もあります。

- 4 coda のバージョンが 10.50.215 より低い、または 10.50.245 より高い場合は、アップグレード手順を開始します。それ以外のバージョンの場合は、**HP Reporter** や **HP Performance Insight** などのデータ分析ツールを使って coda 内のデータのバックアップを作成し、その上でアップグレード手順を開始します。

エージェントのアップグレード

すべての前提条件が満たされていることを確認したら、29 ページの「**HP Operations エージェントのインストール**」の指示に従ってエージェントを **HP Operations エージェント 11.00** にアップグレードできます。

表 4 は、考えられるアップグレードのシナリオを示しています。

表 4 エージェントアップグレードのシナリオ

アップグレードのシナリオ	タスク	詳細情報
<ul style="list-style-type: none"> HP Operations エージェントのみがインストールされた HPOM 管理対象ノードのアップグレード HP Operations エージェントと HP Performance Agent がインストールされた HPOM 管理対象ノードのアップグレード HP Operations エージェント、HP Performance Agent、HP GlancePlus がインストールされた HPOM 管理対象ノードのアップグレード 	<ol style="list-style-type: none"> 1 ノードに関するすべての前提条件が満たされていることを確認します。29 ページの「前提条件」を参照してください。 2 アップグレードに関するすべての前提条件が満たされていることを確認します。72 ページの「アップグレード前の確認事項」を参照してください。 3 HP Operations エージェント 11.00 をインストールします。38 ページの「HPOM 管理環境への HP Operations エージェントのインストール」を参照してください。 	<p>oainstall または oasetup プログラムを使用するときは、管理サーバーまたは証明書サーバーの詳細情報を指定する必要はありません。</p> <p>オリジナル以外の管理サーバー（または証明書サーバー）を使用するときは、oainstall または oasetup プログラムの実行時にその新しい管理サーバーの FQDN を指定できます。アップグレードが完了すると、その管理サーバーは直ちに有効になります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> HP Performance Agent のみインストールされたスタンドアロンノードのアップグレード HP GlancePlus のみインストールされたスタンドアロンノードのアップグレード HP Performance Agent と HP GlancePlus がインストールされたスタンドアロンノードのアップグレード 	<ol style="list-style-type: none"> 1 ノードに関するすべての前提条件が満たされていることを確認します。29 ページの「前提条件」を参照してください。 2 アップグレードに関するすべての前提条件が満たされていることを確認します。72 ページの「アップグレード前の確認事項」を参照してください。 3 HP Operations エージェント 11.00 をインストールします。60 ページの「スタンドアロンシステムへの HP Operations エージェントのインストール」を参照してください。 	<p>-configure オプションを指定して oainstall プログラムを実行し、後から HPOM 管理サーバーにノードを設定できます。</p>

古いバージョンの HP Operations エージェントのみ (HP Performance Agent なし) がインストールされたノードにバージョン 11.00 のエージェントをインストールすると、さまざまな HP Operations Smart Plug-in (SPI) が収集したデータの記録に強化されたデータストアを利用できます。SPI がデータをログ ファイル ベースのデータストアに記録するように設定するには、以下の手順を実行します。

- 1 root 権限または管理権限でノードにログオンします。
- 2 以下の場所へ移動します。
 - Windows の場合: %ovdatadir%dsi2ddf

- UNIX/Linux の場合 : `/var/opt/OV/dsi2ddf`
- 3 `nocoda.opt` ファイルを削除します。
 - 4 以下の場所に移動します。
 - Windows の場合 : `%ovinstalldir%bin`
 - HP-UX、Linux、Solaris の場合 : `/opt/OV/bin`
 - AIX の場合 : `/usr/lpp/OV/bin`
 - 5 以下のコマンドを実行し、エージェントを再起動します。
 - a `opcagt -stop`
 - b `opcagt -start`

ノードが複数の SPI によって監視されている場合に、別の SPI がデータを別のデータストア (ログファイルベースのデータストアと `coda`) に記録するように設定する方法については、SPI のドキュメントを参照してください。

6 ライセンスの適用

HP Operations エージェントのノードでは、インストールのタイプに基づいて、評価ライセンス (60 日間有効) または恒久ライセンスが有効になります。HPOM が存在しない環境でスタンドアロンサーバーに HP Operations エージェントをインストールすると、評価ライセンスが有効になります。HPOM コンソールを使用してリモートインストールを行うと、恒久ライセンスがノードで有効になります。

oalicense ユーティリティは、恒久ライセンスを有効にするために役立ちます。oalicense ユーティリティを使用すると、一方のライセンス タイプからもう一方に移行できます。

ライセンスのタイプ

HP Operations エージェントは、次のいずれかのタイプのライセンスで使用できます。

- 評価ライセンス
- ライセンスの延長
- 恒久ライセンス

評価ライセンス

スタンドアロン ノードに製品をインストールする場合、HP Operations エージェントをインストールすると、ノードには評価ライセンスが配置されます。このライセンスでは、HP Operations エージェントのすべてのモジュールとコンポーネントが 60 日間有効になります。評価ライセンスは、インストールした HP Operations エージェントを起動すると有効になります。評価ライセンスは 60 日後に有効期限が切れ、製品は無効になります。製品の使用を継続するには、恒久ライセンスを適用するか、または評価ライセンスを延長します。

ライセンスの延長

評価ライセンスの有効期限を延長すると、HP Operations エージェントを評価モードでより長期間使用できます。評価ライセンスを延長すると、この LTU で提供される機能をさらに 60 日使用することができます。評価ライセンスの延長は 2 回まで可能です。評価ライセンスを 3 回延長しようとする、ライセンスの最大延長回数に達していることを示すエラー メッセージが表示されます。

恒久ライセンス

HP Operations エージェントの恒久ライセンスには、特定の期限はありません。このライセンスを使用する場合、必要に応じて、利用可能な **使用ライセンス (LTU: Licenses to Use)** から選択できます。

HP Operations エージェント 11.00 は、次のアドイン モジュールにより、リアルタイム診断と監視機能を提供します。

- リアルタイム メトリック アクセス (RTMA) - リアルタイム ベースのシステム パフォーマンス メトリックへのアクセスを可能にします。cpsh ユーティリティを使用して、リモート マシンのパフォーマンス メトリックをリアルタイムで監視できます。これは、RTMA のコンポーネントにあります。
- リアルタイム計測 (RTM) - HP Performance Manager 9.00 の [Diagnostic View (診断ビュー)] タブで表示される豊富なインターフェイスを使用して、システムのパフォーマンス メトリックをリアルタイムに監視できます。
- GlancePlus ソフトウェア - グラフィカルな表形式で表されるデータを使用して、システムのパフォーマンスをリアルタイムに監視できます。

異なる LTU を使用して、上記のすべてのモジュールを使用することも、それらを組み合わせて使用することもできます。LTU の詳細は、78 ページの「HP Operations エージェント 11.00 の LTU」を参照してください。

HP Operations エージェント 11.00 の LTU

評価ライセンスを使用すると、RTM コンポーネント、RTMA コンポーネント、GlancePlus ソフトウェアなど、HP Operations エージェントのすべての機能を一時的に有効にできます。試用期間は 60 日間です。評価ライセンスの有効期限が切れると、HP Operations エージェント製品の次のいずれかの**使用ライセンス (LTUs)**を適用できます。

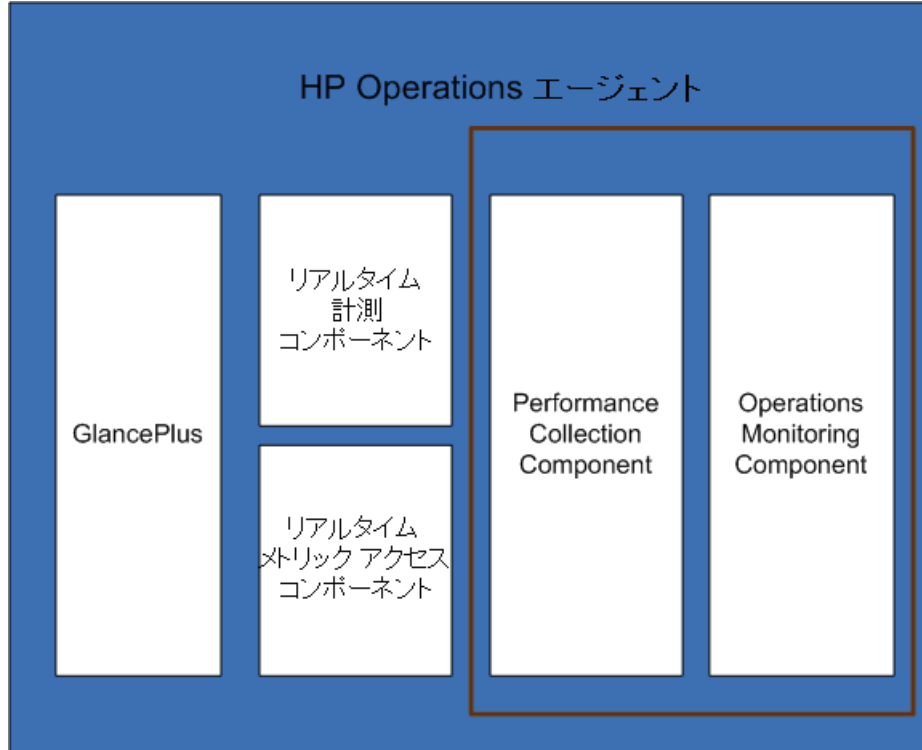
- HP Operations OS Inst Adv SW LTU
- HP Operations OS Inst Performance LTU
- HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU
- HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU
- Glance Software LTU
- Glance Pak Software LTU

HP Operations OS Inst Adv SW LTU

この LTU では、RTM、RTMA、GlancePlus 以外の HP Operations エージェントのコンポーネントをすべて使用できます。

図 2 は、HP Operations OS Inst Adv SW LTU で有効になるコンポーネントを赤枠で示しています。

図 2 HP Operations OS Inst Adv SW LTU で有効になるコンポーネント



追加のバージョン

HP Operations OS Inst Adv SW LTU は次の追加バージョンで使用できます。

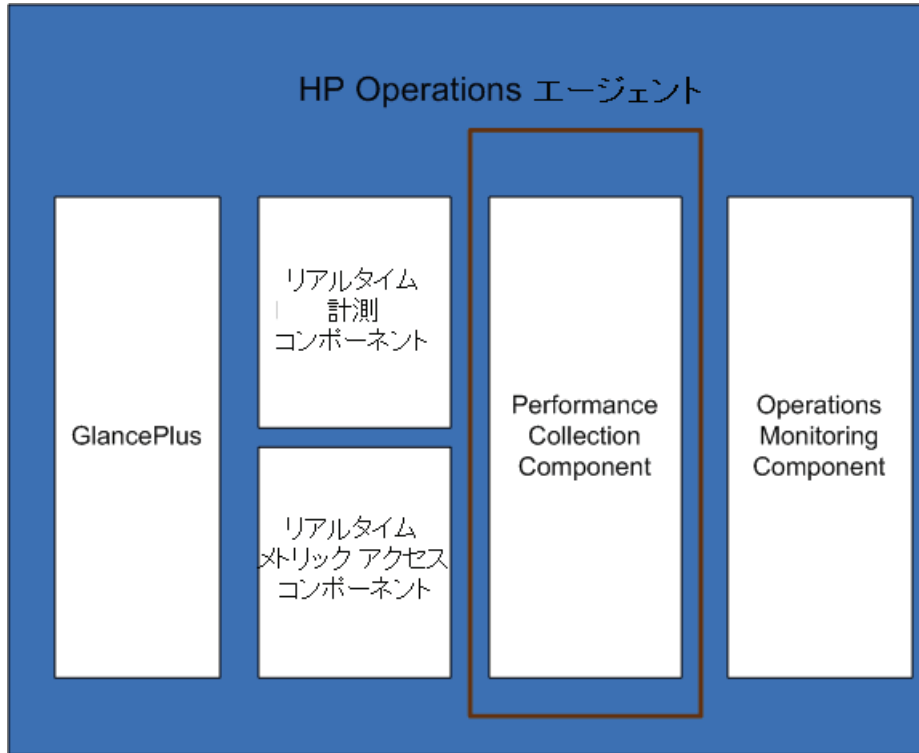
- **HP Operations OS Inst Adv NP FO SW LTU:** フェールオーバー クラスタ設定で実行されているシステムを監視する場合、クラスタ内のすべてのノードに HP Operations エージェントをインストールする必要があります。HP Operations OS Inst Adv NP FO SW LTU は、アクティブではないクラスタ内のノードでも使用できます。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。
- **HP Operations OS Inst Adv NP DV SW LTU:** (計画や評価の目的で) テストシステムに HP Operations エージェントをインストールする場合、HP Operations OS Inst Adv NP DV SW LTU を使用します。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。

HP Operations OS Inst Performance LTU

この LTU では、HP Operations エージェントの Performance Collection Component のみを使用できます。この LTU では、スタンドアロンシステムのパフォーマンスを監視できます。

図 3 は、HP Operations OS Inst Performance LTU で有効になるコンポーネントを赤枠で示しています。

図 3 HP Operations OS Inst Performance LTU で有効になるコンポーネント



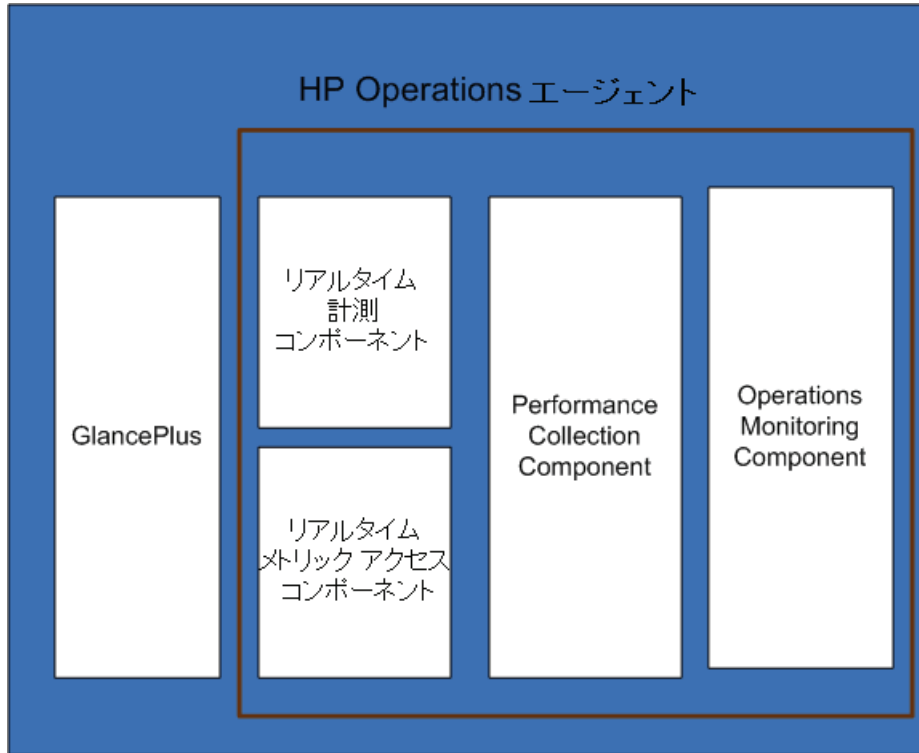
HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU

この LTU では、RTM コンポーネントと RTMA コンポーネントを含む HP Operations エージェントの機能をすべて使用できますが、GlancePlus ソフトウェアは含まれません。この LTU を適用したら、HP Operations エージェント 11.00 を HP Performance Manager 9.00 に統合して、HP Operations エージェントが複数のノードから収集するリアルタイムのシステム データを、HP Performance Manager 9.00 の [Diagnostic View (診断ビュー)] タブで表示できます。さらに、cpsb ユーティリティを使用して、さまざまなノードから HP Operations エージェントが収集するリアルタイムのシステム データを表示できます。

この LTU を適用する前に、HP Operations OS Inst Adv SW LTU がすでにノードに適用されていることを確認してください。

図 4 は、HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU で有効になるコンポーネントを赤枠で示しています。

図 4 HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU で有効になるコンポーネント



追加のバージョン

HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU は次の追加バージョンで使用できます。

- **HP Ops OS Inst to Realtime Inst NP FO LTU:** フェールオーバー クラスタ設定で実行されているシステムを監視する場合、クラスタ内のすべてのノードに HP Operations エージェントをインストールする必要があります。HP Ops OS Inst to Realtime Inst NP FO LTU は、アクティブではないクラスタ内のノードでも使用できます。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。
- **HP Ops OS Inst to Realtime Inst NP DV LTU :** (計画や評価の目的で) テスト システムに HP Operations エージェントをインストールする場合、HP Ops OS Inst to Realtime Inst NP DV LTU を使用します。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。

HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU

この LTU は、スタンドアロン サーバーにある既存の HP Operations OS Inst Performance LTU を HP Operations OS Inst Adv SW LTU にアップグレードして、RTM、RTMA、GlancePlus のコンポーネント以外の HP Operations エージェントの機能を使用可能にします。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。

追加のバージョン

HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU は次の追加バージョンで使用できます。

- **HP Perf to OS Inst Adv Upg Software NP FO SW LTU:** フェールオーバー クラスタ設定で実行されているシステムを監視する場合、クラスタ内のすべてのノードに HP Operations エージェントをインストールする必要があります。HP Perf to OS Inst Adv Upg Software NP FO SW LTU は、アクティブではないクラスタ内のノードでも使用できます。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。

- **HP Perf to OS Inst Adv Upg Software NP DV SW LTU:** (計画や評価の目的で) テスト システムに HP Operations エージェントをインストールする場合、HP Perf to OS Inst Adv Upg Software NP DV SW LTU を使用します。この LTU は、恒久モードのみで使用できます。評価モードで使用することはできません。

Glance Software LTU

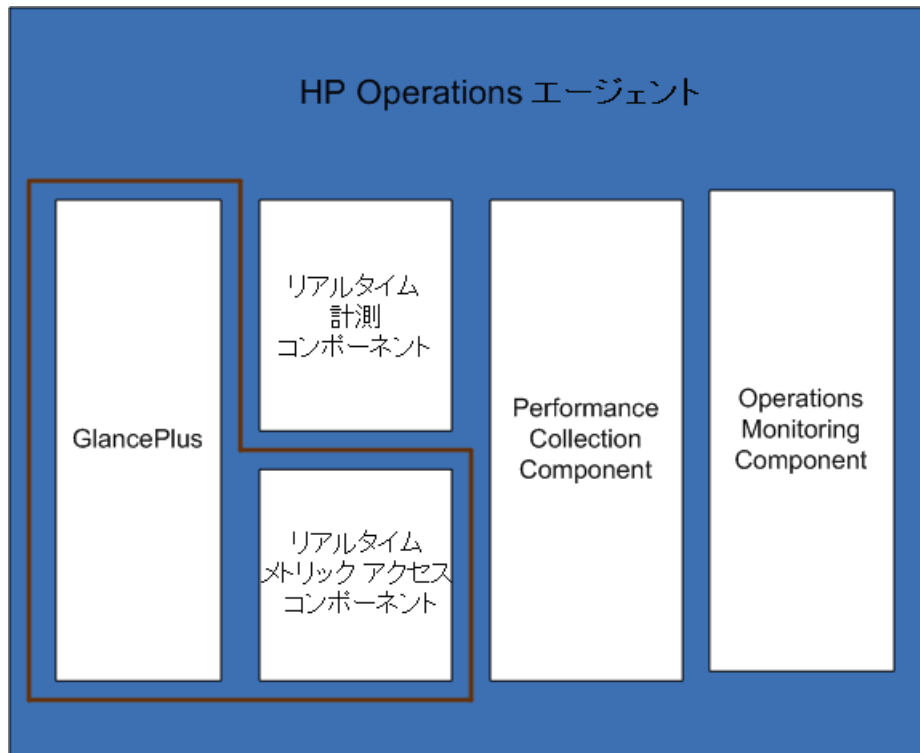


GlancePlus ソフトウェアは UNIX/Linux プラットフォームでのみサポートされているため、この LTU は UNIX/Linux ノードにのみ適用できます。

この LTU は、GlancePlus ソフトウェアと RTMA コンポーネントのみをノードで有効にします。この LTU のみをノードで有効にする場合、GlancePlus ソフトウェアと RTMA コンポーネントのみをノードで使用できます。この LTU を使用すると、csh ユーティリティを使用して、さまざまなノードから HP Operations エージェントが収集するリアルタイムのシステム データを表示できます。HP Operations エージェントのその他の標準機能は使用できません。

図 5 は、Glance Software LTU で有効になるコンポーネントを赤枠で示しています。

図 5 Glance Software LTU で有効になるコンポーネント



Glance Pak Software LTU

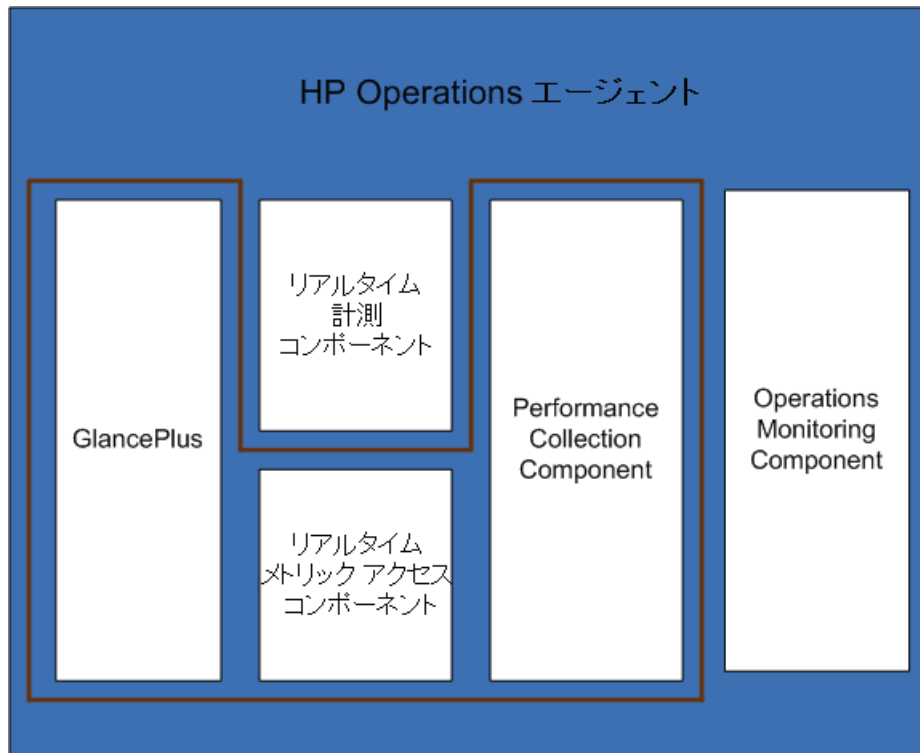


GlancePlus ソフトウェアは UNIX/Linux プラットフォームでのみサポートされているため、この LTU は UNIX/Linux ノードにのみ適用できます。

この LTU では、GlancePlus ソフトウェアと RTMA コンポーネント、および HP Operations エージェントの Performance Collection Component のみを使用できます。この LTU を使用すると、csh ユーティリティを使用して、さまざまなノードから HP Operations エージェントが収集するリアルタイムのシステム データを表示できます。

図 6 は、Glance Pak Software LTU で有効になるコンポーネントを赤枠で示しています。

図 6 Glance Pak Software LTU で有効になるコンポーネント



LTU の比較表

表 5 は、異なる LTU で使用できる HP Operations エージェントのコンポーネントを示しています。

表 5 LTU の比較表

LTU と コンポーネント	Operations Monitoring Component	Performance Collection Component	RTM	RTMA	Glance Plus
HP Operations OS Inst Adv SW LTU	✓	✓	X	X	X
HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU	✓	✓	✓	✓	X
HP Operations OS Inst Performance LTU	X	✓	X	X	X
HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU	✓	✓	X	X	X
<i>UNIX/Linux</i> ノードのみ。 Glance Software LTU	X	X	X	✓	✓
<i>UNIX/Linux</i> ノードのみ。 Glance Pak Software LTU	X	✓	X	✓	✓

異なる LTU で使用可能なアドイン モジュール

評価ライセンスでは、HP Operations エージェントと RTM コンポーネント、RTMA コンポーネント、GlancePlus ソフトウェアをノードで有効にできます。ただし、インストール後 60 日以内に恒久ライセンスを適用しないと（または評価ライセンスを延長しないと）、HP Operations エージェント（および RTM、RTMA、GlancePlus）は使用できなくなります。5 種類の異なる LTU から選択できます。これらのいずれかの LTU を使用すると、HP Operations エージェントをアドイン モジュール（RTM、RTMA、GlancePlus）と組み合わせてノードで有効にできます。

表 6 は、HP Operations エージェントの異なる LTU で使用可能なアドイン モジュールを示しています。

表 6 異なる LTU でのアドイン モジュール

LTU	GlancePlus ソフトウェア	RTM	RTMA
HP Operations OS Inst Adv SW LTU	不可	不可	不可
a HP Operations OS Inst Performance LTU	不可	不可	不可
HP Ops OS Inst Perf to OS Inst Adv LTU	不可	不可	不可
Real-Time OS Inst Software LTU	不可	可能	可能
HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU	不可	可能	可能
Glance Pak Software LTU	可能	不可	可能
b Glance Software LTU	可能	不可	可能

- a) HP Operations OS Inst Performance LTU のみを有効にする場合、Performance Collection Component 以外に、HP Operations エージェントの標準機能は使用できません。
- b) Glance Software LTU のみを有効にする場合、GlancePlus ソフトウェアと RTMA コンポーネント以外に、HP Operations エージェントの標準機能は使用できません。

恒久ライセンスの適用


インストールの種類に基づいて、HP Operations OS Inst Adv SW LTU の評価ライセンスまたは恒久ライセンスがノードで有効になります。評価ライセンスはインストール後 60 日間有効になり、期間終了後は製品（およびすべてのアドイン モジュール）はそのノードでの動作を停止します。製品を使用し続けるには、ノードで恒久ライセンスを有効にする必要があります。

手動によるノードへの適用

恒久ライセンスをスタンドアロンの HP Operations エージェント ノードに適用するには、次の手順を実行します。

- 1 ノードに HP Operations エージェントをインストールします。

HP Operations エージェントは、すべての LTU の評価ライセンスでインストールされます。

 HPOM 管理環境にノードがある場合、`-s` および `-cs` オプションを使用して HP Operations エージェントをインストールし、ノードの管理サーバーを設定できます（45 ページの「ノードへの HP Operations エージェントの手動インストール」を参照）。これらのオプションを使用すると、HP Operations OS Inst Adv SW LTU を有効にするためのライセンス ツールが起動します。

- 2 恒久ライセンスを適用するには、コマンドプロンプト（シェル）に進みます。

3 目的の LTU の適切なライセンスを有効にするには、次を実行します。

- HP Operations OS Inst Adv SW LTU のライセンスを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "HP Operations OS Inst Adv SW LTU"
```

このコマンドにより、HP Operations エージェントの Operations Monitoring Component と Performance Collection Component の恒久ライセンスが適用されます。評価ライセンスの有効期限が切れると、アドイン モジュールは機能を停止します。

- Operations Monitoring Component と Performance Collection Component で RTM コンポーネントと RTMA コンポーネントを使用するには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU"
```

このコマンドにより、すべての HP Operations OS Inst Adv SW LTU の恒久ライセンスが HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU にアップグレードされ、RTM コンポーネントと RTMA コンポーネントがノードで有効になります。評価ライセンスの有効期限が切れると、その他のアドイン モジュール (GlancePlus) は機能を停止します。

- HP Operations OS Inst Performance LTU のライセンスを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "HP Operations OS Inst Performance LTU"
```

このコマンドにより、HP Operations エージェントの Performance Collection Component の恒久ライセンスが適用されます。評価ライセンスの有効期限が切れると、Operations Monitoring Component およびその他のアドイン モジュールは機能を停止します。

- *UNIX/Linux* ノードのみ。Glance Pak Software LTU のライセンスを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "Glance Pak Software LTU "
```

このコマンドにより、Performance Collection Component、GlancePlus ソフトウェア、RTMA コンポーネントにのみ恒久ライセンスが適用されます。

- *UNIX/Linux* ノードのみ。Glance Software LTU のライセンスを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "Glance Software LTU"
```

このコマンドにより、GlancePlus ソフトウェアと RTMA コンポーネントにのみ恒久ライセンスがノードで適用されます。

4 ノードの LTU の詳細を確認するには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -get -all
```

このコマンドは、LTU の詳細を次の形式で表示します。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
--------------	------	------------	--------	------

このコマンドは、次の詳細を表示します。

- **LICENSE NAME:** LTU の名前
- **TYPE:** LTU のタイプ (恒久、評価、延長)
- **ACTIVATION:** LTU が有効にされた日付 (mm/dd/yyyy 形式)
- **EXPIRY:** ライセンスの有効期限 (タイプが恒久でない場合)
- **EXTN:** 評価ライセンスの延長回数

5 次のコマンドで、ノード上のすべてのプロセスを起動します。

opcagt -start

必要に応じて、HPOM 管理環境にあるノードで、恒久ライセンスではなく評価ライセンスを有効にできます。評価ライセンスをノードで有効にするには、次のいずれかを実行します。

- ノードにローカルでログオンし、次のコマンドを実行します。

oalicense -set -type EVALUATION "<LTU 名 >"

- 複数のノードでツールを使用して評価ライセンスを有効にするには、次の手順を実行します。

a HPOM 管理サーバーにログオンします。

b 次の詳細を指定して、新しいツールを作成します。

– コマンド呼び出しまたはツール呼び出しを oalicense に設定します。

– パラメータを次のように設定します。

-set -type EVALUATION "<LTU 名 >"

– 選択したノードにターゲットを設定します。

c 目的のノードにツールを実行します。

ライセンスの詳細の例

oalicense コマンドに **-get** オプションを使用すると、ノードにある LTU の詳細を表示できます。**-get** オプションに **-all** オプションを使用すると、ノードにあるすべての LTU の詳細を表示できます。または、引数に LTU 名を指定して、ノードにある特定の LTU の詳細を表示できます。

恒久タイプの HP Operations OS Inst Adv SW LTU が有効になっている場合、**oalicense -get "HP Operations OS Inst Adv SW LTU"** コマンドを実行すると、次のメッセージが表示されます。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
HP Operations OS Inst Adv SW LTU	PERMANENT	09/08/2009	11/08/2009	N/A

管理サーバーからの一括適用

HP Operations エージェントを HPOM 管理サーバーからリモートでノードにインストールしたり、管理サーバーの詳細を指定して手動でノードにインストールしたりする場合、HP Operations OS Inst Adv SW LTU は自動で恒久的にノードで有効になります。さらに、HP Ops

OS Inst to Realtime Inst LTU および Glance Software LTU は、(60 日後に期限が切れる) 評価タイプに設定されます。異なるタイプのライセンスをノードで有効にする場合、追加の手順を実行する必要があります。

HPOM for Windows コンソールからの適用

ノードでデフォルトの LTU 以外の LTU を有効にする場合、次の手順を実行します。

- 1 HPOM 管理サーバーにログオンします。
- 2 コンソール ツリーで [ツール] を展開し、[HP Operations エージェント] をクリックします。HP Operations エージェント 11.00 配布パッケージで使用できるツールのリストが詳細ペインに表示されます。
- 3 HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU の恒久ライセンスを有効にするノードで Set Realtime Permanent License ツールを起動します。
- 4 Glance Software LTU の恒久ライセンスを有効にするノードで Set Glance Permanent License ツールを起動します。
- 5 ライセンスを適用するツールを起動したら、Restart Agent ツールを起動して、すべてのノードに必要なプロセスを開始する必要があります。

UNIX/Linux 9.xx の HPOM コンソールからの適用

デフォルトの LTU 以外の LTU をノードで有効にするには、oalicense コマンドをノード(またはノードのグループ)で実行するツールを作成する必要があります。新しいツールを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 HPOM 操作 UI にログオンします。
- 2 ライセンスを適用するノード(またはノードグループ)を左ペインで選択します。
- 3 HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU の恒久ライセンスを有効にするには、右クリックして [スタート] > [HP Operations エージェント] > [Set Realtime Permanent License] をクリックします。
- 4 Glance Software LTU の恒久ライセンスを有効にするには、右クリックして [スタート] > [HP Operations エージェント] > [Set Glance Permanent License] をクリックします。
- 5 Restart Agent ツールを起動して、すべてのノードに必要なプロセスを開始します。

HPOM for UNIX 8.35 コンソールからの適用

デフォルトの LTU 以外の LTU をノードで有効にするには、oalicense コマンドをノード(またはノードのグループ)で実行するアプリケーション(ツール)を作成する必要があります。新しいツールを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 HPOM for UNIX サーバーにログオンします。
- 2 HPOM for UNIX コンソールにログオンします。
- 3 [OVO 登録アプリケーション] ウィンドウに進みます。
- 4 [アクション] > [アプリケーション] > [Add OVO Application (OVO アプリケーションの追加)] の順にクリックします。[Add OVO Application (OVO アプリケーションの追加)] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 [Add OVO Application (OVO アプリケーションの追加)] ダイアログ ボックスで、次の詳細を指定します。

- [アプリケーション名] ボックスに名前を指定します。
- [アプリケーション呼出] ボックスに **oalicense** と入力します。
- [追加パラメータ] ボックスで、**-set -type PERMANENT “HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU”** と入力して、HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU を有効にします。**-set -type PERMANENT “Glance Software LTU”** と入力して、Glance Software LTU を有効にします。
- [オペレータが選択したターゲット ノード上で実行] オプションを選択します。
- [実行ユーザー] セクションで、ノードで HP Operations エージェントを実行しているユーザーのユーザー名とパスワードを指定します。
- [表示] を [Window (Output only (出力のみ))] に設定します。

6 [OK] をクリックします。

これで、HPOM for UNIX コンソールからアプリケーションを起動できます。ノードでアプリケーションを実行したら、**opcagt -start** コマンドを実行して、必要なプロセスをすべてのノードで起動する必要があります。

評価ライセンスの有効期限の延長

評価ライセンスの有効期限は、60 日間ごとに延長することができます。評価ライセンスの有効期限は 2 回延長できるため、最大 180 日間製品を評価することができます。

評価ライセンスの有効期限を延長するには、次の手順を実行します。

- 1 管理者権限または root 権限でログオンします。
- 2 次のいずれかの手順を実行します。
 - *Windows* の場合
%ovinstalldir%bin の場所に移動します。
 - *HP-UX、Linux、Solaris* の場合
/opt/OV/bin の場所に移動します。
 - *AIX* の場合
/usr/lpp/OV/bin の場所に移動します。
- 3 評価 LTU の状態を確認するには、次のコマンドを実行します。

Windows の場合

```
oalicense -get -all
```

UNIX/Linux の場合

```
./oalicense -get -all
```

このコマンドにより、システムで有効になっているすべての **LTU** の詳細が表示されます。これには、すべての評価ライセンスの状態も含まれます。このコマンドは、詳細を次の形式で表示します。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
<LTU 名>	EVALUATION	<インストール日>	<有効期限>	0

評価期限を過ぎても使用する評価 **LTU** を書き留めます。

- (オプション) コマンドの出力を確認し、(延長する) 評価 **LTU** が **60** 日近く使用されていることを確認します。

▶ インストールから **60** 日間経過していない評価 **LTU** の有効期限を延長する場合、最初の **60** 日の有効期限が実際に終了するまでの残りの日数は破棄されます。評価 **LTU** を延長した日から開始してさらに **60** 日間だけ **LTU** を中断することなく使用できます。ただし、評価 **LTU** の有効期限は **2** 回延長できるため、さらにもう **60** 日間評価製品を使用することができます。

- 次のコマンドを実行します。

Windows の場合

```
oalicense -extend -type EVALUATION "<LTU 名>"
```

UNIX/Linux の場合

```
./oalicense -extend -type EVALUATION "<LTU 名>"
```

この例では、

<LTU 名> は **LTU** の名前です。

- LTU** の状態を確認するには、次のコマンドを実行します。

Windows の場合

```
oalicense -get -all
```

UNIX/Linux の場合

```
./oalicense -get -all
```

このコマンドは、詳細を次の形式で表示します。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
<LTU 名>	EVALUATION	<インストール日>	<有効期限>	1

LTU の有効期限が、元の有効期限よりも **60** 日間延長されたことが分かります。**EXTN** 列は、**LTU** の延長回数を示します。

例

インストール後に **oalicense -get -all** コマンドを実行すると、有効になっている LTU のリストが次の形式で表示されます。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
HP Operations OS Instance Software LTU	EVALUATION	03/Jun/2010	02/Aug/2010	0
HP Glance OS Instance LTU	EVALUATION	03/Jun/2010	02/Aug/2010	0
HP Operations Real-Time UpG OS Instance Software LTU	EVALUATION	03/Jun/2010	02/Aug/2010	0

インストール後に **HP Operations OS Instance Software LTU** を 60 日延長して **oalicense -get -all** コマンドを実行すると、次の出力が表示されます。

LICENSE NAME	TYPE	ACTIVATION	EXPIRY	EXTN
HP Operations OS Instance Software LTU	EVALUATION	03/Jun/2010	02/Oct/2010	1
HP Glance OS Instance LTU	EVALUATION	03/Jun/2010	02/Aug/2010	0
HP Operations Real-Time UpG OS Instance Software LTU	EVALUATION	03/Jun/2010	02/Aug/2010	0

HP Operations エージェント 11.00 へのアップグレード

次のいずれかの製品または製品の組み合わせを、HP Operations エージェント 11.00 にアップグレードできます。

- HP Operations エージェント
- HP Performance Agent
- HP GlancePlus

アップグレードを実行後、古い LTU は自動的に HP Operations エージェント LTU にアップグレードされます。ライセンス メカニズムは、古い製品に使用されている古い LTU を自動的に検出し、新しい LTU にアップグレードします。

表 7 は、古い LTU と新しい LTU の対応表です。

表 7 自動 LTU アップグレード

古い LTU	使用可能な製品または機能	新しい LTU	使用可能な製品または機能
GlancePlus LTU	HP GlancePlus	Glance Software LTU	<ul style="list-style-type: none"> HP GlancePlus RTMA
Performance Agent LTU	HP Performance Agent	HP Operations OS Inst Performance LTU	Performance Collection Component
Glance Pack OS Inst Software LTU	<ul style="list-style-type: none"> HP Performance Agent HP GlancePlus 	<ul style="list-style-type: none"> Glance Software LTU HP Operations OS Inst Performance LTU 	<ul style="list-style-type: none"> Performance Collection Component RTMA HP GlancePlus
Operations Agent LTU	HP Operations エージェント	HP Operations OS Inst Adv SW LTU	<ul style="list-style-type: none"> Operations Monitoring Component Performance Collection Component
OpsPerf Combo LTU	<ul style="list-style-type: none"> HP Operations エージェント HP Performance Agent 	HP Operations OS Inst Adv SW LTU	<ul style="list-style-type: none"> Operations Monitoring Component Performance Collection Component

LTU の自動アップグレード後、oalicense ツールを使用して、異なる LTU をノードで適用することができます。



HPOM コンソールからリモートでエージェントをインストールして HP Operations エージェント 11.00 にアップグレードする場合、HP Operations OS Inst Adv SW LTU (恒久) がノードで有効になります。

恒久ライセンスの削除

恒久ライセンスをノードから削除するには、次の手順を実行します。

- 1 恒久ライセンスが有効になっているノードにログオンします。
- 2 コマンドプロンプト (シェル) を開きます。
- 3 次のコマンドを実行します。

```
oalicense -remove -type PERMANENT <LTU>
```

この例では、<LTU> は LTU の名前です。

このコマンドにより、ノードにある指定した LTU の恒久ライセンスが無効になります。LTU で有効にしたコンポーネントを再度使用するには、`oalicense` コマンドを使用して、LTU の評価ライセンスまたは恒久ライセンスをノードで有効にする必要があります。

または、すべての恒久 LTU を削除するには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -remove -type PERMANENT -all
```

- 4 次のコマンドを実行して、すべてのエージェント プロセスを起動します。

```
opcagt -start
```

既存の LTU の変更

`oalicense` コマンドを使用すると、既存の LTU を別の LTU に変更できます。複数の LTU を同じノードに適用できます。HP Operations エージェント 11.00 にノードをアップグレードすると、アップグレードプロセスは自動的に LTU をアップグレードします。ただし、この場合、ノードで RTM コンポーネントまたは RTMA コンポーネントを有効にするには、`oalicense` ツールを使用する必要があります。

例 1

HP Operations OS Inst Adv SW LTU から HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU への変更

HP Operations エージェント 11.00 を HPOM コンソールからインストールする場合、HP Operations OS Inst Adv SW LTU は自動的に有効になります。RTM コンポーネントまたは RTMA コンポーネントを使用する場合、HP Operations OS Inst Adv SW LTU を HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU に変更する必要があります。HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU に変更するには、次の手順を実行します。

- 1 HP Operations エージェントのインストール後、ノードで次のコマンドを実行し、既存の LTU を表示します。

```
oalicense -get -all
```

- 2 次のコマンドで、HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU を適用します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU"
```

このコマンドにより、LTU が HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU にアップグレードされます。その結果、HP Operations エージェントで RTM コンポーネントと RTMA コンポーネントを使用できます。

例 2

Glance Software LTU から Glance Pak Software LTU への変更

UNIX/Linux ノードのみ。HP GlancePlus の古いバージョンから HP Operations エージェント 11.00 にアップグレードする場合、LTU は自動的に Glance Software LTU にアップグレードされます。HP GlancePlus 11.00 と共に HP Operations エージェント 11.00 の機能を使用する場合、次の手順を実行します。

- 1 HP Operations エージェント 11.00 へのアップグレード後、ノードで次のコマンドを実行し、既存の LTU を表示します。

```
oalicense -get -all
```

このコマンドは Glance Software LTU のリストのみを表示します。

- 2 次のコマンドで、Glance Pak Software LTU を適用します。

```
oalicense -set -type PERMANENT "Glance Pak Software LTU "
```

このコマンドにより、Glance Pak Software LTU が有効になります。

- 3 次のコマンドで、LTU のリストを表示します。

```
oalicense -get -all
```

このコマンドにより、Glance Software LTU と Glance Pak Software LTU のリストが表示されます。

- 4 Glance Pak Software LTU は、HP GlancePlus 11.00 の機能を Performance Collection Component に統合するため、Glance Software LTU を削除できます。Glance Software LTU を削除するには、次のコマンドを実行します。

```
oalicense -remove -type PERMANENT "Glance Software LTU"
```

7 HP Operations エージェントについて

デフォルトでは、HP Operations エージェントに必要なすべてのプロセスとサービスは、インストール後に起動します。エージェントプロセスを手動で起動および停止するには、この章の情報に従ってください。

HP Operations エージェントの起動

HP Operations エージェントを起動するには、次の手順を実行します。

- 1 root 権限 (UNIX) または 管理者権限 (Windows) で HP Operations エージェント ノードにログオンします。
- 2 コマンドプロンプト (シェル) に進みます。
- 3 次のコマンドを実行します。

```
opcagt -start
```

このコマンドにより、HP Operations エージェントのすべてのプロセスが起動します。

- 4 プロセスの状態を確認するには、次のコマンドを実行します。

```
opcagt
```

HP Operations エージェントの停止

HP Operations エージェントを停止するには、次の手順を実行します。

- 1 root 権限 (UNIX) または 管理者権限 (Windows) で HP Operations エージェント ノードにログオンします。
- 2 コマンドプロンプト (シェル) に進みます。
- 3 次のコマンドを実行します。

```
a opcagt -stop
```

```
b ttd -k
```

これらのコマンドにより、HP Operations エージェントのすべてのプロセスが停止します。

- 4 プロセスの状態を確認するには、次のコマンドを実行します。

```
opcagt
```

Operations Monitoring Component の起動と停止

HP Operations エージェント製品の他のコンポーネント (Performance Collection Component など) を起動せずに実行できるのは、HP Operations エージェントの Operations Monitoring Component のみです。

Operations Monitoring Component の起動

HP Operations エージェントの Operations Monitoring Component を起動するには、次の手順を実行します。

- 1 root 権限 (UNIX) または 管理者権限 (Windows) で HP Operations エージェント ノードにログインします。
- 2 コマンドプロンプト (シェル) に進みます。
- 3 次のコマンドを実行します。

```
ovc -start
```

このコマンドにより、Operations Monitoring Component のすべてのプロセスが起動します。

- 4 プロセスの状態を確認するには、次のコマンドを実行します。

```
opcagt
```

Operations Monitoring Component の停止

HP Operations エージェントの Operations Monitoring Component を停止するには、次の手順を実行します。

- 1 root 権限 (UNIX) または 管理者権限 (Windows) で HP Operations エージェント ノードにログインします。
- 2 コマンドプロンプト (シェル) に進みます。
- 3 次のコマンドを実行します。

```
ovc -stop
```

このコマンドにより、Operations Monitoring Component のすべてのプロセスが停止します。

- 4 プロセスの状態を確認するには、次のコマンドを実行します。

```
opcagt
```


A インストールのトラブルシューティング

ここでは、HP Operations エージェント 11.00 をインストール/削除するときによく見られる問題の対策または回避策について説明します。ここで説明する主な領域は以下のとおりです。

- 管理サーバーへの HP Operations エージェント配布パッケージのインストール
- 管理サーバーからの HP Operations エージェント配布パッケージの削除
- ノードへの HP Operations エージェントのインストール

HP Operations エージェント配布パッケージのインストール

- **oainstall** コマンドを実行して HP Operations エージェント 11.00 配布パッケージのインストールを試みると、処理が先に進まずにインストールプロセスが終了してしまう

考えられる原因:

- 原因 1: ディスク容量が不足している
- 原因 2: ユーザーに管理権限またはルート権限がない
- 原因 3: HP Operations エージェント 11.00 がサポートしていないプラットフォームを使用している
- 原因 4: HPOM が実行されていない

対策:

- 対策 1: システムに十分なディスク容量があることを確認します (16 ページの「前提条件」を参照)
- 対策 2: 管理権限またはルート権限を持つユーザーとしてログオンします
- 対策 3: HP Operations エージェント 11.00 がサポートしているプラットフォームであることを確認します
- 対策 4: HPOM が実行されていることを確認します

HP Operations エージェント配布パッケージの削除

oainstall コマンドを実行して HP Operations エージェント配布パッケージの削除を試みると、処理が先に進まずに削除プロセスが終了してしまう

考えられる原因:

- 原因 1: ユーザーに管理権限またはルート権限がない

- 原因 2: 指定したバージョンが見つからない

対策:

- 対策 1: 管理権限またはルート権限を持つユーザーとしてログオンします
- 対策 2: 指定したバージョンの HP Operations エージェント配布パッケージが管理サーバー上に存在することを確認します。システムに存在するすべてのパッケージ (アクティブおよびバックアップ済み) の詳細を確認するには、以下のコマンドを実行します

HPOM for Windows 管理サーバーの場合:

```
%OvInstallDir%\bin\OpC\agtinstall\cscript oainstall.vbs -inv -listall
```

HPOM for UNIX/Linux 管理サーバーの場合:

```
/opt/OV/bin/OpC/agtinstall/oainstall.sh -inv -listall
```

HP Operations エージェントのインストール

- ノードで **oainstall** コマンドを実行すると、処理が先に進まずにインストールプロセスが終了してしまう

考えられる原因:

- 原因 1: ディスク容量が不足している
- 原因 2: ユーザーに管理権限またはルート権限がない
- 原因 3: 指定した管理サーバーまたは証明書サーバーが無効である

対策:

- 対策 1: システムに十分なディスク容量があることを確認します (29 ページの「前提条件」を参照)
- 対策 2: 管理権限を持つユーザーとしてログオンするか、該当ユーザーに管理権限を付与します
- 対策 3: 指定した管理サーバーまたは証明書サーバーが有効であることを確認します

- 以下のエラーメッセージが出力され、HP Operations エージェントのインストールが停止する

```
The service "lanmanserver" is not running on the system. This service is required to run this tool.
```

原因:

システムで lanmanserver サービスが実行されていない。oainstall および oasetup プログラムは、このサービスに依存しています

対策:

この問題を解決するには、コマンド実行プロンプトに「**services.msc**」と入力して [Services] ウィンドウを表示し、**Server** サービスを起動します。

- **HP Operations** エージェントのインストール プロセスが突然停止する

原因:

エージェントがシステムに完全にインストールされる前に、誤って `oainstall` プログラムが停止された、または、エージェントのリモート インストールの完了前に **HPOM** コンソールからインストールが停止された

対策:

不完全にインストールされたエージェントを削除する必要があります。エージェントを削除するには、`-clean` オプションを指定して `oainstall` プログラムを実行します。たとえば、**`oainstall.sh -r -a -clean`** のように実行します。このオプションは、インストール ディレクトリとデータ ディレクトリの内容を削除します。

`-clean` オプションを使ってエージェントを削除したら、エージェントのインストールを再開できます。

- 以下のエラー メッセージが出力され、**HP Operations** エージェントのインストールが失敗する

```
ERROR: Configuration failed for the component package HPOvSecCo
```

原因:

このエラーは、システムの **IP** アドレスがホスト名にマッピングされていない場合に表示される

対策:

インストールの前に、システムの **IP** アドレスがシステムのホスト名にマッピングされていることを確認してください。

B コマンドラインユーティリティ

oainstall.vbs

名前

Windows での HP Operations エージェントのインストーラ プログラムです。

コマンド一覧

```
cscript oainstall.vbs -i|-install -m|-mgmt [-p|-platform <プラットフォーム>]
cscript oainstall.vbs -i|-install -a|-agent [-minprecheck] [-s|-srv
<管理サーバー名> [-cs|-cert_srv <証明書サーバー名>]] [-install_dir <パス>]
[-data_dir
<パス>] [manual_start_on_reboot]
cscript oainstall.vbs -i|-install -a|-agent [-minprecheck] [-defer_configure]
cscript oainstall.vbs -i|-install -a|-agent [-minprecheck] -agent_profile
<ファイル名>
cscript oainstall.vbs -i|-install -a|-agent -precheckonly
cscript oainstall.vbs -i|-install -a|-agent -enabletrace ALL
cscript oainstall.vbs -a -configure -s|-srv <管理サーバー名> [-cs|-cert_srv
<証明書サーバー名>]
cscript oainstall.vbs -a -configure -agent_profile <ファイル名>
cscript oainstall.vbs -a -configure -enabletrace <アプリケーション名>
cscript oainstall.vbs -a -configure -activateonly
cscript oainstall.vbs -r|-remove -m|-mgmt -v|-version <バージョン>
-p|-platform <プラットフォーム>
cscript oainstall.vbs -r|-remove -a|-agent [-clean]
cscript oainstall.vbs -inv|-inventory [-listall]
cscript oainstall.vbs [-h|-help]
```

説明

oainstall.vbs ユーティリティは、Windows システムでの HP Operations エージェント製品または配布パッケージのインストールに役立ちます。

パラメータ

-i|-install

システムに HP Operations エージェントをインストールするか、または管理サーバーのエージェント インベントリに HP Operations エージェントの配布パッケージをアップロードします。

-r|-remove

システムから **HP Operations** エージェントを削除するか、または管理サーバーのエージェント インベントリから **HP Operations** エージェントの配布パッケージを削除します。

-clean

エージェントの削除中に、インストールの内容とデータ ディレクトリを削除します。スクリプトでエージェントを削除した後も、システムには空のディレクトリが残ります。

-inv|inventory

管理サーバーで利用可能な配布パッケージのアクティブ バージョンを表示できます。

-listall

管理サーバーで利用可能な配布パッケージのアクティブ バージョンとバックアップ バージョンを表示できます。

-m|-mgmt

「-install」 オプションと共に使用すると、**HP Operations** エージェントの配布パッケージを管理サーバーのエージェント インベントリにアップロードします。-remove オプションと共に使用すると、**HP Operations** エージェントの配布パッケージを管理サーバーのエージェント インベントリから削除します。

-a|-agent

-install オプションと共に使用すると、**HP Operations** エージェントをシステムにインストールします。-remove オプションと共に使用すると、**HP Operations** エージェントをシステムから削除します。

-v|-version

管理サーバーのエージェント インベントリから削除するプラットフォーム固有のパッケージのアクティブ バージョンまたはバックアップ バージョンを指定します。

-p|-platform <プラットフォーム>

管理サーバーのエージェント インベントリにアップロードまたは削除するプラットフォーム固有のパッケージを指定します。設定可能な値は次のとおりです。

HP-UX **HP-UX** ノードのパッケージをアップロードまたは削除します。

SOL **Solaris** ノードのパッケージをアップロードまたは削除します。

AIX **AIX** ノードのパッケージをアップロードまたは削除します。

LIN **Linux** ノードのパッケージをアップロードまたは削除します。

WIN **Windows** ノードのパッケージをアップロードまたは削除します。

ALL すべてのノード タイプのパッケージをアップロードまたは削除します。

コマンドには、プラットフォーム固有のパッケージを複数指定できます。たとえば、次のようになります。**cscrip oainstall.vbs -install -mgmt -p LIN -p SOL**

-s| -srv <管理サーバー名>

HP Operations エージェントのシステムへのインストール中、このオプションで指定したシステムをプライマリの管理サーバーとして設定します。複数の管理サーバーの詳細情報を指定した場合は、コマンドの最後に指定した管理サーバーの情報のみが受け付けられます。

`-cs|-cert_srv <証明書サーバー名>`

HP Operations エージェントのシステムへのインストール中、このオプションで指定したシステムを証明書サーバーとして設定します。インストール後、証明書要求は自動的にこの証明書サーバーに送信されます。複数の証明書サーバーの詳細情報を指定した場合は、コマンドの最後に指定した証明書サーバーの情報のみが受け付けられます。

`-install_dir`

ノードでの **HP Operations** エージェントのインストール ディレクトリを設定します。

`-data_dir`

ノードでの **HP Operations** エージェントのデータ ディレクトリを設定します。

`-defer_configure`

管理サーバー パラメータ、証明書サーバー パラメータ、またはその他のエージェントの設定パラメータを設定せずに、エージェントをノードにインストールします。

`-configure`

すでにインストールされているエージェントを設定します。

`-activateonly`

エージェントが別の管理サーバーまたは証明書サーバーと連携するように設定します。

`-agent_profile`

指定したプロファイル ファイルで利用可能な詳細を使用して、エージェントをインストールおよび設定します。

`-manual_start_on_reboot`

システムが再起動してもエージェントが自動的に開始しないように設定します。

`-precheckonly`

前提条件チェックのみをノードで実行します。このオプションは、オペレーティング システム、アーキテクチャ タイプ、使用可能パッチ、必要ライブラリ、製品の稼働に必要なソフトウェアをチェックします。

`-minprecheck`

前提条件チェックの大部分を省略し、インストール中にノードのオペレーティング システムとアーキテクチャ タイプのみをチェックします。

`-enabletrace ALL`

インストール中にトレース ユーティリティを有効にし、トレース ファイルを `C:\Temp` に生成します。

`-h|-help`

ヘルプ メッセージを表示します。

作成者

`oainstall.vbs` は **Hewlett-Packard** によって開発されました。

oainstall.sh

名前

UNIX/Linux での HP Operations エージェントのインストーラ プログラムです。

コマンド一覧

```
oainstall.sh -i|-install -m|-mgmt [-p|-platform <プラットフォーム>]
oainstall.sh -i|-install -a|-agent [-minprecheck] [-s|-srv <管理サーバー名>
[-cs|-cert_srv <証明書サーバー名>]] [-manual_start_on_reboot]
oainstall.sh -i|-install -a|-agent [-minprecheck] [-defer_configure]
oainstall.sh -i|-install -a|-agent [-minprecheck] -agent_profile <ファイル名>
oainstall.sh -i|-install -a|-agent -enabletrace ALL
oainstall.sh -i|-install -a|-agent -precheckonly
oainstall.sh -a -configure -s|-srv <管理サーバー名> [-cs|-cert_srv
<証明書サーバー名>]
oainstall.sh -a -configure -agent_profile <ファイル名>
oainstall.sh -a -configure -enabletrace ALL
oainstall.sh -a -configure -activateonly
oainstall.sh -r|-remove -m|-mgmt -v|-version <バージョン> -p|-platform
<プラットフォーム>
oainstall.sh -r|-remove -a|-agent [-clean]
oainstall.sh -inv|-inventory [-listall]
oainstall.sh [-h|-help]
```

説明

oainstall.sh ユーティリティは、UNIX/Linux システムでの HP Operations エージェント製品または配布パッケージのインストールに役立ちます。

パラメータ

-i|-install

システムに HP Operations エージェントをインストールするか、または管理サーバーのエージェント インベントリに HP Operations エージェントの配布パッケージをアップロードします。

-r|-remove

システムから HP Operations エージェントを削除するか、または管理サーバーのエージェント インベントリから HP Operations エージェントの配布パッケージを削除します。

-clean

エージェントの削除中に、インストールの内容とデータ ディレクトリを削除します。スクリプトでエージェントを削除した後も、システムには空のディレクトリが残ります。

-inv|inventory

管理サーバーで利用可能な配布パッケージのアクティブ バージョンを表示できます。

-listall

管理サーバーで利用可能な配布パッケージのアクティブバージョンとバックアップバージョンを表示できます。

-m|-mgmt

「-install」オプションと共に使用すると、**HP Operations** エージェントの配布パッケージを管理サーバーのエージェント インベントリにアップロードします。「-remove」オプションと共に使用すると、**HP Operations** エージェントの配布パッケージを管理サーバーのエージェント インベントリから削除します。

-a|-agent

-install オプションと共に使用すると、**HP Operations** エージェントをシステムにインストールします。-remove オプションと共に使用すると、**HP Operations** エージェントをシステムから削除します。

-v|-version

管理サーバーのエージェント インベントリから削除するプラットフォーム固有のパッケージのアクティブバージョンまたはバックアップバージョンを指定します。

-p|-platform < プラットフォーム >

管理サーバーのエージェント インベントリにアップロードまたは削除するプラットフォーム固有のパッケージを指定します。設定可能な値は次のとおりです。

HP-UX **HP-UX** ノードのパッケージをアップロードまたは削除します。

SOL **Solaris** ノードのパッケージをアップロードまたは削除します。

AIX **AIX** ノードのパッケージをアップロードまたは削除します。

LIN **Linux** ノードのパッケージをアップロードまたは削除します。

WIN **Windows** ノードのパッケージをアップロードまたは削除します。

ALL すべてのノード タイプのパッケージをアップロードまたは削除します。

コマンドには、プラットフォーム固有のパッケージを複数指定できます。たとえば、次のようになります。**oainstall.sh -install -mgmt -p LIN -p SOL**

-s| -srv < 管理サーバー名 >

HP Operations エージェントのシステムへのインストール中、このオプションで指定したシステムをプライマリの管理サーバーとして設定します。複数の管理サーバーの詳細情報を指定した場合は、コマンドの最後に指定した管理サーバーの情報のみが受け付けられます。

-cs|-cert_srv < 証明書サーバー名 >

HP Operations エージェントのシステムへのインストール中、このオプションで指定したシステムを証明書サーバーとして設定します。インストール後、証明書要求は自動的にこの証明書サーバーに送信されます。複数の証明書サーバーの詳細情報を指定した場合は、コマンドの最後に指定した証明書サーバーの情報のみが受け付けられます。

-defer_configure

管理サーバー パラメータ、証明書サーバー パラメータ、またはその他のエージェントの設定パラメータを設定せずに、エージェントをノードにインストールします。

-configure

すでにインストールされているエージェントを設定します。

`-activateonly`

エージェントが別の管理サーバーまたは証明書サーバーと連携するように設定します。

`-agent_profile`

指定したプロファイル ファイルで利用可能な詳細を使用して、エージェントをインストールおよび設定します。

`-manual_start_on_reboot`

システムが再起動してもエージェントが自動的に開始しないように設定します。

`-precheckonly`

前提条件チェックのみをノードで実行します。このオプションは、オペレーティング システム、アーキテクチャ タイプ、使用可能パッチ、必要ライブラリ、製品の稼働に必要なソフトウェアをチェックします。

`-minprecheck`

前提条件チェックの大部分を省略し、インストール中にノードのオペレーティング システムとアーキテクチャ タイプのみをチェックします。

`-enabletrace ALL`

インストール中にトレース ユーティリティを有効にし、トレース ファイルを `/var/opt/OV/tmp` に生成します。

`-h|-help`

ヘルプ メッセージを表示します。

作成者

`oainstall.sh` は Hewlett-Packard によって開発されました。

oalicense

名前

`oalicense ñ HP Operations` エージェントのライセンス ユーティリティです。

コマンド一覧

```
oalicense -set -type PERMANENT|EVAL <LTU>
```

```
oalicense -extend EVALUATION <LTU>
```

```
oalicense -get -all|<LTU>
```

```
oalicense -describe -type <タイプ> <LTU>
```

```
oalicense -listdefinedlicenses|-ld
```

```
oalicense -check <エンティティ>
```

```
oalicense -resolve
```

```
oalicense -remove -type <タイプ> <LTU>
```

```
oalicense -remove -type PERMANENT -all
```

```
oalicense -expiryAlerts
```

説明

oalicense ユーティリティは、HP Operations エージェント製品の恒久ライセンスを有効にするために役立ちます。

パラメータ

oalicense では、次のオプションを使用できます。

-h|-help

oalicense コマンドで利用可能なオプションとその説明を表示します。

-v|-version

oalicense ユーティリティのバージョンを表示します。

-set

HP Operations エージェントの恒久ライセンスまたは評価ライセンスをノードに設定します。ライセンスを有効にするには、必要なオプションと共に、使用ライセンス (LTU) を引数として指定します。LTU 名にスペースが含まれている場合は、名前を引用符 (") で囲んで指定します。「-set」オプションのみを指定してコマンドを実行する場合、oalicense ユーティリティはそのコマンドで指定した LTU を恒久的に有効にします。LTU を評価モードで有効にするには、「-eval」オプションを指定してコマンドを実行します。

-extend EVALUATION

評価ライセンスをさらに 60 日間延長するには、-extend パラメータと共に EVALUATION パラメータを使用します。

-get

「-all」オプションと共に使用すると、すべての LTU の詳細を表示します。「-get」オプションの引数として LTU を指定すると、oalicense ユーティリティは指定した LTU のみの詳細を表示します。

-check < エンティティ >

HP Operations エージェント コンポーネントのライセンス ステータスを表示します。ライセンス ユーティリティを使用することで、HP Operations エージェントの Operations Monitoring Component、Performance Collection Component、リアルタイム計測 (RTM) コンポーネント、リアルタイム メトリック アクセス (RTMA) コンポーネント、GlancePlus を有効化できます。

このユーティリティを使用する場合は、コマンドラインで常に以下の引数を使用します。

- Operations Monitoring Component: OA
- Performance Collection Component: PA
- リアルタイム メトリック アクセス コンポーネント: RTMA
- リアルタイム計測コンポーネント: RTM
- GlancePlus: Glance

-resolve

LTU を有効化するときに、誤って一部のコンポーネントを 2 回アクティブ化した (2 つの異なる LTU を有効化した) 場合は、**-resolve** パラメータを使用することで、必要な機能が提供されるように LTU (または LTU の組み合わせ) を設定できます。

-describe

指定した LTU (LTU によって有効にされたコンポーネントのリストも含む) の詳細を表示します。

-listdefinedlicenses

すべての利用可能な LTU を表示します。

-remove

選択した LTU で提供される機能を無効にします。

-expiryAlerts

評価ライセンスの残りの有効日数を出力します。

作成者

oalicense は Hewlett-Packard によって開発されました。

例

次の例で、oalicense コマンドの使用方法について説明します。

- HP Operations OS Instance Software LTU の恒久ライセンスをノードで有効にするには
oalicense -set -type PERMANENT "HP Operations OS Instance Software LTU"
- HP Glance OS Instance LTU の評価ライセンスをノードで有効にするには
oalicense -set -type EVAL "HP Glance OS Instance LTU" -eval
- ノード上の HP Operations OS Instance Software LTU の詳細を表示するには
oalicense -get "HP Operations OS Instance Software LTU"

このコマンドは、LTU の詳細を次の形式で表示します。

LTU NAME	TYPE	ACTIVATED DATE	VALID TILL	EXTEND COUNT
HP Operations OS Instance Software LTU	Extended	09/08/2009	11/08/2009	1

C インストーラの比較

HP Operations エージェント 11.00 は、その前身である HP Operations エージェント 8.60 と HP Performance Agent 5.00 の機能を統合します。HP Operations エージェントのインストーラプログラムである `oainstall` により、HP Operations エージェント 8.53 および 8.60 をバージョン 11.00 にアップグレードできます。HP Operations エージェント 11.00 には HP Performance Agent の機能が含まれているため、`oainstall` プログラムを使用して HP Performance Agent 4.70 または 5.00 を HP Operations エージェント 11.00 にアップグレードできます。これにより、HP Operations エージェントのコンポーネントが HP Performance Agent のノードに導入されます。

ただし、`oainstall` プログラムの動作は、`opc_inst` プログラム (HP Operations エージェント 8.x のインストーラ) および `ovpa.install` プログラム (HP Performance Agent のインストーラ) とは異なります。この章では、`oainstall`、`opc_inst`、`ovpa.install` の各プログラムの主要な相違を説明します。

HP Operations エージェント 8.x のインストーラ プログラムの比較

HP Operations エージェント 8.x の `opc_inst` スクリプトと同様、HP Operations エージェント 11.00 の `oainstall` スクリプトは、2 つの形式で提供されています。Windows プラットフォーム用の `oainstall.vbs` と UNIX プラットフォーム用の `oainstall.sh` です。`oainstall.vbs` スクリプトと `oainstall.sh` スクリプトは、HP Operations エージェント 11.00 メディアのルートにあります。ノードにエージェントをインストールしたら、スクリプトはノードの次の場所で見つかります。

- *Windows 64 ビット ノードの場合*
`%ovinstalldir%\bin\win64\OpC\install`
- *その他の Windows ノードの場合*
`%ovinstalldir%\bin\OpC\install`
- *HP-UX、Linux、Solaris の場合:*
`/opt/OV/bin/OpC/install`
- *AIX の場合*
`/usr/lpp/OV/bin/OpC/install`

表 8 opc_inst スクリプトとの比較

説明	HP Operations エージェント 11.00	HP Operations エージェント 8.x
ノードに HP Operations エージェントをインストールする。	-i -install -a -agent -srv <> -cert_srv <>。 -i オプションを -a オプションと共に使用すると、oainstall プログラムはノードにコンポーネントをインストールします。	なし。HP Operations エージェント 8.x の opc_inst スクリプトには、インストール専用のオプションはありません。-srv オプションを指定してスクリプトを実行すると、インストールが開始します。
プロファイル ファイルを使用してノードに HP Operations エージェントをインストールする。	-agent_profile。このオプションを使用すると、プロファイル ファイルに指定されている構成設定を使用して、エージェントをインストールおよび起動できます。	-configure。opc_inst スクリプトの -configure オプションを使用すると、プロファイル ファイルに指定されている構成設定を使用して、エージェントをインストールおよび起動できます。
HP Operations エージェントを設定する。	-configure。このオプションを使用すると、次の詳細を指定して、ノードで使用可能なエージェントを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 管理サーバー • 証明書サーバー 特定の管理サーバーおよび証明書サーバーのセットが指定されているエージェントの実行後に、異なるサーバー セットを使用する場合、このオプションを使用できます。	opc_inst スクリプトの -configure オプションは、以前はプロファイル ファイルを使用してエージェントをインストールするための完全に異なった目的で使用されていました。ただし、HP Operations エージェント 8.x では、opcactivate スクリプトを使用することで、すでにインストールされているエージェントの管理サーバーまたは証明書サーバーを変更できる環境が用意されていました。

表 8 opc_inst スクリプトとの比較

説明	HP Operations エージェント 11.00	HP Operations エージェント 8.x
エージェントの構成パラメータ（管理サーバーなど）を変更する。	HP Operations エージェント 11.00 がすでにインストールされている管理サーバーや証明書サーバーなどの構成パラメータをノードで変更するには、oainstall プログラムの -configure オプションを使用します。この作業には、-f オプションを使用する必要がありません。	opcactivate スクリプトの -configure オプションを使用すると、HP Operations エージェント 8.x 搭載のノードでこれらのパラメータを変更するのに役立ちます。この場合、-configure オプションと共に -f オプションを使用する必要があります。
エージェントはインストールするが起動しない。	-defer_configure。このオプションは必要なパッケージをノードに配置しますが、いずれのエージェントプロセスおよびサービスも起動しません。このオプションを使用する場合、-configure オプションを使用して、エージェントのオペレーションを後で起動する必要があります。	-no_start。このオプションは必要なパッケージをノードに配置しますが、いずれのエージェントプロセスおよびサービスも起動しません。
ノードから HP Operations エージェントを削除する。	-r -remove -a -agent。-r および -a オプションを組み合わせて指定すると、oainstall プログラムはノードからエージェント コンポーネントを削除します。	-r。-r オプションと共に使用すると、opc_inst プログラムはノードからエージェント コンポーネントを削除します。

HP Performance Agent のインストーラ プログラムの比較

HP Performance Agent では、プラットフォームによって異なるインストールメカニズムを使用します。Windows では、HP Performance Agent メディアにある setup.exe ファイルを使用して、ウィザードから製品をインストールします。HP-UX では、HP-UX オペレーティングシステムに付属する swinstall ユーティリティを使用して、HP Performance Agent をインストールします。その他の UNIX/Linux プラットフォームでは、HP Performance Agent メディアにある ovpa.install スクリプトを使用して、ノードに製品をインストールします。

表 9 ovpa.install スクリプトとの比較

説明	HP Operations エージェント 11.00	HP Performance Agent
ノードに HP Operations エージェントをインストールする。	-i -install -a -agent。 -i オプションを -a オプションと共に使用すると、oainstall プログラムはノードにコンポーネントをインストールします。	HP Performance Agent の ovpa.install スクリプトには、インストール専用のオプションはありません。
プロファイル ファイルを使用してノードに HP Operations エージェントをインストールする。	-agent_profile。このオプションを使用すると、プロファイル ファイルに指定されている構成設定を使用して、エージェントをインストールおよび起動できます。	なし。
エージェントはインストールするが起動しない。	-defer_configure。このオプションは必要なパッケージをノードに配置しますが、いずれのエージェントプロセスおよびサービスも起動しません。このオプションを使用する場合、-configure オプションを使用して、エージェントのオペレーションを後で起動する必要があります。	Linux では ovpa.install の -n、Solaris および AIX では ovpa.install の -r。このオプションは必要なパッケージをノードに配置しますが、いずれのプロセスおよびサービスも起動しません。
ノードから HP Operations エージェントを削除する。	-r -remove。-r オプションと共に使用すると、oainstall プログラムはノードからエージェント コンポーネントを削除します。	HP Performance Agent には、製品を削除する ovpa.remove スクリプトが用意されています。

索引

C

coda, 71

E

EPC, 71

H

HA

エージェントのインストール, 64
配布パッケージのインストール, 22

HPOM, 13

HP Operations エージェント
インストール, 29

L

LTU, 78

M

Measurement Threshold ポリシー, 72

O

oainstall.sh, 104
oainstall.vbs, 101
oainstall_sync, 22
oalicense, 106
opc_inst, 109
ovpa.install, 111

S

scope, 71
syncwpar, 64

V

vMA, 62

W

WPAR, 64

い

インストール
前提条件, 29
ノード, 29
配布パッケージ, 15
インベントリ, 23

え

エージェント配布パッケージ
HA, 22
インストール, 15
削除, 25
バックアップ, 23

か

カーネル
Solaris, 36
環境変数, 67

き

起動, 95

け

計画, 13

す

スタンドアロン システム, 13

せ

前提条件
管理サーバー, 16
ノード, 29

て

停止, 95
データ収集, 71
データ ストア, 71

と

トラブルシューティング , 97
トレース機能 , 66

の

ノードのディスク領域
 HP-UX, 34
 Linux, 33
 Solaris, 37
 Windows, 30, 31

ノードへのインストール
 検証 , 68
 手動 , 45
 スタンドアロン , 60
 プロファイルによる , 56
 ログ ファイル , 68

は

配布パッケージ , 15
 HPOM for UNIX, 20
 HPOM for Windows, 16
 前提条件 , 16
バックアップ , 23
パッケージ , 67
パッチ
 HP-UX, 34
 Solaris, 36
パラメータ
 設定 , 51, 56

ひ

比較 , 109
表示
 配布ジョブ , 17
 パッケージの詳細 , 23

ふ

プロファイル
 UNIX/Linux 管理サーバー , 57
 Windows 管理サーバー , 56

め

メトリック , 71

ゆ

ユーザー
 PMAD, 40
 偽装 , 40
 ユーザーの変更 , 45

ら

ライセンス , 77
ライセンスのタイプ , 77